

JICA中部 2019年度

開発教育指導者研修 報告書



独立行政法人国際協力機構 中部センター（JICA中部）

目次

巻頭グラフ

I 開発教育指導者研修の概要 -----	1
1 ● 開発教育指導者研修の目的	
2 ● 「実践編」の概要	
3 ● 「初級編」の概要（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県浜松）	
II 開発教育指導者研修（実践編）第1回 -----	6
6 ● 開催概要、第1回のねらい	
6 ● プログラムの内容	
III 開発教育指導者研修（実践編）第2回 -----	14
14 ● 開催概要、第2回のねらい	
14 ● プログラムの内容	
IV 開発教育指導者研修（実践編）第3回 -----	23
23 ● 開催概要、第3回のねらい	
23 ● プログラムの内容	
V 中間会合 -----	32
32 ● 実践体験ワークショップ検討会の内容	
33 ● 実践フォローアップの内容	
VI 実践報告シート -----	34
34 ● 実践報告シート一覧	
35 ● 実践報告シート	
VII 開発教育指導者研修（実践編）第4回 -----	74
74 ● 開催概要、第4回のねらい	
74 ● プログラムの内容	
VIII 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム2020 -----	80
80 ● 開催概要、開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム2020のねらい	
80 ● プログラムの内容	
83 ● 実践体験ワークショップの内容	
87 ● ふりかえりシート	
IX 研修全体のふりかえり・評価 -----	89
89 ● 研修の期待と満足度について	
89 ● 研修を受けた自分自身の意識の変化について	
90 ● 開発教育・国際理解教育の実践について	
93 ● 学習者の変化や周りへの波及効果について	
96 ● 全体を通して	
98 ● 研修・実践報告フォーラムをより良くするための提案	

研修の様子～第1回 開発教育指導者研修(実践編) <6月>



▲全体アイスブレイキング「名前だけの自己紹介」



▲自己紹介「インタビューゲーム」



▲あなたも写真家～理解に近づくために必要なこと!?

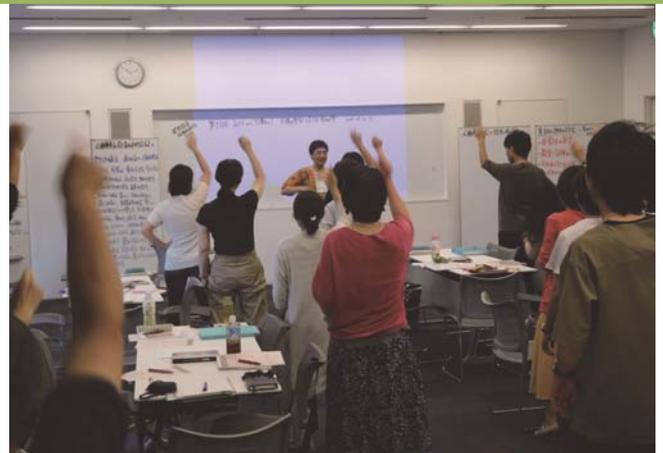


▲世界の子どもたちのストーリーとSDGs

研修の様子～第2回 開発教育指導者研修(実践編) <7月>



▲「貧困」を自分の言葉で説明



▲受講者によるアイスブレイク提供



▲持続可能な〇〇をデザインしよう! <発散>



▲持続可能な〇〇をデザインしよう! <収束>

研修の様子～第3回 開発教育指導者研修(実践編) <8月>



▲貧困を自分の言葉で説明しよう



▲教師海外研修報告



▲参加型プログラムを作ろう

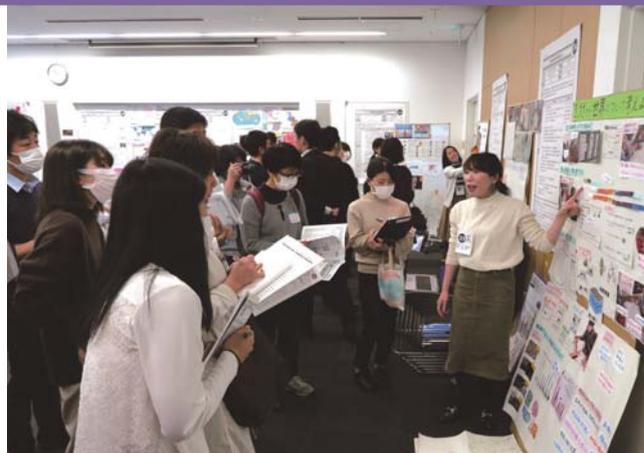


▲プログラム発表、ファシリテーション実践

研修の様子～第4回 開発教育指導者研修(実践編)/実践報告フォーラム2020 <2月>



▲第4回研修：受講者実践の共有



▲実践報告フォーラム：実践報告ポスターセッション



▲実践報告フォーラム：実践体験ワークショップ



▲実践報告フォーラム：つながりワークショップ

■ 「実践編」の概要

- (1) 日 時 第1回 2019年6月15日(土) 13:00~17:22-16(日) 10:00~15:19
 第2回 2019年7月20日(土) 13:00~17:23-21(日) 10:00~15:08
 第3回 2019年8月24日(土) 13:00~17:15-25(日) 10:00~17:20
 第4回 2020年2月15日(土) 10:00~18:00
 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム2020(以下、実践報告フォーラム2020)
 2020年2月16日(日) 第1部 10:00~15:50/第2部 16:05~17:40
- (2) 場 所 JICA 中部 なごや地球ひろばセミナールーム
- (3) 対 象 国公立、私立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校、
 特別支援学校の教師及び教育委員会の指導主事等、地域国際化協会職員、
 NPO/NGO スタッフ、JICA 海外協力隊経験者等
- (4) 運営委託先 (特活) NIED・国際理解教育センター
- (5) 後 援 愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、三重県教育委員会、静岡県教育委員会、
 名古屋市教育委員会、静岡市教育委員会、浜松市教育委員会
- (6) 参加者数 39名(うち10名は教師海外研修受講者)、他JICA スタッフ等も参加
 実践報告フォーラム2020:130名(一般参加者)
- (7) 参加費 無料
- (8) 講 師 (特活) NIED・国際理解教育センター代表 伊沢令子
- (9) 内 容 ねらい、プログラムは、次のとおり

◆ ねらい

- 4回の研修とフォーラムを通して、受講者自らが開発教育の学び方を体験的に学ぶ。
- 開発教育の目的、扱う内容、参加型手法の理解を深め、実践者としてのスキルアップを図る。
- 開発教育の中核的指導者として、この教育を広げつなぐための具体的手立てを見出す。

◆ 第1回：『開発教育の目的、内容、方法についての概論』

- ① 研修の全体像を理解し、各自の参加の目的をふりかえり、共に学び合う仲間同士知り合う。
- ② SDGs に関するアクティビティを体験し、自分たちが生きる社会の現状と課題を把握する。
- ③ 開発教育の目的、内容、方法についての理解を深め、教育と教育者の使命を今一度確認する。

◆ 第2回：『気づきから行動へ！行動変容を支える参加型』

- ① 開発教育の中心テーマである「人権」と「環境」について、参加型で学びあう流れを体験する。
- ② 「〇〇についての教育」から「〇〇のための教育」へシフトし、気づきを行動へとつなぐ必要性を共有する。
- ③ 「学んだ側の態度と行動が変わる」最終目標を確認し、人の行動変容を支える参加型の方法論を学ぶ。

◆ 第3回：『楽しく学ぶことから学ぶことが楽しくなる！参加型のデザイン』

- ① 開発教育の中心テーマである「貧困」について、参加型で学びあう基本的な流れを体験する。
- ② 学習者の意識に沿った参加型プログラムの作り方について学ぶ。
- ③ 実際にプログラムを作り、ファシリテーターとしてプログラムを実施する練習をする。
- ④ 第3回後から第4回・実践報告フォーラム2020までの動きと必要な準備等を理解する。

- ◆ 第4回：『ここからはじまる持続可能な未来！ひろがりつながる開発教育の可能性！』
- ① 第1回～第3回の研修をふりかえり、各自が学んだことや変化したことを意識化し共有する。
 - ② 仲間の実践の成果と課題から学びあい、開発教育の意義と可能性を確認共有する。
 - ③ 開発教育を通して学んだことを一般に向けて発表し、学びの好循環を作る「はじめの一步」を踏み出す準備を行う。
- ◆ 実践報告フォーラム 2020 『ヒントが見つかる！仲間に出会える！』
- ① 【受講者】 実践報告、モデルプログラムのファシリテートと参加者との意見交換を通して、実践の自己確認、総括を行い、ネクストステップへの意欲を高める。
 - ② 【参加者】 実践者の成果と課題を共有し、自らの実践のヒントとネットワークを得てもらう。
 - ③ 【主催者】 国際理解教育・開発教育を推進し、研修事業の次の参加者を広げる。

■ 「初級編（愛知県）」の概要

- (1) 事業名 開発教育指導者研修初級編（愛知県）
- (2) 日時 2020年3月14日（土）13：00～17：30→2020年5月9日（土）に延期
- (3) 場所 JICA 中部なごや地球ひろば
- (4) 主催 JICA 中部
- (5) 参加者 未定
- (6) 参加費 無料
- (7) 内容 テーマ、プログラムは以下のとおり

テーマ：どうしたらいいの？開発教育ー知り、気づき、行動するー

- ① 講義「開発教育とは？参加型手法って何がいいの？？」
・アイスブレイクをやってみよう
講師：津島東小学校 教諭 近藤 勝士
- ② ワークショップ体験 ①人権（中学生向け）
講師：大治南小学校 教諭 児玉 やこ
- ③ ワークショップ体験 ②環境（小学生向け）
講師：津島東小学校 教諭 宮川 勇作
- ④ 「パネルトーク」～実践経験や教科横断型のアイデアを学ぶ～
パネリスト：津島東小学校 教諭 近藤 勝士
大治南小学校 教諭 児玉 やこ
津島東小学校 教諭 宮川 勇作
- ⑤ JICA 中部より事業案内

■ 「初級編（岐阜県）」の概要

- (1) 事業名 開発教育指導者研修初級編（岐阜県）
岐阜県総合教育センター「国際理解教育講座」

- (2) 日時 2019年8月23日(金) 9:30~16:00
- (3) 場所 岐阜県総合教育センター
- (4) 主催 岐阜県教育委員会、JICA 中部
- (5) 参加者 15名
- (6) 参加費 無料
- (7) 内容 テーマ、プログラムは以下のとおり

テーマ：国際理解教育講座

- ⑥ 演習「国際理解教育ワークショップ」
～参加型手法を用いたワークショップを行い、世界だけでなく身近な社会、自己や他者への理解を深める手法の紹介～
講師：海津市立下多度小学校 教諭 梶山 紗希
- ⑦ JICA 岐阜デスクより事業案内
- ⑧ 講義「JICA 国際協力出前講座を体験してみよう！」～青年海外協力隊体験談～
講師：岐阜県立各務原高等学校 教諭 大洞 麻有子
「パネルトーク」～多文化共生と学校～
パネリスト：海津市立下多度小学校 教諭 梶山 紗希
岐阜県立各務原高等学校 教諭 大洞 麻有子
JICA 中部 連携推進課 後藤 千明
- ⑨ 研修まとめ

■ 「初級編 (三重県)」の概要

- (1) 事業名 2019年度開発教育指導者研修 in 三重 (初級編)
～今日から使える！国際理解のすすめ～
「海外から学んだこと」～JICA 中部との連携講座～
- (2) 日時 2019年8月20日(火) 13:30~16:40
- (3) 場所 三重県総合教育センター
- (4) 主催 三重県、三重県教育委員会、JICA 中部
(「令和元年度国際理解教育研修」(三重県環境生活部ダイバーシティ社会推進課)、
「三重県総合教育センター研修」(三重県教育委員会)との協働事業)
- (5) 参加者 16名
- (6) 参加費 無料
- (7) 内容 テーマ、プログラムは以下のとおり

テーマ：今日から使える！国際理解のすすめ —海外から学んだこと—

- ① パラグアイ ～海外研修で学んだこと～
講師：岐阜県海津市立下多度小学校 教諭 梶山 紗希
・アイスブレイキング「名刺で自己紹介」
・クイズ「パラグアイの紹介」

- ② SDGs から考える ～幸せが長続きする豊かな世の中へ～
 講師：伊勢市立伊勢宮川中学校 教諭 浦田 美穂
- ・アイスブレイキング「名刺で自己紹介」
 - ・SDGs とは？「SDGs カードゲーム」
 - ・派生図 「もし自分たちが何もしなかったらどうなる？」
 - ・行動宣言 3 か条 「SDGs 達成に向けて」
- ③ Think globally, Act locally ～世界の中の日本と私たち～
 講師：四日市市立笹川小学校 教諭 藤川 純子
- ・アイスブレイキング「新聞タワー」
 - ・レクチャー 実践報告
- ④ 全体ふりかえり ～私ができること、あなたとできること、皆でできること～
- ⑤ JICA 三重県デスクより事業案内

■ 「初級編（静岡県浜松市）」の概要

- (1) 事業名 国際理解教育ファシリテーター養成講座 2019（全 4 回連続講座）
- (2) 日 時 第 1 回 2019 年 11 月 10 日（日）13：00～17：00
 第 2 回 2019 年 11 月 17 日（日）13：00～17：00
 第 3 回 2019 年 12 月 1 日（日）13：00～17：00
 第 4 回 2019 年 12 月 15 日（日）10：00～17：00
- (3) 場 所 クリエイト浜松（（公財）浜松国際交流協会）
- (4) 主 催 はままつ国際理解教育ネット、（公財）浜松国際交流協会
- (5) 共 催 JICA 中部
- (6) 後 援 浜松市教育委員会
- (7) 参加者 110 人（全 4 回合計）
- (8) 参加費 各回 500 円（4 回申込みの場合 1,500 円）＊学生、HICE 会員無料
- (9) 内 容 テーマ、プログラムは以下のとおり

- 第 1 回 「わたし・あなた・みんなの未来へつながる SDGs」
 ～知って考えよう社会問題と SDGs～
- 第 2 回 「ジェンダー平等ってなに！？」
 ～SDGs から考える未来～
- 第 3 回 「水を巡る課題と解決策とは！？」
 ～水を通して考える持続可能な世界～
- 第 4 回 「あなたも今日から国際理解教育ファシリテーター」
 ～ワークショップのヒント～

II 開発教育指導者研修(実践編) 第1回

■ 開催概要

- ◆ 日 時：2019年6月15日(土) 13:00～17:22、16(日) 10:00～15:19
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：[1日目] 受講者37名、JICA9名、NIED8名、オブザーバー2名 合計56名
[2日目] 受講者33名、JICA4名、NIED8名 合計45名
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第1回のねらい

★ 開発教育の目的、内容、方法についての概論

- ① 研修の全体像を理解し、各自の参加の目的をふりかえり、共に学び合う仲間同士知り合う。
- ② SDGs に関するアクティビティを体験し、自分たちが生きる社会の現状と課題を把握する。
- ③ 開発教育の目的、内容、方法についての理解を深め、教育と教育者の使命を今一度確認する。

■ プログラムの内容

● セッション1 「研修オリエンテーションとアイスブレイキング」 6/15 13:00-14:57

1. 主催者挨拶／本研修の目的および概要説明／スタッフの紹介 13:00 - [23]

- ◇ JICA 中部 江口職員が開会を宣言した。
- ◇ JICA 中部連携推進課の内島課長が主催者を代表して挨拶し、研修を通じて受講者に期待することを伝えた。
- ◇ JICA 中部スタッフ、各県国際協力推進員、NIED スタッフが挨拶を行った。
- ◇ JICA 中部 江口職員より、JICA 事業および本研修の1年の流れを説明した。



2. 本研修のポイントと第1回のねらいの確認 13:23 - [06]

- ◇ ファシリテーターより、研修の本旨である開発教育・国際理解教育の概念、参加型での進め方、第1回のねらいについて、レジュメを基に説明し確認した。

3. 全体アイスブレイキング 13:29 - [37]

- ◇ 受講者同士が知り合うことを目的に、次の5つのアイスブレイキングを行った。
 - ① 名前だけの自己紹介
 - ・会場を自由に立ち歩いてペアを作り、名前だけを伝え合う。ペアを変えて繰り返し行う。
 - ・最後のペアから逆順にペアになった人をたどり、元の席に戻る。
- ◇ 参加型の3つのポイントについて、自己紹介を振り返りファシリテーターから伝えた。



<参加型の3つのポイント>

協力…協力的なしでは参加型は進まない。一人ひとりの積極的な参加が大切。

尊重…開発教育・国際理解教育に関心のある人が集まっているが、価値観は多様。異なる考えを尊重しよう。

信頼…ここにいる仲間は、「自分が困ったときはきっと助けてくれる」という信頼をベースに進めていこう。

- ◇ ファシリテーターコメント…お互いに学び合える場と関係を丁寧に整えていけば、その後の参加型が成り立つ。場づくり・関係づくりのためのアイスブレイクとして、毎回の研修で自己紹介を行っていく。

② 4つのコーナー

- ・会場に4つのコーナーを作り、ファシリテーターが出す質問に対して当てはまる場所に移動する。4つのどれにも当てはまらない場合は、会場中央のスペースに移動する。各質問について数名から理由を聞き、全体で共有する。

＜ファシリテーターが出した質問と4つのコーナー＞
 好きな季節…春、夏、秋、冬
 動物と暮らすなら…犬、猫、馬、亀
 今日の元気度…「元気」「元気ではない」「どちらかといえば元気」
 「どちらかといえば元気ではない」



③ 仲間さがし

- ・ファシリテーターが出す質問に対して自分の答えを言いながら動き、仲間を作る。

＜ファシリテーターが出した質問＞
 所属している地域…市町村
 所属…小、中、高、特支教員、NPO、行政 など



④ パースデーラインアップ

- ・言葉を使わずに誕生日を伝え合い、日付順になるよう輪になって並ぶ。

⑤ 以心伝心ゲーム

- ・全体で輪になり、隣同士で手をつなぐ。起点となる人が右回りか左回りかを決め、決めた方の手を握り、握られた人は電流を流すように隣の人の手を握って順に送っていき、何秒で一周するかを図る。3度行い、秒数を縮める。

4. グループづくり、グループアイスブレイキング 14:06 - [33]

- ◇ ファシリテーターが1～9の番号を振り、同じ番号同士でグループになり、次の2つのアイスブレイキングを行った。

① 私を紹介する3つのキーワード

- ・A4用紙を4つに折り、「自分を紹介するためのキーワード3つ」「この研修への参加の理由」を書き、グループ内で紹介し合う。

② すぐろく自己紹介

- ・ワークシート『すぐろく自己紹介』をグループに1枚配付。サイコロを振り、マスに書かれていることで自己紹介を行う。

- ◇ ファシリテーターコメント…世界に関心を持ち理解したいなら、身近な他者を理解することが大切。他国で起きている飢餓に関心があるのに、クラスのいじめに無関心では、社会的な課題の解決は難しい。まずは自分に対する関心がなければ、他者への興味関心に向かわないと教育心理学では言われている。自己紹介は自己理解を促すものでもある。自分、他者、社会の理解を行ったり来たりしながら、国際理解教育への理解を深めていく。

5. 開発教育・国際理解教育の目的と育てたい力 14:39 - [04]

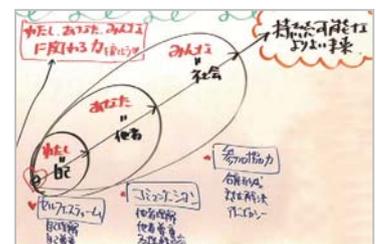
- ◇ ファシリテーターから、開発教育・国際理解教育の目的と育てたい3つの力をレクチャーした。

＜開発教育・国際理解教育の目的＞
 人権、環境、開発、共生、平和など、人類共通の課題を理解し、課題を解決しながら、よりよい未来を共に築くスキルを育む。

＜開発教育・国際理解教育で育てたい3つの力＞

- ① わたしに関わる力：わたし＝自分自身…セルフエスティーム、自己理解、自己尊重
- ② あなたに関わる力：あなた＝他者…コミュニケーション力、他者理解、他者尊重、多様性受容
- ③ みんなに関わる力：みんな＝社会…参加協力、合意形成、対立解決、アドボカシー（社会的提言）

- ◇ ファシリテーターコメント…この教育の一番の特徴は参加型で進めていくこと。協力し、話し合い、関わることを繰り返し、3つの力を育てていく。課題を理解するだけが目的ではない。課題を解決するための力を身につけ、自分達が望むよりよい未来を実現する力を手に入れる教育を実践していこう。



- 休憩 - 14:43 - [12]

6. 開発教育・国際理解教育の目的と育てたい力 14:55 - [02]

◇ ファシリテーターから、参加型ワークショップとはどのような場かを伝えた。

<参加型ワークショップとは>
 対等な立場で関わり合い、一人ひとりが持つ知識や情報、アイデアを出し合い、共通のテーマについてよりよい解決策、方向性を見出す作業

◇ ファシリテーターコメント…「対等な立場で関わりあう場」とは、誰にも意見を言う権利があり、誰の意見も否定されず、誰も排除されない場のこと。人は、自由で開かれた楽しいと思う場所でもっとも多く学べると言われている。否定より質問、提案、代案を出し、よりよい話し合いの場を作ろう。

● セッション2 「“知る”こと“考える”ことから始めよう！」 6/15 14:57-17:22

1. グループ替え、自己紹介 14:57 - [11]

◇ ジャンケンで勝った人、負けた人が移動し、グループ替えを行った。「自分を野菜で例えると」をテーマに、グループで自己紹介を行った。

2. 私たちの社会の困ったこと？ 15:08 - [12]

◇ 社会を振り返り、「みんなに関わってくる問題だと思うこと」をテーマに、参加型の手法のひとつ「ブレインストーミング」を用いてグループで書き出した。

◇ 世界と日本に分けながら全体へ発表し、リストアップした。



【「みんなに関わってくる問題だと思うこと」例】

日本…観光客のマナー、少子高齢化、働き方改革、大学入試に向けた外部検定の経済的な負担、情報モラル、年金、高齢化問題、エネルギー問題、ひきこもり
 世界…地球温暖化、格差の拡大、子どもの貧困、ごみ問題、核兵器、人種差別、権力者の存在、LGBT、絶滅危惧動植物

◇ ファシリテーターコメント…参加型は、ただおしゃべりをするのではなく、話しやすくするための枠組みである参加型の手法を使う。大勢で考えることでアイデアが広がるのも、参加型の特徴。

3. 課題のある持続不可能な社会と世界共通のゴール「SDGs」基礎知識 15:20 - [20]

◇ 資料『SDGsとは』『SDGsを理解するキーワード』を配付。印象に残ったところ3か所に下線を引きながら個人で読んだ。下線部分を中心にグループで内容を共有し、SDGsについて共通基盤を持った。

4. 15年間の世界の変化 15:40 - [59]

4-1. このデータは何についてのデータ？ 15:40 - [28]

◇ 資料『15年前の世界と今の世界』を配付。15年間（2001年～2016年）の9か国6種類の統計が示された数値とグラフを読み解いた。回答を配付し、世界の現状を確認した。

<6種類の統計項目>
 対象国：日本、アメリカ、中国、デンマーク、モンゴル、ネパール、バングラデシュ、イエメン、ウガンダ
 1：人口 3：1人あたりの二酸化炭素排出量 5：女性の国会議員議席の割合
 2：成人識字率 4：5歳児未満の死亡率（1,000人あたり） 6：ジニ係数（所得の格差を表す係数）

◇ ワークシート『15年間で世界の…』を配付。統計から分かったことを個人で記入し、グループで共有した。

－ 休憩 － 16:08 - [08]

4-2. グループ替え、自己紹介 16:16 - [06]

◇ ジャンケンをし、勝った人と負けた人が移動し、グループ替えを行った。「一番好きな食べ物とその理由」をテーマに、グループ内で自己紹介を行った。

◇ ファシリテーターコメント…いつもの属性や関係性から離れたことをテーマにするのも、雰囲気づくりの工夫の一つ。

4-3. SDGs17のゴールと世界・日本の現状 16:22 - [17]

- ◇ 資料『SDGs 世界・日本の現状』を配付。①読んでみて分かったこと・言えること、②最も印象に残ったことの2点をグループで伝え合い、SDGs17のゴールから見た世界・日本の現状を知った。

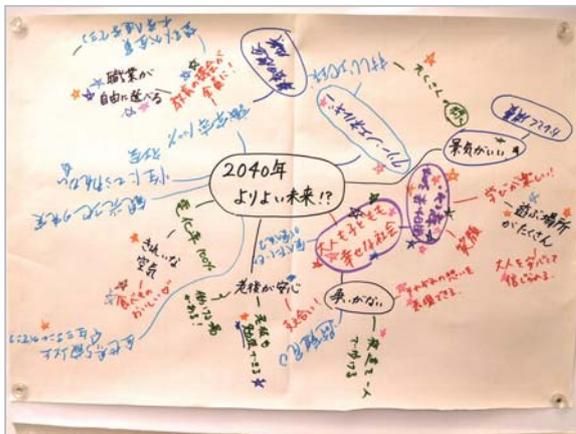
5. よりよい未来のビジョンを描こう！ 16:39 - [34]

5-1. 2040年よりよい未来はどんな未来？ 16:39 - [24]

- ◇ SDGs達成とされる2030年からさらに10年後の2040年を想像し、①私たちがどのような未来を望んでいるのか、②そのためには何があると良いか、③何が達成されていると良いかを考え、模造紙に派生的に意見を出し合った。
- ◇ 視点を変え、意見を書き加えた。
 - ・立場を変えて考える…子どもにとって、外国籍の人にとって、障害のある人にとって など
 - ・切り口を変えて考える…教育、福祉、衣食住 など
- ◇ 他グループの模造紙を自由に見て回る「ギャラリー方式」で意見を読み、共感・納得したものに★印をつけ、自分のグループには出なかったアイデアを共有した。



【「2040年よりよい未来」の成果例】



- ・戦争・紛争が無い ・核兵器ゼロ ・児童労働がなくなる ・お金の価値が置かれなくなる
- ・教育の機会が全員に！ ・大人も子どもも幸せな社会 ・少数派も大切にされる ・それぞれの想いを表現できる
- ・多文化共生の実現 ・人種差別がない ・多国籍の人が共生できる ・バリアフリー・ユニバーサルデザイン
- ・働きすぎ×、余暇活動ができる・休みを自由にとれる ・障害のある人・ひきこもりの人などの就職
- ・職業を自由に選べる ・老後も勉強できる ・夢を叶えられる ・明日が来るのが楽しみ！
- ・地方創生 ・遊ぶ場所がたくさんある ・その土地の特色、良さが守られる ・地域コミュニティ↑↑
- ・原発がない ・クリーンエネルギー・再生可能エネルギー ・バナナの皮からプラスチック
- ・自然が豊か ・きれいな空気 ・生物の多様性 ・絶滅する動物が減る ・食べ物がおいしい

- ◇ ファシリテーターコメント…自分が生きていてもいなくても、次の世代は必ずいる。地球を使い果たして渡すのか、今私たちが得られている恩恵を次の世代も受けられるようにするのは、今の私たち次第である。

5-2. ビジョン実現のために大切なこと・役立つこと 17:03 - [10]

- ◇ 派生的にあげた未来へのアイデアを、「望む未来の5か条」として5つの文章に個人でまとめた。文章は、「～がある社会」「～ができる」などと肯定的な表現とした。
- ◇ その未来が実現されるために役立つこと、大切だと思うことを3つ書き出し、グループで共有した。
- ◇ ファシリテーターコメント…ビジョンを描けないままでは行動に移せない。課題を知り、みんなで考えることから始めよう。望む未来を手に入れるには、「どこかの偉い人」ではなく私たち一人ひとりの行動が不可欠。できることから行動するために、知る→気づくをつなぐ。国際理解教育は、SDGsゴール4を通して、すべてのゴールに間接的に関わる教育である。

6. ふりかえり 17:13 - [04]

- ◇ 1日目の感想をグループ内で伝え合った。

7. 事務連絡 17:17 - [05]

◇ 事務局より、研修時の宿泊、記録、懇親会会場について連絡を行った。

★ 17:22 終了

● セッション3 「“自分ゴト化” しよう！」 6/16 10:00-14:30

1. アイスブレイキング 参加のウォーミングアップ～動と静～ 10:00 - [17]

◇ 椅子を輪に並べ、次の3つのアイスブレイキングを行った。

- ① 動：なんでもフルーツバスケット
 - ・輪の中央に1人が立ち、全体へ1つ質問をする。当てはまる人は席を移動する。親を変えて数回行う。
- ② 動：ストレッチリーダー
 - ・輪の中央に1人が立ち、リーダーとなって8カウントのストレッチをする。周りの人はリーダーと同じ動きをする。リーダーを変えて数回行う。
- ③ 静：瞑想深呼吸
 - ・着席し、目を閉じて次の流れで深呼吸をする。
4秒かけて鼻で吸う→7秒息を止める→8秒かけて口から吐く×3回



2. 1日目のふりかえり～傾聴 10:17 - [15]

◇ ペアになり、傾聴を用いて、次の手順で1日目の振り返りを行った。

- ① 話し手と聞き手を決める。
- ② 話し手から聞き手に、1日目の感想を1分間伝える。聞き手は傾聴する。
- ③ 聞き手から話し手へ、30秒間で聞いたことをそのまま相手に伝え返す「振り返し」をする。話し手は、内容が違ったら訂正する。
- ④ 役割を交代し、同様に伝える。



<傾聴>

相手に心を寄り添わせ、全身で共感を表しながら聴く聞き方

- ・質問はしない…質問をするのは、「自分の聞きたいことを効率的に話して」というサインになる
- ・体を傾けて聴く…全身で共感の態度をもって聴く。
- ・心を使って聞く…心を相手に寄り添わせながら聴く。
- ・メモはとらない…メモを取りながら聞くと「ちゃんと聞いてもらっている」と思いにくい場合がある

◇ ファシリテーターコメント…普段の会話の中で、自分が言ったことと違って、雰囲気などでそのまま流したり、「言っても仕方ない」と経験的に学び言うのをやめてしまったりしている場合がある。きちんと聞いてもらう経験をすると、これからも自分のことを話そうかなと思える。これもスキルトレーニングの一つ。小さな誤解をその場で伝え合うことができれば、相互理解につながる。

3. グループ替え、自己紹介～インタビューゲーム 10:32 - [19]

- ◇ 1～7の番号を順に言い、指定の机に移動し、グループ替えを行った。「今、おすすめの一品」をテーマに自己紹介を行った。
- ◇ 「何を聞いても構わない」「答えたくないことは答えなくてよい」「聞かれたこと以上のことを話してもよい」というルールのもと、右隣の人にインタビューをし、お互いを知り合った。

4. あなたも写真家～理解に近づくために必要なこと!? 「経験学習の4段階」 10:51 - [49]

- ◇ 写真の一部が切り取られたワークシートを配付。グループ内でペアになり、欠けた部分を想像して描き入れ、写真にタイトルをつけた。
- ◇ 全体で6種類の写真、部分的に切り取った11種類の写真があること、切り取られている部分が違うことをファシリテーターが伝え、他のペアはどのような想像をしたかを見て回った。グループに戻り、感想や気づきを話し合った。
- ◇ 写真の元版を配付。分かったこと、気づいたことをA4用紙に書き出した。

【「あなたも写真家」から分かったこと・気づいたこと例】

- ・写真の一部から性別や国（先進国か開発途上国か）を判断して、先入観で全体を想像してしまった。写真に写っている現実とギャップがあった。
- ・描くまでの過程に、どれだけ可能性を想像できるかが大切。広げて考えないと間違えてしまう。
- ・切り取られ方によって得られる情報に差があると感じた。
- ・ペアの中でも意見が違った。2人だとイメージが広がる。
- ・写真の一部から想像する作業だったが、写真全体を見た後でも想像が広がった。文化や背景に興味を持った。



- ◇ファシリテーターから写真の解説をし、人、物、国などに対して、本当に近い姿で理解しようと思ったときに大事なこと・役立つことを個人で書き出し、グループで共有した。
- ◇ファシリテーターコメント…私たちが入手している情報も、このように部分的だったらどうだろうか。実際の社会でも、全体像と違うことを想像しているかもしれない。人に対しても国に対しても、間違ったイメージを持っていると本当の理解にはつながらない。
- ◇ファシリテーターから、車椅子体験を例に「経験学習の4段階」についてレクチャーした。

- ・車椅子体験→楽しかった＝感想、体験のみ
- ・車椅子体験→どのようなことが分かったか「自動販売機が遠かった」「道がガタガタしていた」
→周りの人に伝えよう、改善案を考えて市に提案してみよう
＝一般化→体験と気づき→行動を一連で考え、実行に移すことができる

5. グループ替え、自己紹介 11:40 - [08]

- ◇1～6の番号を振り、指定の机に移動しグループ替えを行った。「苦手なこと」をテーマに自己紹介を行った。

6. これはどこの国？ 11:48 - [45]

6-1. 6か国の子どものストーリー 11:48 - [16]

- ◇6か国の子どもの写真、挨拶、数字の数が書かれた『6か国カード』を配付。どの国かを考え、映像を見ながら答え合わせした。
- ◇資料『6か国の子どものストーリー』およびワークシート『わたしの気持ち／わかったこと』を配付。1人1か国の子どもを担当して資料を読み、ワークシートに個人で記入した。



－ 休憩 － 12:04 - [60]

6-2. 6か国の子どものストーリーから分かること 13:04 - [29]

- ◇休憩前と同じ席に着き、近い人同士で3人のグループを作り、ワークシートの内容を共有した。
- ◇これまでの作業を振り返り、グループで感想を話し合った。

【「6か国の子どものストーリー」から分かったこと例】

- ・戦争、紛争など、大人が作り出していることで子どもが振り回されている。
- ・様々な状況がある中で、支援団体の力を借りてがんばろうとしている子どももいれば、どうすることもできず我慢したり諦めたりしている子どもがいる。
- ・世界の問題は日本とも関連している。自分たちにできることは何かを考えていく必要がある。
- ・SDGsなどの目標の中でも地域差があり、当てはまる箇所が大きく違うと思った。

7. グループ替え、自己紹介 13:33 - [07]

◇ 同じ子ども担当した人同士でグループになり、「今一番行ってみたい国とその理由」をテーマに自己紹介を行った。

8. 世界の子どものストーリーとSDGs 13:40 - [50]

8-1. 問題解決に必要なもの・役立つこと 13:40 - [23]

- ◇ 模造紙の中央に担当した子どもの名前を書き、その子を取り巻く問題やその国の問題だと思えることを書き出した。
- ◇ 問題を改善するためのアイデアを付箋1枚につき1つ書き、解決したい問題のそばに貼った。アイデアは、支援など外からの力だけではなく、その子自身が持つ力や可能性も含めて考えた。



8-2. 関連するSDGsのゴールは？ 14:03 - [27]

- ◇ 『SDGs17のゴールカード』を配付。問題と手立てにおいて、SDGsの各ゴールと関連するものを選び、その場所に貼った。
- ◇ 模造紙をパネルに張り出し、6か国が集まるようにグループ替えをし、1か国ずつ順に発表、説明した。

【「問題解決に必要なもの・役立つことー関連するSDGsのゴールは？」成果例】



● セッション4 「教育と教育者の使命」 6/16 14:30-15:19

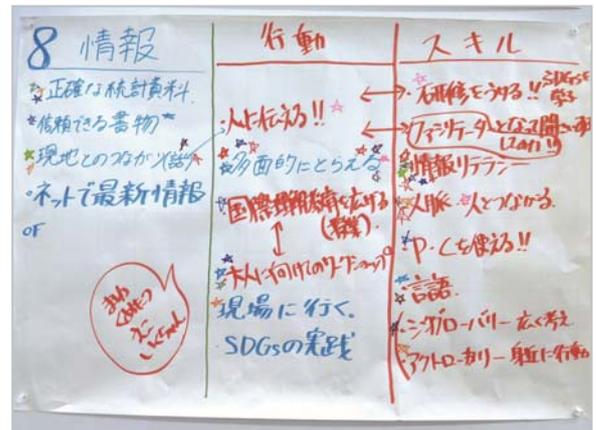
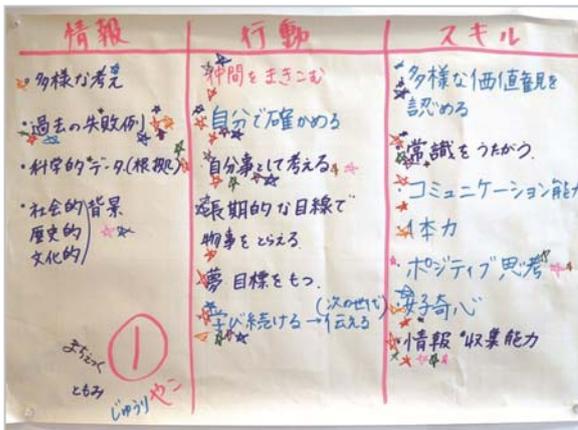
1. グループ替え、自己紹介 14:30 - [05]

◇ 各テーブルに飴を配り、同じ味を選んだ同士でグループになり、「これからの人生で実現したい野望」をテーマに自己紹介した。

2. 「続かない社会を続ける社会へ」よりよい未来を実現するために役立つこと 14:35 - [22]

- ◇ 1日目に描いた「2040年望む未来」を実現するために役立つ情報、行動、スキルを模造紙に書き出した。
- ◇ 模造紙を回し読みし、共感したもの、いいなと思ったものに★印をつけた。
- ◇ ファシリテーターコメント…良い反応があると嬉しいもの。良い反応をし合うことで、肯定的に学び合える風土を作る。

【「よりよい未来を実現するために役立つこと」成果例】



<よりよい未来を実現するために>

① 役立つ情報

- ・社会的・歴史的・文化的背景 ・正確な統計資料 ・信頼できる書物 ・科学的データ（根拠）
- ・現状を知る・過去を知る・変容を知る ・現地とのつながりから得られる話 ・歌 ・考え方を知る
- ・行動している人を知る・内容だけではなく心を知る

② 役立つ行動

- ・環境に優しい行動 ・長期的な目線で物事を捉える ・外に出る・自分の目で見る ・自分で確かめる
- ・青年海外協力隊になる ・スタディツアーに参加する ・いろんな人と話す ・身近な人と話題を共有する
- ・仲間を巻き込む ・自分事として考える ・投票に行く ・国際理解教育を広げる⇔大人対象ワークショップ
- ・多面的に捉える ・誰もが意見を言う ・その時の雰囲気流されない ・多文化共生 ・差別しない
- ・人と地球に優しい技術の開発 ・無理をしない ・余裕を持つ ・学び続ける→次の世代へ伝える

③ 役立つスキル

- ・行動力 ・実践力 ・共感力 ・好奇心 ・発信力 ・情報収集能力・情報選択能力 ・情報リテラシー
- ・データを処理・分析する力 ・常識を疑う ・仲間を作るためのコミュニケーション能力 ・話し合い
- ・誰に対しても言葉を紡ぐ力 ・ファシリテータースキル ・人脈・人とつながる ・人と人をつなぐ
- ・自己肯定感 ・他者理解 ・相互理解 ・共通言語 ・多様な価値観を認める ・物事を多面的に見る
- ・自分の職業以外のことを知る ・受け入れる心の広さ ・信頼される ・将来を見通す力 ・ポジティブ思考
- ・農業・工業などの知識・技術 ・クリティカルシンキング ・Think Globally, Act Locally（広く考え、身近に行動）

3. 教育者の使命、2日間のふりかえり 14:57 - [18]

- ◇ ワークシート『わたしの2030アジェンダ』を配付。SDGsゴール達成を目指す2030年までに、①教育者として達成したいこと、②達成に向けて行うことを個人で書き出し、その内容と2日間の感想をグループで共有した。

4. 事務連絡 15:15 - [04]

- ◇ Eメール連絡体制、メーリングリストの開設、次回からの懇親会について、事務局が伝えた。
- ◇ JICA 中部 江口職員より、エッセイコンテスト、冊子「開発教育・国際理解教育支援メニュー 国際理解と国際協力へのとびら」「共につくる私たちの未来」のお知らせをした。

★ 15:19 終了

－ 研修で使用了教材の出典等一覧 －

- ・「すごく自己紹介」…NIED『ファシリテーターのための参加型アクティビティ集～コミュニケーション編～』2018年
- ・セッション2-3.「SDGsとは」「SDGsを理解するキーワード」…(公財)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン『先生・ファシリテーターのための持続可能な開発目標-SDGs-アクティビティ集』
- ・セッション2-4.「15年前の世界と今の世界」「ワークシート：15年間で世界の…(過去/未来)」「SDGs世界・日本の現状」…(公財)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン『先生・ファシリテーターのための持続可能な開発目標-SDGs-アクティビティ集』
- ・「SDGs世界・日本の現状」…JANIC
- ・「あなたも写真家」…ワールド・ビジョン教材(廃版)
- ・セッション3-6.「6か国カード」「6か国の子どものストーリー」「ワークシート：わたしの気持ち/わかったこと」…(公財)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン『先生・ファシリテーターのための持続可能な開発目標-SDGs-アクティビティ集』
- ・「ワークシート：わたしの2030アジェンダ」…(公財)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン『先生・ファシリテーターのための持続可能な開発目標-SDGs-アクティビティ集』

※ JANIC … 認定NPO法人 国際協力NGOセンター

NIED … 特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター

III 開発教育指導者研修(実践編) 第2回

■ 開催概要

- ◆ 日 時：2019年7月20日(土) 13:00～17:23、21(日) 10:00～15:08
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：[1日目] 受講者 36名、JICA 7名、NIED 8名、オブザーバー1名 合計 52名
[2日目] 受講者 38名、JICA 8名、NIED 8名、オブザーバー1名 合計 55名
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第2回のねらい

★ 気づきから行動へ！行動変容を支える参加型

- ① 開発教育の中心テーマである「人権」と「環境」について、参加型で学びあう流れを体験する。
- ② 「〇〇についての教育」から「〇〇のための教育」へシフトし、気づきを行動へとつなぐ必要性を共有する。
- ③ 「学んだ側の態度と行動が変わる」という最終目標を確認し、人の行動変容を支える参加型の方法論を学ぶ。

■ プログラムの内容

● セッション1 「研修オリエンテーションとアイスブレイキング」 7/20 13:00～14:06

1. 主催者挨拶 13:00 - [03]

◇ JICA 中部 江口職員が開会を宣言した。

2. 第1回のふりかえり、第2回のねらいの確認 13:03 - [07]

◇ 第1回のねらいと内容をふりかえり、レジュメを基に第2回のねらいと進め方をファシリテーターが説明した。

◇ 第2回では、開発教育の両輪である「人権」を1日目の、「環境」を2日目のテーマとして扱うことをファシリテーターから伝えた。

3. アイスブレイキング「わたしは誰でしょう？」～質問と貢献 13:10 - [21]

◇ 次の手順で、ファシリテータースキルのひとつ「問う力」を体験するアイスブレイキングを行った。

- ① 生物、野菜、お菓子のうち1つの名前が書かれたカードを1人1枚背中に貼る。
- ② 会場を歩いてペアを作り、自分のカードに何が書かれているかを知るための質問を1つ相手にする。
- ③ ペアの相手は、質問に答えると同時に、ヒントを1つ出す。
- ④ 書かれていることが分かった人は、答えのカードが並べてある机から自分のカードだと思うものを取る。

◇ ファシリテーターから、このアイスブレイクについてレクチャーした。



質問をする → 学習者が主体的に考えるには、どのようなことを尋ねたらよいか = 質問力を育む
ヒントを出す → 答えを教えるのではなく、学習者が気づくためのヒントを出す = 貢献力を育む

4. アイスブレイキング 「素敵なハート」、グループ作り 13:31 - [07]

◇ 4等分に切ったハートのカードを1人1ピース配付。同じハートを持っている同士で机に着き、グループを作った。模様が違うハートで誰ともグループになれていない人は、好きなグループに入った。

◇ ファシリテーターコメント…「伝える力」を育てるために、言葉でハートの形状を伝えてグループを作ることも

きる。仲間が見つかる嬉しいが、自分だけグループになれないと不安になる。1日目のテーマである「人権」の伏線としても、このアイスブレイクを行った。

5. 自己紹介、第1回ふりかえり 13:38 - [27]

- ◇ 「最近褒められたこと」をテーマに、グループで自己紹介を行った。
- ◇ ファシリテーターコメント…褒められたことを人に伝えると、自己を肯定する気持ちの育みにつながる。
- ◇ 第1回研修の記録を配付。印象に残った部分3カ所に下線を引きながら個人で読み、下線を引いた部分について自分の思いや考えをグループ内で伝え合った。
- ◇ ファシリテーターコメント…人は、繰り返し行ってきたことが身についていく。参加型も同じ。記録を読むだけでなく、思い出したり、言語化したり、他者の気づきを共有したりして、学んだことを繰り返し振り返り、身につけていこう。

● セッション2 「知り、考え、気づく」人権 7/20 14:06-16:21

1. 参加型人権教育の目的 14:06 - [05]

- ◇ 参加型の人権教育の目的と流れモデルを、ファシリテーターからレクチャーした。

<参加型人権教育の目的>
 人権の大切さを知識として知るだけではなく、自分事として理解し、人権侵害にあう人々に共感的になり、「差別しない」個人になるだけでなく、自分や他者の人権のために積極的な行動をとれるようになる。

<人権養育の流れモデル>

- ① 人権って何だろう？ …人権について知る
- ② 人権侵害はどこにある？ …人権侵害について知る
- ③ 人権が守られないのはなぜか？ …原因を考える
- ④ 人権尊重社会とはどのような社会かを考える …人権尊重社会実現のための具体的な行動

2. ①人権って何だろう？ …人権について知る 14:11 - [62]

2-1. 自分らしく十分に幸せに「わたし」を生きるために必要なもの 14:11 - [34]

- ◇ 付箋を1人20枚取り、「自分らしく豊かに生きることを可能にしているもの」として思いつくことを1枚につき1つ書き出し、グループ内で発表し合い、カード式整理法で整理分類した。
- ◇ 分類したものを「自分にとって必要なもの」「グループの私たちに共通して必要なもの」という視点で振り返った。

【「自分らしく豊かに生きることを可能にしているもの」成果例】



- ・ 家族
- ・ 子ども
- ・ 仲間
- ・ 支え
- ・ 仕事
- ・ 趣味・好きなこと
- ・ 学び
- ・ 場・機会
- ・ 旅
- ・ 夢
- ・ 目標
- ・ 生きがい
- ・ 休息
- ・ 健康
- ・ 自由な〇〇
- ・ デジタル
- ・ 平和
- ・ 人権
- ・ 政治
- ・ 医療
- ・ 水
- ・ 衣
- ・ 食べ物・おいしいもの
- ・ 自然

2-2. グローバル・スタンダード「世界人権宣言」と、わたしにとって大切な権利！？ 14:45 - [28]

- ◇ ここにいる私たちだけではなく、「人間だったら誰でも共通に必要なもの」という視点で追加し、同時に、「人間みんなという視点であれば必要ではないもの」をグループで話し合った。

・追加 …法律、労働力、交通手段、衛生、教育、共生、安全、国、信仰・宗教、選択肢、平等、安心
 ・削除 …なし

- ◇ 資料『世界人権宣言』を配付。世界人権宣言と基本的人権について、ファシリテーターからレクチャーした。

・人権とは、欲しいものではなく必要なものあり、生存だけではなく尊厳が守られるということ。人間なら、誰にとっても必要なものを得られる権利である。
 ・どこかの一国だけではなく、全世界が共通して守りたい私たちの権利をグローバルスタンダードとして持たなければならぬという考えから、世界人権宣言が生まれた。今行ったアクティビティと同じプロセスで決められた。
 ・基本的人間の欲求 (Basic Human Needs (BHN)) …衣食住の充実／教育、労働余暇／文化的生活の質／社会的生活の質 = 基本的人権。衣食住がただあるだけではなく、充実しているかどうかが大事。

- 休憩 - 15:13 - [13]

3. ②人権侵害はどこにある？ …人権侵害について知る 15:26 - [55]

3-1. グループ替え、自己紹介 15:26 - [07]

- ◇ じゃんけんをし、勝った人と負けた人が移動してグループ替えを行った。
- ◇ これまでの人生を振り返り、「何だか不公平だなと思ったこと」をテーマにグループで自己紹介を行った。

3-2. 「人権意識」と「人権の学力」 15:33 - [03]

- ◇ 人権宣言の目標「人権意識」と「人権の学力」について、ファシリテーターからレクチャーした。

人権意識 …世界人権宣言にうたわれている理念を日々の日常生活の中に持ち込むことができる、守ろうとする意識。
 人権の学力 …肯定的に他者とかわる力。公正に情報を読み取り、議論できる力。誰に対しても公平に関わることができる力。

- ◇ ファシリテーターコメント…人権を持っていたのは一部の特権階級だけだった時代がある中で、社会的弱者であった先人達が戦いの末に人権を勝ち取ってきた。人権は、人間の範囲を広げてきた歴史。無関心でいると、すぐに奪われてしまうのも人権の特徴。

3-3. わたしにとって大切な権利とあなたにとって大切な権利 ～もしも私があなたなら 15:36 - [24]

- ◇ 人権宣言の項目のうち、自分にとって大事な権利 TOP3 を選び、そのうち一番大事なものを1つ選んだ。
- ◇ 選んだものとその理由をグループ内で発表した。
- ◇ 次の設定をファシリテーターが伝え、自分がその状況なら世界人権宣言のどの項目が大事かを、個人で1つ選んだ。

①コンゴ民主共和国
 14歳の子。反政府勢力に自分の目の前で両親を殺されてしまった。それだけではなく、少年兵として人を殺すことを教え込まれ、強いられた。NGOに救出され、今はリカバリーのためのシェルターにいる。

②中国
 天安門事件に関わった若者。非暴力で民主化を勝ち取ろうとしてデモを行い、当局から弾圧された。そこに関わった若者は逃亡したり、家族は隠れたりしなければならなかった。いつか中国に戻って民主化を叫びたいと思っている。

③日本
 18歳シングルマザー。DVのため離婚。子どもが2人いる。非正規で働き、ぎりぎりの生活。生活保護を受けたいが、車を所持しているなどで、条件に合わず保護を受けられない。このままでは貧困に陥ってしまう。どうしたらいいのか分からずにいる。

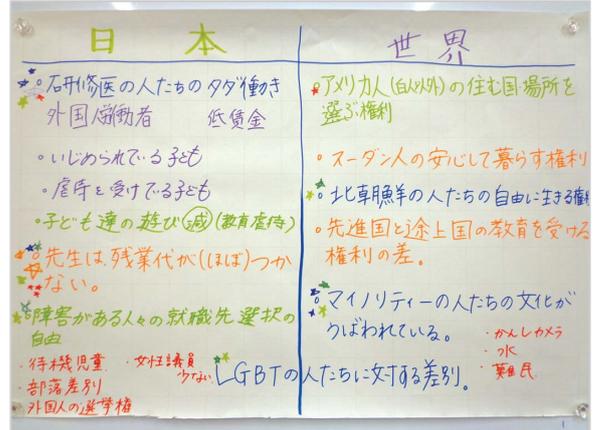
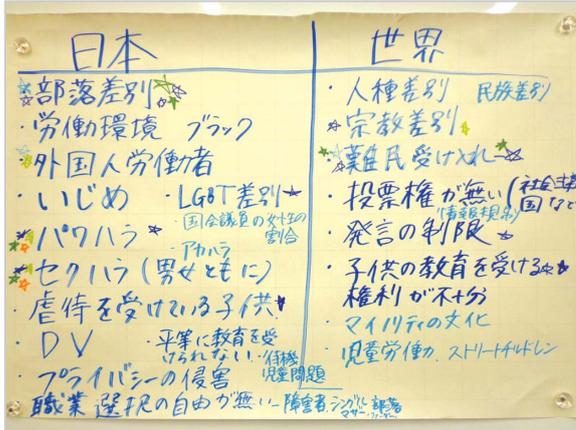
- ◇ ファシリテーターコメント…人権宣言の項目のうち、当たり前だと思ったものは守られているものだから。立場や状況が変わると、大事だと思う権利が変わる。誰かにとって当たり前でも、他の誰かにとって当たり前でなければ、それらも網羅して書かれているのが世界人権宣言。30条あるが、書かれていることは「あなたは自由です」ということ、「他の人の自由を侵す権利はない」ということ。

3-4. 人権侵害はどこにある？ 16:00 - [21]

- ◇ 人権の視点で私たちの社会を振り返り、誰のどのような権利が守られていないか、日本と世界に分けてグループで模造紙に書き出した。
- ◇ 他グループの模造紙を自由に見て回る「ギャラリー方式」で全体共有し、自分のグループにはなかった意見に★印をつけ、グループの模造紙に追加した。



【「人権侵害はどこにある？」の成果例】



<日本>

- ・ハラスメント ・冤罪 ・児童虐待 ・DV ・いじめ ・障害者への理解 ・子育てとの両立が難しい
- ・メディアの被害者への対応 ・SNS（誹謗中傷・プライバシーがない） ・部落差別 ・ハンセン病
- ・外国人労働者の境遇 ・留学生のオーバーワーク ・外国籍の子どもの支援不足 ・難民者の認定
- ・性的マイノリティへの差別 ・職業選択の自由がない（障害者・シングルマザー・シングルファーザーなど）

<世界>

- ・宗教差別 ・民族差別 ・性的マイノリティへの差別 ・安全な水 ・戦争・紛争 ・捕虜への拷問
- ・児童労働 ・ストリートチルドレン ・児童婚 ・子どもの教育 ・難民受け入れ ・移民の規制
- ・発言の自由 ・情報制限 ・監視カメラ ・個人情報搾取 ・障害者差別 ・ヘイトスピーチ
- ・マイノリティの人達の文化が奪われている

● セッション3 「気づき、考え、行動する」人権 7/20 16:21-17:23

1. ③人権が守られないのはなぜだろう？差別はなぜ続くのだろう…原因を考える 16:21 - [49]

1-1. グループ替え、自己紹介「お似合いのイニシャル」 16:21 - [12]

- ◇ 机の片側に座っている人が移動してグループ替えをし、名前の頭文字のイニシャルで始まる自分を表す言葉で自己紹介を行った。

1-2. 『住むを避ける 外国人』 ロールプレイと三段論法の落とし穴 ～偏見と差別 16:33 - [06]

- ◇ NIEDメンバーが「外国籍の人には部屋を貸さないことにしている宅建業者と、部屋を借りに来た外国籍の人」という設定でのロールプレイを提供、感想を話し合った。

- ・部屋を貸さない条件「外国人の人は適当だから」ということ自体に偏見がある。
- ・選択肢を与えられない。半面、仕事ではマニュアルがあり、それに従順に働いているかもしれない。
- ・違う業者を紹介することもできず。外国籍の人の人種によっては、業者の態度が違ったかもしれない。

- ◇ 日本人のイメージを例に、三段論法の落とし穴、偏見と差別についてファシリテーターからレクチャーした。

＜三段論法の落とし穴＞
 AはBだ、CはAだ、だからCはAだ
 例：日本人は英語を話せない。○○さんは日本人だ。だから○○さんは英語を話せない。
 [A] [B] [C] [A] [C] [B]

＜偏見と差別＞
 偏見 …ある集団にたいしてその集団に対して不利益につながる勝手な思い込みのこと。
 差別 …偏見が行動に出ると差別となる。
 例：外国人は部屋を汚す→偏見
 だから部屋を貸さない→差別

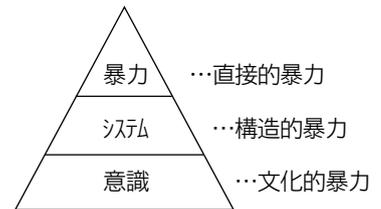
- ◇ ファシリテーターコメント…三段論法の落とし穴 [C] に、自分や女性などを当てはめてみる。人は、集団をまとめて見がちである。差別は指摘されないとわからない。偏見や差別を知ったら、「それは差別だよ」と伝えよう。

1-3. 啓発ポスターから考える人権侵害の背景 ～構造的暴力と文化的暴力 16:39 - [16]

- ◇ 啓発ポスター『○○、どうして△△をぶつの？』を配付。「○○」と「△△」に入る言葉を考えた。
 ◇ 解答「パパ、どうしてママをぶつの？」を伝え、ポスターに書かれているストーリーを読んだ入れた言葉
 ◇ 人権侵害は、より弱いものへ、よりマイノリティに向けて、より密室で行われるといわれている。その理由だと思ふことをグループで書き出した。

- ・ 他人が介入できない ・ 外と切り離された空間→自分が支配できる ・ 自分が優位に立てる
- ・ 恐怖感で押さえつけるために→密室ならそれがやりやすい ・ 見ている人がいないと思ひ通りにできる
- ・ 見られたくないというしるめたさがある ・ 逃げられない ・ マイノリティは声を挙げにくい

- ◇ 暴力の構造について、ファシリテーターからレクチャーした。
 ◇ ファシリテーターコメント…偏見や差別など文化的暴力が社会の構造を作り、それが実際の暴力を作り出している。根底に人の意識があり、社会を作っているのは私たち一人ひとり。「わたし」がNOと言えいい。



1-4. 名刺交換会 ～脱学習とよいモデルの習熟 16:55 - [15]

- ◇ 次の手順で「名刺交換会 とりかえばや名刺」を行い、私たちの意識の中にある文化的暴力を見つめた。
- ① 性別、性別、国籍、職業、役職が書かれた名刺を配付。1人1枚取り、その人になりきって名刺交換をする。
 - ② 交換するときは、相手の人にどう接するかも考える。交換するときの感情も覚えておく。
 - ③ 交換後は、受け取った名刺の設定になりきり、名刺交換を続ける。



- ◇ 名刺交換を振り返り、演じたときの感情や相手の役職などを知ったときの気持ちと対応、相手は自分にはどのような態度をしてきたかをグループで共有し、分かったこと、気づいたことを出し合った。
 ◇ ファシリテーターコメント…人の属性や背景で態度が変わったのであれば、偏見が潜んでいるかもしれない。どんな人も人としての尊厳と価値があり、どんな人も対等に関わることができるのが人権の学力。名刺交換した全ての人と対等に関わられたかだろうか。自分自身を振り返ってみてほしい。

2. ④人権尊重社会とはどのような社会かを考える

～人権尊重社会を表現しよう …人権尊重社会実現のための具体的な行動 17:10 - [08]

- ◇ A4用紙を8つに区切り、表面に人権尊重社会を表す形容詞・形容動詞を、裏面に人権尊重社会にするために役立つ動詞（行動）を、それぞれ8個書き出した。

【「人権尊重社会を表す形容詞・人権尊重社会に役立つ動詞」成果例】

<人権尊重社会を表す形容詞>

・優しさのある ・明るい ・幸せな ・自由な ・平等な ・安心できる ・学び合う ・つながりのある
 ・支え合う ・助け合う ・一人ひとりを大切にする ・認め合う ・気遣いのある ・美しい ・分かりやすい
 ・過ごしやすい ・多様性のある ・楽しい ・自分が自分でいいと思える ・力を発揮できる ・生きやすい
 ・「助けて」と言える ・「助けて」が聞き取れる ・属性によらない ・明日が来るのが楽しみな ・信じあう
 ・ありのままにいられる ・あたたかみのある ・受け止め合う ・豊かさあふれる ・笑顔になれる
 ・ゆとりのある ・すばらしい ・相手の立場になれる ・違いを受け入れられる ・命が大切にされる

<人権尊重社会にするために役立つ動詞>

・助ける ・勇気を持つ ・発言する ・指摘する ・想像する ・共感する ・互いを理解する ・行動を起こす
 ・心に触れる ・共生する ・尊敬する ・寄り添う ・支える ・意識する ・考える ・認める ・投票する
 ・尊重する ・差別しない ・学ぶ ・楽しむ ・信じる ・正す ・自信を持つ ・世界を広げる ・約束を守る
 ・体験する ・国際的に考える ・受け入れる ・相談する ・先入観から離れる ・更新する ・伝える
 ・良く聞く ・振り返る ・見直す ・学び続ける

3. 1日目のふりかえり 17:18 - [05]

◇ 書き出したことも含め、1日目の振り返りをグループで共有した。

★ 17: 23 終了

● セッション4 「“環境についての教育” から “環境のための教育” へ」 7/21 10:00-12:00

1. 朝のウォーミングアップ 10:00 - [14]

◇ 受講者がアイスブレイキングを提供し、参加のためのウォーミングアップを行った。

- ① 音楽に合せ、提供者が体を動かしたり掛け声をかけたりする。
- ② 受講者はその動きや掛け声を真似する。

◇ 参加型学習が大切にする行動変容のためのポイントを、ファシリテーターからレクチャーした。

<行動変容のためのポイント>

- ・ 知 る …知らなければ行動することはできない
- ・ 気づく …単に知るだけではなく、「そうだったんだ」という内発的な気づきが大切。
教えられるのではなく自ら気づくために、ファシリテーターは問いかける。
- ・ スキルトレーニング …分かったことができるようになるためには、スキルが必要。
スキルがあることが行動を支えていく

◇ ファシリテーターコメント…参加型の中で、この3点を混ぜてプログラムを提供していく。

2. 1日目のふりかえり、自己紹介 10:14 - [18]

◇ 1日目の内容をファシリテーターから伝え、確認した。

◇ 「今まで見た中で一番美しい景色」「心に残る景色」をテーマに、グループ内で自己紹介をした。

◇ ファシリテーターコメント…いかに自然が大事で必要なものかを確認し、環境を大事にしようという気持ちを育てるために、環境感度を育てよう。

3. 地球環境クイズ！ 10:32 - [34]

◇ 「生物」「エネルギー」「ゴミ」「食べもの」をテーマにした『地球環境クイズ』と、情報を補完する参考資料をグループに1テーマ配付。1人1問を担当し、グループのメンバーに分かったことを伝えた。

◇ ファシリテーターコメント…自分で立ち止まって考えることから得られるものがある。クイズは、テーマに対する関心を生むと同時に、知ったことを他の人に教えてあげたいというモチベーションや貢献力を生む手法。

4. 環境問題！どんな問題？どうして問題？ 11:06 - [42]

◇ 今ある環境課題を解決すると同時に、これからの環境問題を未然に防ぐのも環境教育の目的であるとファシリテーターから伝え、次の手順で環境問題を考えた。

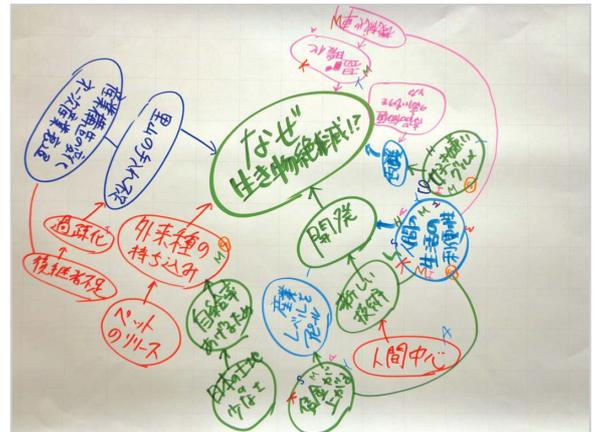
- ① 模造紙の中央に「もしも」と書き、地球環境クイズでグループに配られた環境問題を解決されなかったらどうなるか派生的に意見考え、模造紙に書き出す。
- ② 立場や視点を変えて考え、意見を追加記入する。
- ③ その問題が解決されない場合、最悪の帰結だと思ふことに印をつける。
- ④ 現時点で自分に影響があると思ふことに自分のイニシャルを書き入れる。
- ⑤ 隣のグループと模造紙を交換し、同じく自分に影響があると思ふことにイニシャルを書き入れる。



◇ その問題が起きているのか、次の手順で原因を掘り下げて考えた。

- ① 「なぜ」と模造紙の中央に書き、原因や背景だと思ふことを書き出す。
- ② 書き出した意見について、その原因や背景だと思ふ事をさらに書き加えていく。
- ③ 立場や視点を変えて考え、意見を追加記入する。
- ④ 問題を作り出している原因に自分も関わっていると思ふものに自分のイニシャルを書き入れる。
- ⑤ 前後のグループと模造紙を交換し、同じく自分も関わっていると思ふものにイニシャルを書き入れる。

【「もしも問題が解決されなかったら／なぜ問題が起きているのか」成果例】



◇ ファシリテーターコメント…自分が関わっているのであれば、自分が変われば問題解決に向かうことができるということ。人権は生きる基本であり、環境は生きる土台。どちらも命に関わること。

5. 「続かない環境」を「続く環境」へシフトするための4つのポイント 11:48 - [07]

◇ 資料『持続可能な環境を築くためのヒント』を配付。キーワードと4つのポイントを確認した。

< 持続可能な環境を築くためのキーワード >

ESD (Education for Sustainable Development) …持続可能な開発のための教育

LOHAS (Lifestyle of Health and Sustainability) …健康的で且つ環境の持続可能性も実現するようなライフスタイル (暮らし方)

< 持続可能性のための4つのポイント >

物質循環 …生産→消費→廃棄→生産→∞ 入り口と出口がつながって循環していれば持続する。

生物多様性 …生態系は絶妙なバランスと循環の上に成り立つ (相互依存性)。

資源の有限性 …再生可能な資源にも成長の限界があり、そしてもちろん再生が不可能な資源 (石油など) は存在する量そのものに限界があり、その有限性の中でわたしたちが生きている。

低炭素 …二酸化炭素をなるべく出さない生活

◇ ファシリテーターコメント…続かない社会を続く社会にするためのポイントは既に分かっている。このポイントを知っているから知っていれば、社会は変わっていくのではないだろうか。受講者の皆さんは、そのための大事なリソースパーソン。伝えるだけでなく、気づくアクティビティを実践しよう。

- ◇じゃんけんをして、勝った人と負けた人が移動してグループ替えを行った。
- ◇「懐かしいにおい」をテーマに、グループで自己紹介を行った。

3. 「持続可能なよりよい社会を創る」とはわたしが何をすることか!? 14:42 - [09]

- ◇「人権を守る」「環境を守る」ために、自分がする行動を個人で10個書き出した。文章は、「〇〇しない」という否定文ではなく、行動につながるための「〇〇をする」という表現とした。
- ◇書き出したもののうち、今の自分にとって簡単にできそうなものや身近な行動2つに★印を、実行に移すには少しハードルが高いかもしれないができるようになるというもの2つに♥印をつけた。

4. 人権と環境のための参加型教育、第2回のふりかえり 14:51 - [14]

- ◇資料『人権、環境の学び方教え方』を配付、個人で読んだ。
- ◇★印、♥印から人に伝えようと思うものを1つずつ選び、人権と環境を参加型で学ぶとはどういうことだったかを振り返り、2日間の感想をグループ内で伝え合った。
- ◇ファシリテーターコメント…参加型学習は行動変容を支える。学び合う中で、行動の基準になる大切なことが変わっていく。価値観が変わると行動が変わる。持続可能な未来に役立つような価値観を育てていきたい。「分かっているけどできない」という状態も可能性がある。覚えていれば、いつかはできるようになる。繰り返し思い出して意識化すれば、行動につながる。
- ◇ファシリテーターコメント…課題を共有すれば協力が生まれ、対等で丁寧な個コミュニケーションがあれば自信を持って発言できる。安心感のある場を作っていこう。
- ◇次回第3回の研修にて、全体アイスブレイクを担当してくれる人を募った。



5. 事務連絡 15:05 - [03]

- ◇JICA 中部 江口職員より、過年度受講者による「中部 BQOE 研究会」主催の、EDGs をテーマにしたワークショップ開催のお知らせをした。

★ 15:08 終了

— 研修で使用した教材の出典等一覧 —

- ・『世界人権宣言』…「気づきから学びへー人権学習ハンドブック基礎編」青森県人権教育・学習推進協議 2005 年3月
- ・『住むを避けるロールプレイ 外国人』シナリオ…大阪府企画調整部人権室発行「人権学習シリーズ vol.3 | 暮らす」
- ・『どうしてぶつの?』併発ポスター…高知県教育委員会「みんなでつくる人権学習～さいしょのタネをわたします～Part 3」
- ・『とりかえばや名刺』…ERIC 国際理解教育センター『いっしょにすすめよう! 人権/人権教育ファシリテーターハンドブック実践編』2002 年を基に NIED 作成
- ・『地球環境クイズ』…「はじめよう、未来へのアクション! 地球教室 基礎編」朝日新聞環境教育プロジェクト「地球教室」教材開発委員会
- ・『持続可能な環境を築くためのヒント』…NIED
- ・『人権、環境の学び方教え方作成』…NIED

※ NIED … 特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター

IV 開発教育指導者研修(実践編) 第3回

■ 開催概要

- ◆ 日 時：2019年8月24日(土) 13:00～17:15、25(日) 10:00～17:20
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：[1日目] 受講者39名、JICA5名、NIED6名 合計50名
[2日目] 受講者39名、JICA5名、NIED6名 合計50名
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第3回のねらい

★ 楽しく学ぶことから学ぶことが楽しくなる！参加型のデザイン

- ① 開発教育の中心テーマである「貧困」について、参加型で学びあう基本的な流れを体験する。
- ② 学習者の意識に沿った参加型プログラムの作り方について学ぶ。
- ③ 実際にプログラムを作り、ファシリテーターとしてプログラムを実施する練習をする。
- ④ 第3回後から第4回・実践報告フォーラム2020までの動きと必要な準備等を理解する。

■ プログラムの内容

● セッション1 「研修オリエンテーションとアイスブレイキング」 8/24 13:00-13:54

1. 主催者挨拶 13:00 - [03]

◇ JICA 中部 江口職員が開会を宣言した。

2. 第3回のねらいの確認 13:03 - [04]

◇ レジュメを基に第3回のねらいと進め方をファシリテーターが説明した。

3. アイスブレイキング「イルカショー」 13:07 - [13]

◇ 受講者がアイスブレイキングを提供し、ウォーミングアップを行った。

- ① グループ内でイルカ役1人を決め、他の人はトレーナー役になる。
- ② イルカ役は席を外し、トレーナー役はイルカの動きを決める。
- ③ イルカ役がグループに戻り、トレーナー役が考えた動きを当てる。トレーナー役は言葉を使わず拍手や表情だけで当たっているかどうかを表現する。



4. 自己紹介、第2回のふりかえり 13:20 - [34]

◇ 「この夏のキーワード」をテーマに、グループ内で自己紹介を行った。

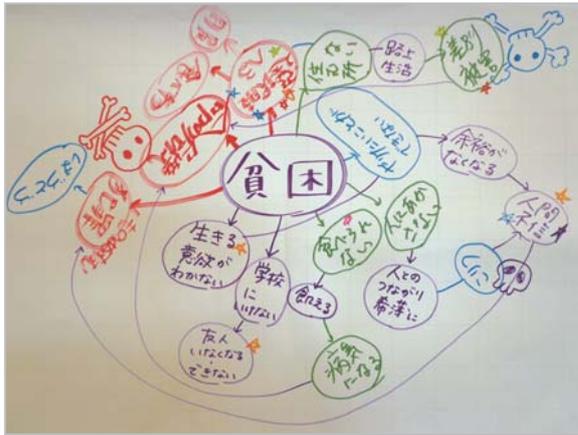
◇ 第2回研修の記録を配付。印象に残った部分3か所に下線を引ながら個人で読み、下線を引いた部分について自分の思いや考えをグループ内で伝え合った。

● セッション2 「SDGs ゴール1 貧困をテーマとした流れのあるプログラム体験」 8/24 13:54-17:15

1. 貧困とは何かを理解する…①貧困の影響、②最悪の帰結、③自分の言葉で貧困を説明 13:54 - [29]

- ◇ 模造紙の中央に「貧困」と書き、貧困に陥るとどうなるかを考え、思いつくことをグループで書き出した。
- ◇ 書き出した意見のうち、貧困がもたらす最悪の帰結だと思うものにドクロマークを付けた。
- ◇ 縦列で前後のグループに模造紙をまわし、自分のグループには出なかった意見に★印をつけた。

【「貧困の影響と最悪の帰結」成果例】



<最悪の帰結>

- ・ 選択肢が少なくなる（今日着るもの、食べるもの）
- ・ 差別
- ・ 病気になる
- ・ 生きる気力がなくなる
- ・ 犯罪
- ・ 奪い合う
- ・ 暴動
- ・ テロ行為
- ・ 戦争
- ・ 命の危機
- ・ 抜け出せない
- ・ 死

- ◇ 「貧困とは」で始める貧困の100字以内の説明文を個人で作成した。グループ内で共有し、貧困とはどのような状況をいうのか確認した。
- ◇ 世界の状況について、ファシリテーターから情報提供した。

<先進国と途上国の割合>

人口比 2 : 8 富の割合 8 : 2 エネルギー消費 7 : 3

<世界の貧困状況>

- ・ 世界人口 76 億人（2019 年）のうち、半数（38 億人）が 1 日 5.5 ドル（595 円）以下で暮らしている
- ・ 4 人に 1 人（19 億人）は、1 日 3.2 ドル（365 円）未満で暮らしている
- ・ 10 人に 1 人（7 億 3600 万人）が 1 日 1.9 ドル（205 円）未満で暮らす→極度の貧困（飢餓）状態にある
- ・ 3 人に 1 人はトイレを使うことができず、水と衛生施設の問題で毎日平均 5,000 人の子どもが命を落とす
- ・ 世界で最も裕福な大富豪 8 人の資産と、下位 50%（38 億人）の富の合計はほぼ同じ（2017 年）
- ・ 世界第 3 位の経済大国でありながら、日本の貧困率は上昇し続け、7 人に 1 人が貧困状態にある

- ◇ ファシリテーターコメント…貧困は、そのままにしておくと死につながる重大な人権侵害。人権・環境問題を解決するには、まず貧困解決が重要。課題解決は、その課題を理解することから始めよう。まずは、貧困を自分の言葉で説明できるようになることが大切。

2. 貧困の特徴を捉える…①貧困の悪循環、②ミーナの物語、③悪循環を断ち切る活動 14:23 - [38]

- ◇ 貧困の連鎖カードを配付。貧困が生み出す問題を連鎖させ、カードを輪になるように並べ、貧困の悪循環を考えた。

<貧困の悪循環カード内容>

学校に行けない／収入が少ない／働くための技術や能力が身に付かない／
 仕事ができない／食料が買えない／自分の子どもも学校に行けない／
 収入の安定した仕事に就けない／病気になりやすい／学校に行く時間がない／
 読み書きができない／十分な栄養が摂れない／子どもが親の手伝いを
 しなければいけない



- ◇ 資料『パーム油プランテーションとミーナの暮らし』を配付。個人で読み、感想を共有した。
- ◇ 貧困の悪循環を断ち切るための活動や団体名をグループでリスト化し、他のグループに伝えたいと思うものを全体へ発表した。

- 休憩 - 15:01 - [13]

3. プログラム例紹介、グループ替え、自己紹介 15:14 - [08]

◇ パーム油を題材に、ファシリテーターからプログラム例を紹介した。

- <プログラム例>
- ① パーム油ってなんだろう（どうやって作られているの？何に使われているの？）
 - ② パーム油を作る中で何が起きているんだろう？何が問題だろう？
 - ③ 私たちとの関係は？
 - ④ 解決するのに役立つこと、できること

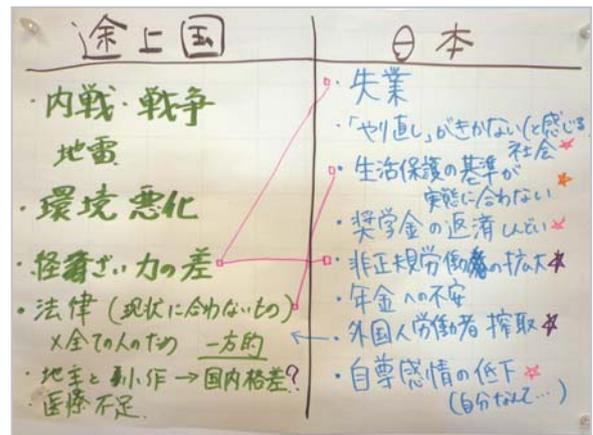
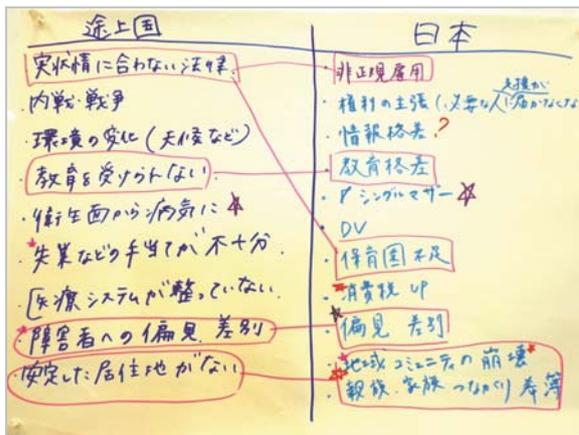
- ◇ じゃんけんで勝った人と負けた人が移動してグループ替えを行った。
 ◇ 新しいメンバーでじゃんけんをし、勝った人がテーマを決め、グループ内で自己紹介を行った。

4. 貧困の原因や背景を探る…①飢えの原因、②途上国と日本 15:22 - [31]

- ◇ 飢餓の状況にある人々の写真『PROFILES OF HUNGER』を配付。1人1枚取り、貧困に陥った背景を考えた。
 ◇ 写真の解説を読み、事実の確認をした。
 ◇ 貧困に陥る原因とその背景として考えられることを、写真の解説もふまえて日本と対比させて書き出し、途上国と日本で原因が同じだと思うものを線で結んだ。
 ◇ 他グループの模造紙を回し読みし、自分のグループでは出なかった意見に★印をつけた。



【「貧困に陥る原因と背景」成果例】



- <途上国の貧困>
- ・安全な水へのアクセス
 - ・衛生面から病気になる
 - ・医療不足
 - ・大資本の搾取
 - ・先進国の影響
 - ・内戦・紛争
 - ・汚職
 - ・教育の機会が少ない
 - ・食べ物が育たない地域
- <日本の貧困>
- ・学歴社会
 - ・奨学金・学費
 - ・増税・消費税UP
 - ・リストラ
 - ・ギャンブル依存
 - ・引きこもり
 - ・親族・家族のつながり希薄
 - ・地域コミュニティの崩壊
 - ・地域差別
 - ・外国籍の方への対応
- <原因が同じだと思うもの>
- ・国の政策
 - ・実状・実情に合わない法律
 - ・法的支援の不備
 - ・経済格差
 - ・教育へのアクセス格差
 - ・障がいへの理解不足
 - ・差別・偏見
 - ・若年妊娠
 - ・シングルマザー・ファザー
 - ・家族の失踪
 - ・安定した居住地がない
 - ・気候変動
 - ・負の連鎖

◇ ファシリテーターコメント…課題を生む原因が分かれば、解決のために何をしたらよいかのイメージがつく。課題の背景について、参加者が持つ知識や情報を出し合うこともできるが、対象者によっては資料で補完することも必要。単に資料を読むのではなく、フォトランゲージや物語などアクティビティにつながるようなものを使うとよい。

5. グループ替え、自己紹介 15:53 - [10]

- ◇ 受講者同士で確認し、同じグループになったことのない人でグループを作った。
 ◇ 「もし100万円あったら何に使うか」をテーマにグループで自己紹介を行った。

6. 貧困の原因や背景を探る…③構造的な貧困、④貧困の原因 16:03 - [13]

◇ 自分が利益至上主義の会社の社員だとして、先進国日本が途上国相手の貿易においてより多く儲ける方法を考えた。

- ・ 農業発展のために農薬をあげ、日本製の肥料がないと育たない土壌にする。
- ・ 他国に有償で技術協力し、インフラを差し押さえ、その国の経済を牛耳る。
- ・ 豊かな資源を安く買い、日本でできた製品を高く途上国に売る。

◇ 資料『おいしいコーヒーの真実 あなたが支払ったコーヒー代はどこへ行く?』を配付。コーヒーの利益配分を確認した。

◇ ファシリテーターコメント…自国至上主義、経済至上主義を追求し続けた結果、今の格差社会、貧困社会を構造的に作り出したと言えるのではないか。私たちも、その構造的貧困を作り出す原因に加担しているのではないか。

◇ ファシリテーターから、貧困解決のための手立ての一つ「フェアトレード」を紹介した。

<フェアトレード>

製品を適正価格で継続的に購入することを通じ、立場の弱い国の生産者や労働者の生活改善、最終的には生産者・労働者の権利や知識、技術の向上による自立を目指す。需要や市場価格の変動によって生産者が不当に安い価格で買い叩かれ、あるいは恒常的な低賃金労働者が発生することを防ぎ、また児童労働や貧困による乱開発という形での環境破壊を防ぐことを目的としている。

7. 貧困解決の方法を多角的に知る・考える 16:16 - [47]

7-1. 貧困解決の方法と事例 16:16 - [16]

◇ 資料『モロッコのムハンマドさん一家を救え?』を配付。物語を読み、貧困に陥らないための家族会議を開き、自分の家族を救うためのアイデアをグループで出し合った。

- ・ 二毛作 ・ 小麦以外を作る ・ 小麦を加工する ・ 地域で価格交渉する
- ・ 周りと協力して水を引く ・ お母さんが内職する
- ・ 風力発電を利用して、広い地域に水を引けるようにする
- ・ 働くメンバーを絞って、上の2人は学校に行く。家の中で下の子に教える
- ・ 一人成功させるようにがんばって、その子にひっぱってもらう



◇ 実際のムハンマドさんの話を読み、貧困から抜け出した事例を確認した。

7-2. グループ替え、自己紹介 16:32 - [06]

◇ 机の片方の列の人が移動し、グループ替えを行った。「好きな飲み物」をテーマに、グループで自己紹介を行った。

7-3. 貧困解決のために役立つ手立て 16:38 - [14]

◇ 資料『貧困解決のための多様な手立てのひとつ「ビッグイシュー」』を個人で読み、貧困解決の事例を知った。

<ビッグイシュー>

ビッグイシューは1991年にロンドンで生まれ、日本では2003年9月に創刊した。ホームレスの人の救済（チャリティ）ではなく、仕事を提供し自立を応援する事業。

◇ 資料『バングラデシュを救う9つの方法』を配付。より重要だと思うもの、重要ではないと思うものを1つずつ選んだ。

<バングラデシュを救う9つの方法>

- A: バングラデシュの産物（ジュートや米）を日本に輸入する
- B: バングラデシュの工業基盤を整備するために道路や港湾施設を作るプロジェクトに日本のODAを供与する
- C: 日本の国内においてバングラデシュの実状を正確に伝えるような広報、教育活動を行う
- D: 毎年起きる洪水の時期にバングラデシュに日本の食料を送る
- E: 農業に代わる産業の技術者を養成するためにバングラデシュから日本に研修生や留学生を受け入れる
- F: 資源や食物を節約するなど日本で私たちの消費生活を見直す
- G: バングラデシュ政府への政府開発援助（ODA）を削減する
- H: バングラデシュの農村開発を行う民間開発団体（NGO）に資金を提供する
- I: バングラデシュの農業研修センターに日本のODAを供与する

◇ 資料『援助・支援のはしご』を配付。援助・支援の目的とその形を確認した。

<援助・支援の目的>

人々が十分にいきいきと自立して生きるために必要なものにアクセスできるようになるようにサポートすること。最終目標は、援助しなくてもよくなること。

<援助・支援のはしご>

当事国が自立に向けて今のような段階にあるかによって、援助の仕方は異なる。

- ① 魚をあげる … 緊急援助（食料、医療、テントなど生命維持に緊急に必要なもの）
- ② 釣り竿をあげる … 物資援助（道具、物資、資財など）
- ③ 釣り方を教える … 技術援助・人材育成
- ④ 組織づくりをサポートする … 活動を持続・継続するための組合作りやマネジメントスキル支援
- ⑤ 後方支援 … 援助なしの自立を支援する（目は離さず、手を離す）

◇ ファシリテーターコメント…現状がどの段階にあって何が必要なかを見極めなければ、本当の支援にはならない。

7-4. 貧困解決のためにできること・実行しようと思うこと 16:52 - [11]

◇ 「貧困解決に役立つこと」をテーマに、グループで意見を出し合い模造紙に書き出した。

【「貧困解決に役立つこと」例】

- | | | |
|------------|---------------------------------|---------------|
| ・知る | ・課題解決に取り組む団体のことを知る | ・情報を受け取る努力をする |
| ・教育の機会を増やす | ・フェアトレード商品を買う | ・当事者と対話をする |
| ・仕事を作る | ・フェアトレード商品を買うことがかっこいいという価値観を広める | |

◇ 資料『貧困を脱却するために必要なもの・役立つこと』『青年海外協力隊職種リスト』を配付。貧困解決のためにたくさんのお手立てがあることを知り、自分に関わるなら何ができるかを考えた。

8. ふりかえり 17:03 - [10]

◇ 1日目をふりかえり、気づいたことや分かったこと3つと貧困解決のために私が実行しようと思うことをグループ内で発表し合った。

◇ ファシリテーターコメント…プログラムのテーマについて、ファシリテーターが全てを知っている必要はない。参加者の方が知識や情報を持っていることはよくある。ただ、少なくとも、人権（世界人権宣言が生まれた経緯）、環境（持続可能な環境のための4つのポイント）、貧困（構造的貧困の背景、貧困解決のために今取り組まれていること）は把握しておくことよい。専門的ではなくても、最低限の定義や周辺の情報を持っておこう。

9. 事務連絡 17:13 - [02]

◇ 受講者から、イベントや講座のお知らせを行った。

★ 17:15 終了

● セッション3 「教師海外研修報告」 8/25 10:00-10:28

◇ 同行ファシリテーター挨拶の後、①パラグアイの概要、②訪問先の紹介、③学校教育の現状と教材体験、④パラグアイの文化について、⑤研修を通して印象に残っていることについて、現地の写真および音楽と共に、現地で撮影した動画やクイズも交えて紹介した。



● セッション4 「プログラムを作る練習をしよう」 8/25 10:28-14:47

1. 参加型プログラムの作り方 10:28 - [12]

◇ 資料『貧困をテーマとした流のあるプログラム例』『20世紀の世界経済その「光」と「影」』を配付。ジョン・フリードマンの「豊かさの8つの指標」とアマルティア・センの「人間として十分に生きるために必要なもの」を共有し、流れのあ

るプログラムの作り方を確認した。

<ジョン・フリードマン「豊かさの8つの指標」>

- ① 教育 … 能力に応じて、容易に高等教育まで受けることができるか
- ② 意志決定 … 自分が関わる組織や地域の様々を決めるのに、自分の意志を反映させることができるか
- ③ 所得や賃金 … どの程度の収入があるか、利子の安い資金が簡単に借りられるか
- ④ 健康と安全 … 容易に医者にかかれ、健康で長生きができ、危害を受ける危険性が少ないか
- ⑤ ネットワーク … 人とのつながりがたくさんあって、互いに支えあうことができるか
- ⑥ 持続可能な環境 … 環境破壊が少なく、快適な生活環境が保たれているか
- ⑦ ゆとりある空間と時間 … 余暇時間（労働、通勤、家事以外の時間）がどれほどあるか、また、プライバシーを保てるだけの広さの家があるか
- ⑧ 文化とジェンダー … 文化が大切にされているか、異なる文化をどの程度まで受け入れているか、男性または女性に特定の役割が負わされていないか

<アマルティア・セン「人間として十分に生きるために必要なもの」>

- ① 社会的権利
- ② 経済的権利
- ③ 社会的機会
- ④ 情報の透明性
- ⑤ 救済保護の保障

◇ ファシリテーターコメント…必ずしも先進国が豊かとは限らない。豊かさをテーマにすると、経済的な視点だけではなく、これらの視点も持ってほしい。同時に、自分たちの豊かさも振り返ろう。

2. 1日目のふりかえり、自己紹介 10:40 - [10]

◇ 「1日目の気づき」「プログラムを作るとしたら何をテーマにしたいか」をテーマに、グループ内で自己紹介を行った。

3. 参加型プログラム作り 10:50 - [157]

3-1. 手順とテーマの確認 10:50 - [03]

◇ 資料『参加型プログラムの作り方5ステップ』『作成するプログラムの想定テーマ・ねらい』を配付。プログラム作りの手順と基になるテーマ案を確認した。

<プログラム作りの5つのステップ>

- ① テーマを決める…実践で扱いたいテーマをA4用紙に書く。
- ② テーマを理解する…テーマからイメージするものをブレインストーミングで書き出す。
- ③ ねらいを明確にする…プログラムを通して学習者が「何に気づくと良いか・何を知ると良いか」「何について考え・どう行動すると良いか」を対比表に書き出し、プログラムのねらいを設定する。
- ④ プログラムの流れを作る…学習者の意識の流れを考え、書き出した対比表に順番をつける。
- ⑤ プログラムを組み立てる…プログラムの起承転結を定め、それ沿ってアクティビティを当てはめる。

<7つの想定テーマ>

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| ① 肯定的な出会い+ステレオタイプを塗り替える | ⑤ 地球環境問題 気づきから行動へ |
| ② 多様性受容+多文化共生 | ⑥ 豊かさ/SDGs 誰も取り残さない |
| ③ 自分と世界のつながり+よりよい社会を | ⑦ わたし、あなた、みんなに関わるスキルビルディング |
| ④ 人権問題/貧困問題 気づきから行動へ | |

3-2. 個人でプログラム作り 10:53 - [77]

◇ 2時間の実践を行うと仮定し、プログラム作り5つのステップを個人で行った。

－ 休憩 － 12:10 - [63]

3-3. グループ作り、個人作成のプログラムをブラッシュアップ 13:13 - [77]

◇ 個人で作成したプログラムのテーマごとにグループを作った。

◇ プログラムをグループで紹介し合い、実践報告フォーラム2020 実践体験ワークショップで提供したいワークショップのベースとなる案を1つ決めた。プログラムは、実践体験ワークショップを想定し、中学生以上～一般対象、所

要時間 90 分とした。

- ◇ 資料『変化のための参加型—参加型の目的—』配付。参加型の目的とプログラム提供のポイントを確認し、個人案を基にフォーラム用プログラムを作成した。



<参加型の目的>

- ・無関心の悪循環を断ち、他人事を自分事につなぐ
- ・価値観を育て行動変容を支える
- ・共に生きる力、関わる力を育てる

<プログラム提供のポイント>

- ・楽しく学ぶ → 学ぶことが楽しくなる
- ・教えるのではなく、引き出す
- ・多様な手法を効果的に使う
- ・経験学習の 4 段階（体験する、ふりかえる、一般化する・原理原則を確認する、応用する）を意識し、気づきから行動へつなぐことを大切にする
- ・楽しさの中にも、気づき、発見、学びがある
- ・個人の関心を引き出す → 考えを引き出す
- ・発散と収束を組み込む

- 休憩 - 14:30 - [17]

● セッション5 「発表とふりかえり、そしてフォーラムへ」 8/25 14:47-17:17

1. プログラム発表、ファシリテーション実践 14:47 - [105]

- ◇ グループごとにプログラム発表と実践を行った。1 グループの持ち時間を 8 分（プログラム概要説明 2 分+部分ファシリテーション実践 6 分）とし、体験者は、フィードバック（良かった点、改善提案）を付箋に記入し、全グループ発表後に各グループに渡した。



【プログラムのねらいと展開】

1. 人権：Girls can change the World!

<p><u>ねらい</u> ・開発途上国の女の子が置かれている状況について知り、課題に気づく</p> <p>・女の子の願いと可能性について考え、誰もが活躍する社会・世界を作る方法を考える</p>	<p><u>展開</u> 1) ある女の子の生活について知る</p> <p>2) その子の思い、願いについて考える</p> <p>3) その子の願いを邪魔しているもの（原因）、解決策（対策）を考える</p> <p>4) 誰もが潜在能力を生かすことができる社会に変えていくことの大切さに気づき、自分ができることを見つける</p>
---	---

2. 豊かさ：豊カテゴリー

<p><u>ねらい</u> ・豊かさについて考える</p> <p>・みんなが豊かになる方法を考える</p>	<p><u>展開</u> 1) 豊かな生活って何だろう？</p> <p>2) 豊かさを得るために必要なこと</p> <p>3) 豊かさでない人々がいるのはなぜ？</p> <p>4) みんなが豊かになるために</p>
---	---

3. SDGs：東京 2020SDGs

<p><u>ねらい</u> ・東京 2020 大会と SDGs との関わり</p> <p>に気づく</p> <p>・持続可能な社会について考え、自分達にできることを見つける</p>	<p><u>展開</u> 1) 東京 2020 大会から SDGs を知る</p> <p>2) SDGs がなかったらオリンピックはどうなる？</p> <p>3) スポーツと SDGs の実践例を知る</p> <p>4) 自分たちにできる SDGs は？</p>
--	---

4. フードロス：みんなが幸せになる飲み会！

<p><u>ねらい</u> ・日本は多くの食べ物を輸入し、多くのフードロスをしている現状を知り、自分がそれに加担していることに気づく</p> <p>・フードロスを減らすためにできることを考える</p>	<p><u>展開</u> 1) 多くの食べ物をロスしている現状を知り、フードロスに自分も荷担していることに気づく</p> <p>2) 日本が多くの食べ物を輸入をしていることを知る</p> <p>3) フードロスによる問題について考える</p> <p>4) 何ができるのかを考える</p>
--	---

5. 多様性・共生：みんなアミーゴ！！

<p><u>ねらい</u> ・世界の文化について知り、多様な文化があることに気づく</p> <p>・世界の人と共生するにはどうすればよいか考える</p>	<p><u>展開</u> 1) 世界と日本の文化について知る</p> <p>2) 世界と日本の共通点や相違点を知る</p> <p>3) 外国の人と共生するにはどうすれば良いかを話し合う</p> <p>4) 自分にできることを考える</p>
--	---

6. 多様性受容：ウェルカム トゥ ジャパン～日本で働きませんか？～

<p><u>ねらい</u> ・海外から見た日本について考え、日本の魅力や問題点に気づく</p> <p>・外国人労働者問題を考え、人権についての理解を深める</p>	<p><u>展開</u> 1) 日本はどんな国？</p> <p>2) 日本の魅力と問題点</p> <p>3) 外国人労働者問題について</p> <p>4) 外国人労働者が働きたい会社を考えよう</p>
---	--

7. 環境：電気使いすぎじゃない！？

<p><u>ねらい</u> ・エネルギーについて知り、発電に関する問題点に気づく</p> <p>・100年後の地球を守るための方法を考え、手立てを共有する</p>	<p><u>展開</u> 1) 普段どのように、どのくらい電力を使っているか気づく</p> <p>2) 発電方法とそれにおける問題点について知る</p> <p>3) どのように地球を守っていくか考える</p> <p>4) 自分達に何ができるか話し合う</p>
---	---

8. 環境：カメさんはコンビニがきらいらしい

<p><u>ねらい</u> ・プラスチックの行く末を知り、私たちがしているコトに気づく</p> <p>・今ある地球環境を守るために、今からできることを行動に移す</p>	<p><u>展開</u> 1) 共通するのは〇〇〇！</p> <p>2) コンビニのプラスチックから日本を知ろう！</p> <p>3) なぜプラスチックに頼るんだろう→このままプラスチックが増え続けると…どうなる！？</p> <p>4) 持続可能なコンビニをプロデュース！</p>
--	--

2. 実践報告フォーラム 2020 で提供したいプログラム選び、担当決め 16:32 - [31]

◇ プログラム発表と体験をふまえ、実践報告フォーラム 2020 で行う 4 つの実践体験ワークショップで提供するプログラムを 1 人 3 つまで選び、上記番号 3、4、6、8 を選定した。

◇ 実践報告フォーラム 2020 にて実践体験ワークショップを担当する有志を募り、メンバーを決めた。

3. ふりかえり 17:03 - [08]

◇ 2 日間を振り返り、感想を共有した。

4. 実践報告フォーラム 2020 の概要説明と準備のお願い 17:11 - [06]

◇ 資料『実践報告フォーラム 2020 のプログラムとお願い』を基に、実践報告フォーラムの内容、実践体験ワークショップ検討会・実践フォローアップスケジュールについて事務局から説明を行った。

＜実践体験ワークショップ検討会・実践フォローアップスケジュール＞

第 1 回：10/19（土）

第 2 回：12/15（日）

①10:00～12:00 教師海外研修報告検討会

②13:00～15:30 実践体験ワークショップ検討会

③15:30～17:00 実践フォローアップ会



5. 事務連絡 17:17 - [03]

◇ JICA 中部 江口職員から、貧困の悪循環を断ち切る取り組みをしている団体の紹介、イベント「ワールド・コラボ・フェスタ」のお知らせを行った。

★ 17:20 終了

— 研修で使用した教材の出典等一覧 —

- ・『貧困の連鎖カード』 … JICA 「『生きる力』を育む国際理解教育実践資料集」
- ・『パーム油プランテーションとミナーの暮らし』 … DEAR 「パーム油の話ー地球にやさしいって何だろう？」 2011 改訂
- ・『PROFILES OF HUNGER』 … WORLD VISION AUSTRALIA 「PROFILES OF HUNGER」 1995
- ・『おいしいコーヒーの真実 あなたが支払ったコーヒー代はどこへ行く？』 … 「おいしいコーヒーの真実」公式サイト <http://www.uplink.co.jp/oishiicoffee/>
- ・『モロッコのムハンマドさん一家を救え？』 … 愛知県国際交流協会 「世界の国を知る・世界の国から学ぶ 私たちの地球と未来」モロッコ編
- ・『貧困解決のための多様な手立てのひとつ「ビッグイシュー」』 … ビッグイシュー日本版ウェブサイト <http://www.bigissue.jp/>
- ・『バングラデシュを救う9つの方法』 … DEAR 「わくわく開発教育」
- ・『援助・支援のはしご』 … フランシスコ・オゴールマン著、国際理解教育あいち訳 「ボランティアの未来」等を参考に NIED 作成
- ・『貧困を脱却するために必要なもの・役立つこと』 『青年海外協力隊職種リスト』 … JICA ウェブサイト
- ・『貧困をテーマとした流のあるプログラム例』 … NIED
- ・『20世紀の世界経済その「光」と「影」』 … 各種ウェブサイト統計データ等より NIED 作成
- ・『ジョン・フリードマン「豊かさの8つの指標」』 『アマルティア・セン「人間として十分に生きるために必要なもの」』 … DEAR 「貧困と開発ー豊かさへのエンパワーメント」 2005
- ・『参加型プログラムの作り方5ステップ』 『作成するプログラムの想定テーマ・ねらい』 … NIED
- ・『変化のための参加型ー参加型の目的ー』 … 名古屋市 「環境学習実践者向けESD ガイドブック「ESD はじめの一歩」

※ JICA … 独立行政法人 国際協力機構

DEAR … 特定非営利活動法人 開発教育協会

NIED … 特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター

V 中間会合（有志参加）

■ 開催概要

- ◆ 日 時：第1回 2019年10月19日（土）／第2回 2019年12月15日（日）
実践体験ワークショップ検討会 13:00～15:30、実践フォローアップ 15:30～17:00
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：実践体験ワークショップ検討会
[第1回] 受講者 24名、NIED 4名 合計 28名
[第2回] 受講者 28名、JICA 1名、NIED 4名 合計 33名
実践フォローアップ
[第1回] 受講者 3名、NIED 4名 合計 7名
[第2回] 受講者 3名、JICA 1名、NIED 4名 合計 8名
- ◆ ファシリテーター：第1回（特活）NIED・国際理解教育センター 久世治靖氏
第2回（特活）NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 実践体験ワークショップ検討会・実践フォローアップのねらい

- ① 実践報告フォーラム2020における受講者有志による実践体験ワークショップの実施支援、受講者の各現場での実践状況を共有し助言する。

■ プログラムの内容

● 「実践体験ワークショップ検討会」

1. 第1回 10/19 13:00-15:30

- ◇ 開発教育・国際理解教育の目的をファシリテーターが説明、再確認した。

＜開発教育。国際理解教育の目的＞

「知る・考える・気づく、気づく・考える・行動する」

人権、環境、平和など、人類共通の課題を理解し、課題を解決し、望むよりよい未来を共に築くための力を育む教育



- ◇ 第3回研修で作成した、実践体験ワークショップの基となるプログラムの確認および他グループからの提案を共有した。
- ◇ 次の指標と流れで、実践報告フォーラム2020で提供するプログラムに再構築した。当日の参加予定人数は30～40名（4～5人×7～8グループ）と設定した。

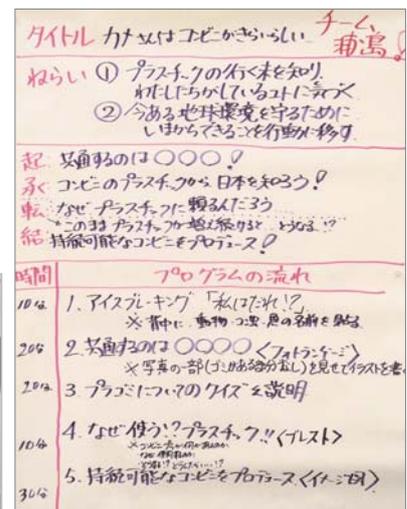
＜プログラム再構築の指標＞

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ・ねらいは明確か（対象者に合っているか） | ・手法に偏りはないか |
| ・ねらいを達成しうる内容と流れか | ・参加者が主役か |
| ・「気づき」はあるか | ・時間配分は適切か |
| ・あたらしい情報、知識と出会えるか | ・「発散」と「収束」のバランスはどうか |
| ・楽しさはあるか | ・次につながるものはあるか |

＜流れ＞

- | | |
|----------------------|--------------------|
| ① ねらいを見直す | ④ プログラム詳細を考える |
| ② 流れを再設定する | ⑤ ワークショップのタイトルを決める |
| ③ メインとなるアクティビティを選定する | |

- ◇ プログラム概要を模造紙に書き出し、全体へ発表した。
- ◇ 他グループが、プログラムをより良くするための質問をした。
- ◇ 質問を受け、プログラムのブラッシュアップ版を作成するためのスケジュールをグループで検討し、ミーティング日時などを決めた。



2. 第2回 12/15 13:00-15:30

- ◇ プログラムの内容を考慮し、実践報告フォーラム2020での所要時間を90分から120分に変更したことをファシリテーターから伝えた。
- ◇ ファシリテーターからのプログラム改善提案を配付、個人で読み、改善案を考え、グループ内で発表し合った。
- ◇ グループで再度プログラムをブラッシュアップさせるための話し合いをし、全体へ発表した。
- ◇ 当日までに準備が必要なものの確認と役割分担を行った。
- ◇ 当日の配付資料も含め、1月末までにプログラム最終版を提出するよう、事務局から依頼した。



★ 15:30 終了

● 「実践フォローアップ」

1. 第1回 10/19 15:30-17:00

- ◇ 個人の実践について、フォローアップを希望する受講者が出席、参加した。
- ◇ 少人数のグループに分かれて相談会を行った。受講者一人ずつ、実践で予定している内容と、検討事項や悩みなどを伝え、アイデア出しや提案、アドバイスをを行った。
- ◇ グループには、NIEDメンバーもアドバイザーとして加わった。

2. 第2回 12/15 15:30-17:00

- ◇ 第1回と同様に、希望者が参加し、フォローアップを行った。



★ 17:00 終了

VI 実践報告シート

■ 実践報告シート一覧 (五十音順)

No.	名前	対象	時間数	タイトル
01	青山将太郎 P	小学校2年生(21名)	9	残さず食べよう～ぼく・わたしができること～
02	青山岳史	中学校2年生(外国籍19名)	4	道徳×参加型の授業づくり ～きみがいちばんひかるとき～
03	石川敬祐	小学校3年生(126名)	9	ESD のカリキュラムデザイナーになろう！ー地域教材を事例にー
04	伊藤聡子	中学校3年生(168名)	6	〇〇×SDGs ～スポーツを切り口に考える～
05	大島俊介	小学校6年生(98名)	12	「つ丸プロジェクト～津島市の魅力を発信しよう～」に向けて
06	加藤幹大	高校2年生(18名)	6	SDGs の PR ポスターを作ろう！
07	金尾垂生子 P	小学校帰国児童高年生(27名)	5	日本も世界もみんなアミーゴ
08	釜田千賀子	高校2年生(20名)	2	環境にやさしい学校とは？
09	狩山智美 P	小学校6年生(68名)	15	世界を見よう。知ろう。考えよう！
10	川上真由子	高校1年生(80名)	18	Food Miles: Where Does Our Food Come From ?
11	河村知里	小学校4年生(36名または71名)	33	身近な自然から考える環境問題
12	久米達哉	中学校1年生(89名)	4	わたしの1日、あなたの1日 ～よりよい未来のために～
13	児玉やこ	小学校5・6年生(220名)他	1	SDGsを知ろう！～世界中の人、みんな大切な存在～
14	小垂祐介	中学校2年生(251名)	5	環境に優しい学校をデザインしよう
15	坂田英香	小学校5年生(28名)	35	知ろう！守ろう！私たちの地球
16	佐々木恵 P	小学校4年生(32名)	4	みんなが住みたい！と思う世界に
17	三小田京子	小学校6年生(30名)	9	10年後のわたしたちの世界をよくするために～貧困～
18	柴田英子 P	小学校6年生(77名)	15	We are all one!! ～SDGs への取り組みを通して～
19	清水美季	高校3年生(就職志望 26名)	3	SDGsで考える「働き方改革」！
20	杉山菜生	特別支援学級1、2年生(5名)	12	ぼくたちの町から世界の町へ～どんな町にどんな人がいるんだろう？～
21	戸塚康博	高校2年生	6	台湾から世界へはばたこう
22	西田香奈子	小学校6年生(191名)	20	持続可能でよりよい世界の未来って、どんな未来？
23	西平祐紀	小学校6年生(22名)	7	ぎょうざから地球について考えよう
24	野口哲平	中学校2学年(19名)	5	SDGsを社会科に組み込もう
25	野村満里奈	初級日本語学習者(15～20名)等	3	インドネシアを知ろう+にほんごを学ぼう
26	箱山園江	高校2年生(78名)	2	ジェンダーの平等がいちばん大事なこと!!
27	長谷川義洋 P	特別支援学級(自閉・情緒6名)	7	世界の国々について知ろう
28	前田昌美	高校3年生(26名)	4	Happy Valentin?!ーChildren in Ghana are cryingー
29	宮川勇作	小学校5年生(84名)	16	自分を見つめ、みつけよう未来
30	宮嶋いずみ P	小学校6年生(35名)	8	世界のこと、みんなと一緒に考えよう！
31	村上偉代	高校3年生(31名)	6	わたしの「力」
32	村瀬泰広 P	小学校6年生(19名)	20	結集せよ！～日本の未来を支える頭脳～
33	MORI Keiko	中学校2年生(35名)	3	人道支援を通してグローバルな視点を持つ
34	森谷朋香	小学校1年生(18名)	6	世界と出会おう！楽しもう！！
35	山口郁子	中学校1年生(155名)	12	夢みる力～輝く明日に向かって！～
36	湯浅郁也 P	中学3・高校2年生(160名)	3	遠そうに近いパラグアイ
37	油浅重里	中学校2年外国籍生徒(6名)	8	それぞれの素晴らしさ～違いを越えるために必要なこと～
38	横井美月 P	高校1年生(317名)	3	世界のつながり、ありがとう！
39	脇田佐知子	兵庫教育大学大学院生	3	本当にこれでいいのかな？～食品ロスから日本の未来を考える～

凡例:「P」…パラグアイ教師海外研修受講者

残さず食べよう～ぼく・わたしができること～

01

所属	愛知県岡崎市立六ツ美中部小学校	実践者	青山 将太郎
対象	小学校2年生（21名）	実践日	2019年9月～11月
実践教科	生活・特活	時間数	9時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と世界のつながりを感じ、外国に興味を持つ児童を育成する。 ・日本が食品ロスを多くしている現状を知り、食品ロスを減らすために自分たちにできることはないかを考え、行動する児童を育成する。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<u>パラグアイの紹介をする。【クイズ】</u> ・振り返りとして、パラグアイの驚いたところや、自分たちと似ているところを挙げる。	・パラグアイのクイズ・紹介用の PowerPoint
	2	<u>外国から食べ物が来ていることを買い物体験から想起させ、外国産のものを多く輸入していることを知る。そして、どんな食べ物が来ているかをちらしや世界地図を使って調べる。</u>	・算数科・生活科でスーパリーにカレーの材料を買った後に行う ・各班に世界地図やちらし、付箋(赤青黄)を用意する。
	3	<u>自分の家では、どんな外国の食品を買っているかを調べ、クラスで発表する。</u>	・買った食品や買い物について行って見つけた食品でもよい。
	4	<u>日本の現状を知る</u> ・「どうする？食べ物がもったいない」を視聴し、日本の現状を知る。 <div style="text-align: right;">【ビデオ視聴】</div>	・kgやtの単位量が少ないため、「先生〇人分」などの解説を入れるとよい。
	5	<u>六ツ美中部小学校はどれくらい残しているんだろう？栄養教諭の先生にインタビューしてみよう。</u> ・自分たちがどれだけ残しているか、現状を知る。【インタビュー】	・事前に質問内容を調べ、栄養教諭に伝えておく。
	6	<u>他県の小学生の取り組みを知り、自分たちにできないか考え、話し合う。</u> ・「こうする！食品ロスをなくそう」を視聴し、自分たちにできないか考え、話し合う。【ビデオ視聴】	・自分たちにできることを「学校の中でできること」に限定させて考えるように促した。
	7	<u>発表の流れを考える。</u> ・発表内容の決定⇒グループ決め	
	89 朝会	<u>発表準備をする。(発表原稿・資料・練習)</u> <u>全校集会を開き、これまで学習してきたことを発表する。</u>	
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・世界について興味を持つ児童は確実に増えた。児童が家で国旗を調べたり、タブレットで外国について調べる姿などがあったことを懇談会で保護者から聞いた。 ・家で冷蔵庫の中を見て、賞味期限を調べ、期限が切れそうなものを優先して食べるなど、授業を通して、行動に変容が見られる児童がいた。 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・第2時は、小学校2年生には、情報量が多かった。また、各班に印刷した世界地図だと、国名が潰れてしまい見にくかった。タブレットを各班に配付して、世界地図を見させた方がよりよいと感じた。 ・「全校集会を行った後、継続してどんな取り組みを全校にしていけるか」を考えなければならない。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・この実践と同時並行で、9月「カレーの材料を買いに行く」10月「学芸会『給食番長』」を行っていたため、児童は、このプログラム以外でも食について考える時間があつた。 		

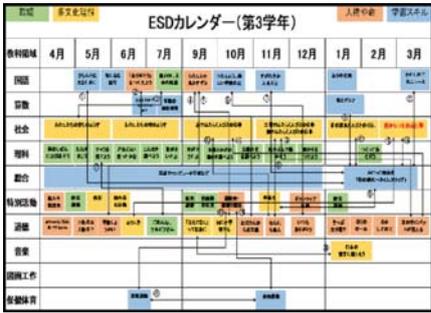
道徳×参加型の授業づくり ～きみがいちばんひかるとき～

02

所属	岐阜県可児市立蘇南中学校	実践者	青山 岳史
対象	中学校2年生（外国籍 19名）	実践日	2019年10月～2020年1月
実践教科	道徳	時間数	4時間
ねらい	外国籍生徒の取り出し授業を通して道徳への参加を促し、生徒の ・仲間のよさを見つめ合う活動を通して、自分には自分だけのよさがあることを知る。 ・違いの意味を見直し、自分とまわりは関係があることに気づく。 ・立場が違う人同士がお互いによい気持ちになるためには何が必要か考える。 ・みんなが共に生きていくために自分に何ができるが考え、行動できることを決める。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	○自分のよさを知る 『やさしさの光線』～セルフエスティーム～ ・資料を読んで主人公が前向きになれた場面に気づく ・仲間のよさを書きだす。【イメージマップ】 ・自分のよさに気づく。 ・振り返る	教材 中学道徳教科書 「きみがいちばんひかるとき」 光村図書 絵本 『ちがいを豊かさに』 岩川直樹／文 木原千春／絵 大月書店
	2	○違いの意味を見直す 『ちがいを豊かさに』～共生～ ・「関係ない」という言葉について考える。 ・バングラデシュについて知り、物語を読む。【クイズ】 ・「関係あるからです」という言葉の真意を考える。 ・自分とまわりの「関係ある」ことに気づく。	
	3	○立場が違う人の気持ちを考える 『桃太郎の鬼退治』～相互理解・寛容～ ・桃太郎の物語を読む。 ・桃太郎と鬼のイメージを出す。【対比表】 ・鬼の子の思いを知る。 ・だれもが「めでたしめでたし」になるために必要なことを考える。	
	4	○違いがある人と共に平和をつくるために 『アンネのバラ』～国際理解・社会参画～ ・アンネと戦争について知る。 ・平和な世界は何があるか・できるか考える。 ・平和な世界をつくるために自分にできることを考える。 ・振り返る。【行動宣言】	
成果	導入で視覚的な教材を用いたことにより、興味をもって資料を読もうとする姿があった。 考える場面を絞り、活動や発問を焦点化したことで、生徒が自分の考えを持つことができた。 小集団で考える時間を確保したことで、お互いに意見を出し合い活動に参加する姿が見られた。		
課題	どの参加的な手法を用いることが、道徳的価値を考えるためのより有効な活動になるのか考える必要がある。日本語の力に差があるので、生徒の意識や学びの進度を意図的にそろえる場面が必要だと感じた。		
備考	本校は外国籍生徒が全生徒数の約18%在籍する。 その中の日本語指導が必要な生徒(2年生)の19名を対象に行った道徳の授業。		

ESD のカリキュラムデザイナーになろう！—地域教材を事例に—

03

所属	愛知教育大学教職大学院	実践者	石川 敬祐
対象	小学校3年生(126名)	実践日	2019年6月～9月
実践教科	社会科・総合的な学習の時間	時間数	9時間×4クラス
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のお祭り「須成祭」の伝統的、文化的な価値に気づく。 ・「須成祭」の今日的課題を自分事として捉える。 ・「須成祭」の未来に向けて、自分に何ができるか考え、新聞にまとめる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	0	<p>◆ESD実践としての「須成祭」の教材的価値を吟味する。</p> <p>I 年間指導計画における位置づけ</p> <p>II 持続可能な社会づくりの構成概念(多様性、相互性、有限性、公平性、連携性、責任性など)の吟味</p> <p>III 児童の実態把握</p> <p>IV 学習後の価値観と行動が変容した姿の明確化</p> <p>V 評価方法の選定</p>	<p>0-I:「ESDカレンダー」の作成</p> <p>0-II:国立教育政策研究所(2012)の資料参照</p> <p>0-IV:「知の構造」を活用した獲得すべき知識やスキルの整理</p> <p>0-V:パフォーマンス課題・評価やOPPA(一枚ポートフォリオ評価)の導入</p>
1	◆教材「須成祭」と出会う。		<p>2-I:歴史民俗資料館の学芸員さんたちによる出前授業</p> <p>4・5-I:須成祭で実際に使われている道具などを観察したり、VR体験をしたりする</p> <p>9-I:児童用のルーブリック(評価指標)を活用</p> <p>9-II:OPPAを通じて、自己の学習前後の変容に気づく</p>
2	I ユネスコ無形文化遺産に登録されている地域のお祭り「須成祭」		
3	◆「須成祭」について知る。		
3	I 「須成祭」に関する動画の視聴や講話(地域の人的資源の活用)		
4・5	◆「須成祭」の理解を深める。		
4・5	I 100日間の流れの整理や400年以上続いている疑問の探究		
6	◆「須成祭」の課題を発見する。		
6	I 地域の観光交流センター「祭人」の見学(地域の物的資源の活用)		
6	II 若者の後継者不足などの課題の発見		
7・8	◆「須成祭」の未来を考える。		
7・8	I お祭りの後継者不足などの課題をふまえて、「須成祭」を未来に残していくためにはどうすればいいのかを考え、話し合う		
9	◆「須成祭」の学びを表現する。		
9	I 「須成祭」について学んだことや考えたことを新聞にまとめる		
9	◆「須成祭」の学習を自己評価する。		
9	I 新聞の自己評価		
9	II 単元全体の振り返りと自己評価		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞作り(パフォーマンス課題)において、それぞれの授業で得た知識や働かした思考を多面的に表現することができた。 ・地域のお祭り「須成祭」の伝統的、文化的な価値に気づくことができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの児童たちが「須成祭」の課題を自分事として捉えるための手立てやカリキュラムの必要性 ・教室に留まらない、日常生活や地域社会に関わる行動化 ・評価に多大な時間を要すること 		
備考	<p>本報告では、教育実習における実践を基に、ESDのカリキュラム論について一提案を行う。</p>		

〇〇×SDGs ～スポーツを切り口に考える～

04

所属	愛知県海部郡大治町立大治中学校	実践者	伊藤 聡子
対象	中学校3年生（168名）	実践日	2020年6月～12月
実践教科	保健体育・総合的な学習の時間	時間数	6時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの魅力、オリンピックやパラリンピックのいいところ、SDGsについて知る。 ・東京2020大会や企業、大学生の活動を知り、身近にあるSDGsの取り組みに気づく。 ・SDGs達成のために、自分たちが身近にできることを考えて行動する。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	「スポーツの文化的意義って…？」 ① 自分のスポーツ歴を振り返る。【タイムライン】 ② スポーツをする理由を書き出す。【派生図】 ③ 生涯スポーツの概念を知る。【クイズ】 ④ 今後、行いたいスポーツを①のスポーツ歴に付け加える。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『中学校保健体育』大日本図書（1～3回で使用） ・大野益弘『心にのこるオリンピック・パラリンピックの読みもの3』学校図書
	2	「スポーツの国際大会の役割って…？」 ① スポーツの国際大会について知る。【シンボルクイズ】 ② オリンピックの感動ドラマを読み取る。【フォトランゲージ】 ③ オリンピックのよさを出し合う。【ブレインストーミング】 ④ オリンピックの理念やオリンピズムを知る。【クイズ】 ⑤ オリンピックとのかかわり方を4つの視点（見る・支える・する・調べる）で考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・『すごろくゲーム“ゴー・ゴールズ！”』国連広報センター
	3	「スポーツの魅力って…？」 ① 学校や地域でスポーツが行われているわけを考える。【リスト】 ② 6枚の写真からスポーツの魅力を見つけ出す。【KJ法】 ③ パラリンピックの競技について知る。【クイズ】 ④ 「スポーツのいいところ」を5か条で書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・『持続可能性に配慮した運営計画第二版（概要版）』公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
	4	「学ぼう！SDGs “ゴー・ゴールズ！” ① SDGsについて知る。【すごろくゲーム】 ② 他のグループの人にも伝えたいベスト3を選び、共有する。【ランキング】【ワールドカフェ方式】	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社オリエンタルランド、日本 KFC ホールディングス株式会社のホームページ
	5	「東京2020大会×SDGs」 ① 「オリンピックへの思い」「見たい競技」を伝え合う。【アイスブレイキング】 ② 東京2020大会とSDGsとのかかわりを知る。【線つなぎ】 ③ SDGsを掲げた場合と掲げない場合の東京2020大会を考える。【派生図】	<ul style="list-style-type: none"> ・『2030 SDGs で変える』『SDGs ACTION! ②世界を変える新しい潮流』朝日新聞
	6	「わたしの行動宣言～身近にできるSDGs～」 ① 企業×SDGs、大学生×SDGsの取り組みを知る。【ジグソー法】 ② SDGs17項目の中で取り組みたい目標ベスト3を選ぶ。【ランキング】 ③ SDGs達成のために、自分にできることを考える。【行動計画づくり】	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の地球環境問題と結び付けながらSDGsについての考えを深め、自分にできることが身近にたくさんあること、一人一人が行動に移さないと何も始まらないことに気づくことができた。 ・すべての活動で参加型の手法を取り入れることで、普段あまり発言することのない生徒が積極的に活動する姿が見られるなど、一人一人の活躍の場が広がった。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsへの取り組みの意欲が持続するように継続的な実践を行ったり、全ての教科でSDGsとのつながりを意識した学習をしたりするなど、しっかりと計画を立てて、周りの人を巻き込んだ実践をしていきたい。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・“ゴー・ゴールズ！”のすごろくゲームの実践後、SDGsをより多くの人に知ってもらうため、全校朝礼のクラススピーチの中で「学校みんなに伝えたい！」というものをいくつか紹介した。 		

「つし丸プロジェクト～津島市の魅力を発信しよう～」に向けて

05

所属	愛知県津島市立東小学校	実践者	大島 俊介
対象	小学校6年生（98名）	実践日	2019年6月～2020年1月
実践教科	総合的な学習の時間・国語	時間数	12時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・教育を受けたいと夢を抱く世界の子どもたちの考えと肯定的に出会い、自分にできることを考える。 ・海洋プラスチックの問題から、今からでも自分たちにできることを仲間と共に考える。 ・自分の住む街に興味をもち、持続可能な街づくりをデザインする。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1・2	<p>◆子どもたちの貧困『教育を受けられない子どもの夢から学ぶ』</p> <p>①「あなたは写真家」 一部を意図的に隠した写真が何を写したもののかを考える。写真から分かる世界の子どもたちの現状を知る。</p> <p>②「私の生活に必要なもの。あなたの生活に必要なもの」 生きていくために必要なものは同じでも、無くて困っているものは違うことに気づき、写真の子どもが必要としている物が何なのかを考える。 【ブレインストーミング、TOP3ランク付け】</p> <p>③「私を見つめて」 印象的だったことを3つ考え、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・World Vision から引用した写真 ・模造紙、ペン ・大型テレビ
	3・4	<p>◆環境『海洋プラスチックの問題から、今自分に出来ることを考える』</p> <p>①「プラスチックはなぜ使う」 コンビニで購入するほとんどのものにプラスチックが使用されていることに気づき、なぜプラスチックを使う必要があるのかを考える。【プレスト、ダイヤモンド型ランク付け】</p> <p>②「あなたは写真家」 写真から分かる海洋プラスチックの現状を知る。</p> <p>③「クイズで知る海洋プラ」 4択のクイズをしながら、海洋プラ問題に迫る。</p> <p>④「ビニル袋に代わるもの」 身近で使っているプラスチックを他の物を代わりに使うことができないかを考える。自分に出来ることを1つ選び、発表する。【対比表、行動宣言】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・WWF ジャパンから引用した写真 ・模造紙、ペン ・NHK 就活応援ニュースゼミから引用したクイズ ・大型テレビ ・動画「空飛ぶレジ袋」
	5・6	<p>◆人権『世界人権宣って何』</p> <p>①「宇宙人との交信」 初めて人間を見る宇宙人に、「人間」とはどんな生き物かを説明し、定義させる。その定義から、世界中の人々の人権が守られているか考える。【カード式整理法】</p> <p>②「世界人権宣言との出会い」 【TOP3ランク付け】</p> <p>③「権利の熱気球」 自分と相手とでは大切だと思っている権利に違いがあることに気づくとともに、世界中の人の人権を守るためには優先順位を考えるものではないことに気づく。【ランキング】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アムネスティ・インターナショナル日本支部訳の世界人権宣言 ・模造紙、ペン ・大型テレビ ・SDGs掲示物 ・動画「SDGs×商店街」
	7～12	<p>◆SDGsの紹介『未来のために私にできること』</p> <p>①学習を振り返り、自分が印象に残っているものを選び、未来のために私ができることを考える。【行動宣言・選択型ポスターセッション】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動画「トーマス SDGs出発進行」 ・動画「SDGs×商店街」
成果	<p>複数回にわたり行動宣言を行ってきたことで、今の自分の生活を見直し改める児童や、実際に行動を始める児童がたくさんいた。また、SDGsゴール11を達成するために、津島市民が津島市を愛することができるよう、総合学習で「つし丸プロジェクト：津島市の魅力を発信しよう」を行った。津島市の魅力に津島市民に再確認してもらうことを目標にするとともに、津島市の良いところを守っていくために自分にできることを考えたことで、「私たち小学生でもできるのだ」という自信をつけることができた。津島市民からの励ましの言葉に感動する児童が多くおり、学習の振り返りの文章から自己肯定感の高まりを感じることもできた。</p>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティ中心の授業に不慣れな児童に対して適切な時間を設けることができず、十分な意見の抽出や共有を図ることができなかった。 ・教科横断型のプログラムを年度当初に作ることで、児童の学習意欲の向上を図ることができる。 		
備考	<p>アイスブレイクの有用性を感じた。実践は「3つは本当、1つはウソ」「私はだれ？」「素敵なハート」ほか。</p>		

SDGs の PR ポスターを作ろう！

06

所属	静岡県私立浜松開誠館高等学校	実践者	加藤 幹大
対象	高校2年生（グローバルコース・18名）	実践日	2019年11月～12月
実践教科	グローバルリサーチⅠ	時間数	6時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの目標について校内の生徒たちに知ってもらう。 ・見てもらえるポスターデザインや目に留まるキャッチフレーズを考える。 ・ポスターを見た人の行動に影響を与え、実行したことに意味を持たせる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	「キャッチフレーズを考える」 ①キャッチフレーズの作り方・コツ ②実際の企業・映画・本などのキャッチフレーズの紹介・調査 ③ミリオンセラーの帯白にキャッチフレーズをつくる	
	2	「目に留まりやすく、メッセージが伝わるポスターデザインを考える」 ①色の使い方 ②強調の仕方 ③優秀ポスターの特徴	
	3	「自分の好きな芸能人の PR ポスターで練習しよう」 ①自分がPRしたい芸能人を選ぶ ②その芸能人のPRしたい一面を絞る ③ポスター作成	
	4	「SDG のテーマでポスターを作ってみよう。」 ①SDGsのテーマから好きなものを選ぶ ②全校生徒に訴えたい内容・変えてほしい行動を決める ③ポスター作製	
	5	「自分のポスターを発表しよう」 ①自分のポスターの工夫した点を発表する ②ベストポスターをシール投票形式にして、決める。 ③実際に教室前に掲示し、全校生徒に訴えかける。	
成果	<p>グローバルコースの生徒たちが調べている SDGs のテーマは他コースの生徒達にはあまり周知されていない部分が多く、今回実際にポスターを掲示することで校内全体の SDGs の理解を深めるきっかけとなった。制作した本人たちも他人に影響を与え、他人の行動を変えることの難しさを感じさせることができた。</p>		
課題	<p>世界に向けて発信するという観点で、英語を使ったポスターにすることで、課題の難易度を上げることができたかもしれないが、校内の生徒に読ませるといふ一番の目的が弱まるため今回は日本語を選択した。英語版ポスターとの2つを書くことを次年度以降取り組んでいきたい。</p>		
備考	<p>クラスは18名の少数だったため、17の目標+SDGs全体という分担で作業を進めた。</p>		

日本も世界もみんなアミーゴ

所属	愛知教育大学附属名古屋小学校	実践者	金尾 亜生子
対象	小学校帰国児童 4～6年生（27名）	実践日	2019年11月
実践教科	総合的な学習の時間・学級活動	時間数	5時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ パラグアイと日本の文化や課題について知り、共通点や相違点に気付く。 ・ パラグアイと日本の違いについて考え、大切なことは何か共に確認する。 ・ 外国や人とのつながりについて気付き、大切なことは何か共に確認する。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆パラグアイを知ろう ① パラグアイのイメージを書き、グループで共有する。 ② グループでパラグアイクイズをする。 ③ パラグアイの写真を見て、どんな様子が想像する。【フォトランゲージ】	パワーポイント パラグアイの写真
	2	◆日本とパラグアイのつながりを知ろう ① 日本と外国とのつながりについて考える。【クイズ】 ② 日本とパラグアイのつながりについて考える。【フォトランゲージ】 写真を見て、日本のものとパラグアイのものを分け、日本とパラグアイのつながりについて考える。	『Find the Link どうなってるの？世界と日本 第二版』 パワーポイント パラグアイの写真
	3	◆日本とパラグアイの共通点と相違点を考えよう ① 5枚の資料を1人1枚担当し、グループのメンバーに内容を簡潔に説明する。 ② 資料や今までの学習から、日本にしかないもの、パラグアイにしかないもの、共通してあるものに分けて表を作る。【対比表】	パラグアイについての資料
	4	◆多様性のない社会について考えよう ① この社会(学校)がみんな自分と同じ考えの人たちだったらどうするか考える。【派生図】 ② みんな自分と同じ考えの人たちのいる社会のメリットとデメリットを考える。【対比表】	
	5	◆共に生きていくために大切なことを考えよう ① 違いを受け入れることのよさを考える。【リスト】 ② 自分にできることは何か考える。【ビンゴ】 違いを受け入れ、共に生きていくために大切なことを考え、自分にできることを9つビンゴシートに書く。	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童はパラグアイという国を通して、世界と日本との違いやつながりに関心をもつことができた。 ・ 児童は違いを受け入れること、自分にできることを仲間と共に学び、考えることで、今後の生活に生かすことができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 十分な時間を確保することが難しかった。 ・ 1回のプログラムを45分の授業時間で行おうとすると時間が足りなくなることが多かったので、前回の振り返りや本時の振り返りまでしっかり行うには2時間続きの授業が望ましいと思った。 		
備考			

環境にやさしい学校とは？

08

所属	愛知県立瀬戸北総合高校	実践者	釜田 千賀子
対象	高校2年生（20名）	実践日	2020年1月
実践教科	生物基礎	時間数	2時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・気温が上昇していることに気づき、その原因が人間生活にあることを知る。 ・自らの行動について考え、上昇を食い止める手立てについて考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	10分	1. アイスブレイキング ①自己紹介(嫌いな季節とその理由)をワークシートに記入する。 ②自己紹介を全体で発表する。	ワークシート
	20分	2. 白地図を塗ってみよう ①ワークシートに白地図とどの国が10年間でどれだけ気温の変化があったのか記載されている。それを基に気温の変化の大きさごとに色を分けて白地図に色塗りをする。 ②色塗りをしていて気づいたことをワークシートにまとめる。	白地図 ワークシート 色鉛筆
	20分	3. 気温の変化に関わるクイズ ①気温の変化によって気候にどのような変化があったのか、クイズに参加しながら考える。 ②今後世界では気温がどのくらい上昇していくと考えられているかを伝える。 ③今後上昇する気温に対してどのようなことが起こっていくと考えられるかをまとめたレジュメを渡す。	パワーポイント
	10分	4. 未来を見通してみよう【ブレインストーミング】 ①未来はこのままだとどのようになってしまうかをグループで意見交換する。 ②自分が幸せになるためにはどのような未来であってほしいかを個人でまとめる。	
	30分	5. 魅力的な学校のパンフレットを作ろう ①LOHASの考え方を伝える。 ②自分の通いたいと感じるような魅力的なかつ気温が上昇しないような環境に優しい学校を考え、パンフレットを作成する。 ③グループでパンフレットを作成する。	
	10分	6. 行動宣言 ①自分はこれからどう行動していくか、グループで話し合い、個人で精査する。	
成果	世界全体で気温が上昇していることに気づき、それがどのような影響を及ぼすか実感させることができた。自分たちの未来を守るためには何かしら行動しなければならないということを知らせることができた。		
課題	色塗りの段階で、白地図の他、世界地図を用意したのにも関わらず、国の位置がわからず、混乱を生じた場面があった。混乱を生じることなく、色塗りを行う工夫を考えたい。 パンフレットを作成する段階で、学校で環境に対してどんなことができるかを生徒が実感していなかった。実践4、5の間に学校でできることを全体で明確にしておく必要があると感じた。		
備考			

世界を見よう。知ろう。考えよう！

所属	名古屋市立鳥羽見小学校	実践者	狩山智美
対象	小学校6年生(68名)	実践日	2019年7月～2020年1月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	15時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から世界の「今」を正しく知る。 ・自分の食を支える世界の人々の存在を知り、食を他国に依存する影響に気付く。 ・世界を良くするための方法を知り、行動しようとする。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>◆ 世界を見る。世界を知る。</p> <p><世界がもし34人の村だったら></p> <p>「言語」「年齢」など様々な切り口で世界を見て、全体像を捉える。</p>	
	2	<p><「これはどこの国？」世界の家族のごはん></p> <p>国による食文化の違いや、環境への影響度を知る。</p>	写真
	3	<p><パラグアイってどんな国？></p> <p>パラグアイの文化を知り、日本と似ている点・違う点を見付ける。</p>	写真・動画
	4	<p><パラグアイと日本のつながりって？></p> <p>パラグアイへ移住した日系人、パラグアイで働く日本人の存在を知る。</p> <p>先人の努力と貢献によって日本は信頼されていることに気付く。</p>	写真・動画
	5	<p><「これはどこの国？」世界の毎日>【フォトランゲージ】</p> <p>「トイレ」「ベッド」「おもちゃ」等の写真からどの国かを考える。</p> <p>世界は小さな進歩の積み重ねで少しずつ良くなっていることに気付く。</p>	写真
	6	<p>◆ これからの世界を考える。</p> <p><日本の「食」はどうなっている？></p> <p>日本の食が洋風になったこと、より多様化したことを知る。</p> <p>国産の食料だけでは現在の豊かな食生活は成立しないことに気付く。</p>	家庭へのインタビュー
	7・8	<p><日本の「食」問題、どうする？>【ストーリー】</p> <p>課題「フード・マイルージ」「食品ロス」「食料自給率の低下」を知る。</p>	ストーリー資料
	9・10	<p><世界の「食」問題、どうする？>【ストーリー】</p> <p>課題「飢餓」「児童労働」「パラグアイにおけるごま残留農薬」を知る。</p>	ストーリー資料
	11～15	<p><世界をよくするためのプロジェクトを考えよう！></p> <p>グループに分かれ、今の自分にできることを考える。</p> <p>個人で、家庭で、学校でできることを計画し、実行する。</p>	SDGs資料
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって関心の高い「食」を切り口にする事で、児童が外国を身近に感じたり、日本と世界のつながりに気付いたりすることができた。 ・世界の課題だけに焦点を当てたのではなく、これまでの努力により少しずつ改善されていることも押さえたことで「次は自分たちが行動して、世界をよくしていこう」という児童の意識の高まりがみられた。 		
課題	SDGsの取り扱いを早い段階から入れられるとよかった。世界の課題に目を向けるときに、SDGsの視点があれば、より児童がその必要性を感じる事ができたと考える。		
備考	計画したプロジェクトについては2月に実行予定。 参考資料「世界の食料(JICA)」「地球の食卓 世界24カ国の家族のごはん」「Dollar Street」		

Food Miles: Where Does Our Food Come From ?

10

所属	三重県立飯野高等学校	実践者	川上 真由子
対象	高校1年生（80名 約20名×4クラス）	実践日	2020年1月～2月
実践教科	総合英語、英語表現	時間数	18時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容を通してフードマイルと食料自給率、その問題点について知る。 日本とは異なる外国の食生活について知り、地産地消の大切さに気付く。 食料輸入を取りまく色々な立場と問題について知り、自分の出来る事を考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>外国の文化(ベトナム)に肯定的に出会う。(食文化の点で後の授業につなげる)</p> <p>① ベトナムクイズ</p> <p>② フォトランゲージ「実際はこうだった!」【フォトランゲージ】</p>	<p>PPT 使用</p> <p>フードマイレージの単元との繋がりは特に伝えない</p>
2～18	<p>part1 私たちの食べ物はどこから来ている?</p> <p>① ラーメンの中に入っている具材がどこから来ているか考えよう。</p> <p>② フードマイルの意味、主な食材のマイル数を知る。</p> <p>③ 昨日の夕食の食材のフードマイルについて英語で会話してみよう。</p> <p>part2 フードマイレージが高いとどんな問題がある?</p> <p>① フードマイルが高い食べ物、低い食べ物、どちらを食べたい?</p> <p>② 遠くから食べ物を輸送することによる問題点を学ぶ。</p> <p>part3 フードマイレージを減らすにはどうしたらいい?</p> <p>① 前回学んだ問題点の確認と解決策の予測</p> <p>② 高自給率のベトナムの食生活と低自給率の日本の食生活を比較し、ベトナムの地産地消に気づく。【対比表】</p> <p>③ 地産地消のメリットを学ぶ。</p> <p>④ 地域特産物と地産地消 PR をしてみよう。</p> <p>part4 外国の食べ物を輸入しなくなったら…?</p> <p>① 外国に頼らざるをえない日本食料自給率問題に気づく。</p> <p>② 世界が貿易をストップしたら…? 【派生図】</p> <p>③ 食料輸入をとりまくいろいろな立場と問題を知る。【ロールプレイ】</p> <p>④ 問題解決のために自分たちが出来る事を考える。</p>	<p>黒板使用</p> <p>教科書(BIG DIPPER)</p> <p>ペアワーク→発表</p> <p>ペアワーク</p> <p>教科書</p> <p>ペアワーク</p> <p>PPT 使用</p> <p>模造紙、マジック</p> <p>教科書</p> <p>英作文ワークシート</p> <p>教科書</p> <p>模造紙、マジック</p> <p>英文セリフカード</p> <p>出来る事リスト</p> <p>ワークシート</p>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の英文を読む前後に、ブレンストーミングやフォトランゲージ、派生図等に取り組むことで、より興味を持ちながら英文を理解する事が出来た。 英語の教科書内容に沿って実践を行ったので、授業時間をたっぷり使う事ができ、フードマイルについて時間をかけて情報を得たり考えたりする事が出来た。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容に沿いながら、普段の授業の中に取り入れたため、進度調整や準備が大変だった。 英語授業時間なので、英文読解がメインという考えが生徒にあり、グループワークへの熱量をあげるのが難しい場合もあった。・参加型手法は英語使用が難しく、ほぼ日本語使用での取組みとなった。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> 教科書: Revised Big Dipper Lesson 9 Food Miles Where Does Our Food Come From? 数研出版 参考文献: 私たちの地球と未来 活用マニュアル Ver.2 愛知県国際交流協会 対象クラスは外国にルーツを持つ生徒が約70%を占める。 		

身近な自然から考える環境問題

所属	愛知県豊明市立沓掛小学校	実践者	河村 知里	
対象	小学校4年生（36名または71名）	実践日	2019年5月～2020年1月	
実践教科	総合的な学習の時間・社会	時間数	33時間	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの身近な環境から、環境問題に気付く。 ・自分たちにできることは何か考え、実践する姿勢を育てる。 			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1～4	1. 身近な環境について学ぶ。(23時間) ① 身近な川(井堰川)の生き物調査をしよう!(4時間) ・生き物調査、川の汚れを調べる。 ・見つけた生物をまとめる。 【フィールドワーク】	NPO 環境 豊明さん	
	5 6	② ナガバノイシモチソウについて知ろう!(2時間) ・食虫植物について知る。 ・絶滅危惧種について学ぶ。 【フィールドワーク】	豊明高等学校の 生徒・教員	
	7～10 11・12 13	③ ごみについて学ぼう!(7時間) ・ごみがどのくらい出されているか、ごみ問題について学ぶ。 ・リサイクルについて学ぶ。 ・ごみを減らす工夫を知る。 	豊明市役所 環境課	
	14 15 16 17	④ 地球温暖化について知ろう!(4時間) ・過去の気温と現在の気温を比較する。 ・温室効果ガスについて考える。 ・省エネについて学ぶ。 ・世界の現状 【実験】 【ランキング】		
	18・19 20 21	⑤ 身近な池(勅使池)の水を調べよう!(4時間) ・勅使池の水質調査をする。 ・生き物調査をする。 ・調べて分かったことをまとめる。 【フィールドワーク】	NPO 環境 豊明さん	
	22・23	⑥ 水がよごれるメカニズムを知ろう!(2時間) ・誰が水をよごしているのか、どのように汚れていくのかを実験する。 【実験】	アクアワールド水郷 パークセンター 環境教育プログラム	
	24～26	2. 興味をもった内容を深く調べる。(3時間) ① 本やインターネット、「地球教室」を使って調べる。 ・温暖化、水質汚染、ごみ問題、外来種問題、絶滅危惧種の中で、深く学びたいものを選び、調べる。	「地球教室」	
	27～31 32	3. まとめる(5時間) ・班ごとに調べた内容をまとめる。 4. 学習発表(1時間) ・学んだことを発表する。 【ポスターセッション】		
	33	5. 行動宣言(1時間) ・今後、環境問題に対してどのようなことをしていきたいか考え、行動宣言を作る。		
	成果	身近な環境から子どもたちが疑問に思ったことをもとに、授業をつくっていった。そのため、4年生の子たちにとっては、深く考えることができた。フィールドワークや実験といった体験する機会が多いため、環境問題も自分のこととして考えることができるようになってきている児童が多かった。		
	課題	今回は身近な環境ということで、日本の環境問題を主に学習を進めたが、世界にも視野を広げることができるようにするとよいと考えた。		
	備考			

わたしの1日、あなたの1日 ～よりよい未来のために～

12

所属	愛知県弥富市立弥富北中学校	実践者	久米 達哉
対象	中学校1年生(89名)	実践日	2019年12月
実践教科	英語	時間数	4時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の生活との比較を通して、世界の現状を知る。 ・課題解決のために具体的に行動する力を育む。 ・SDGsとの関連をもとに、持続可能な社会を創るための解決策を考え発信する力を付ける。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>「比べよう ～わたしの1日、あなたの1日～」</p> <p>①自分の好きなものを紹介する。</p> <p>②ある国の子どもの生活を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発展途上国に暮らす子どもの生活(英文)を個人で読み取り、得た情報を付箋に書き出す。 ・読み取った内容を日本語で紹介し、同じものを集めて模造紙に貼る。 ・模造紙にまとめられた付箋をもとに、ストーリーの内容を捉える。 <p>③「世界の子どもの暮らし」の付箋の中から、自分自身の暮らしと「同じ部分」と「違う部分」に分ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーリーシート ・辞書 ・写真 ・付箋 ・ペン(1人1本) ・半模造紙
	2	<p>「見つけよう ～わたしの一日、あなたの一～」</p> <p>①「なりきり自己紹介」を英語で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人種・年齢・職業」の書かれたカードをもとに、その人になりきって、自己紹介を行う。 ・行った際に、何か普段とは違いがあったか確認する。 <p>②世界の子どもと自分の子どもの暮らしのうち、「違う部分」を「あってもいい違い」と「あってはいけない違い」に分類分けする。【対比表】</p> <p>③「あってはいけない違い」の中で、最もよくないと思うものを選ぶ。</p> <p>④違いが生まれる原因を考える。【因果関係図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事柄が起こる原因を次々に考え、連鎖をどこで断ち切れればよいか気付く。 ・SDGs目標のうち、関連するものを探す。 <p style="text-align: right;">※総合的な学習の時間との関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人物カード ・ペン(1人1本) ・半模造紙
	3	<p>「考えよう ～わたしの1日、あなたの1日～」</p> <p>①グループ毎に解決方法を考え、情報発信シートを英語で作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・色画用紙
	4	<p>②自分たちの考えを英語で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単語や簡単な英語で発表を行う。 <p>③作成されたシートや発表を聞いて、「なるほど」と思った作品を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1グループに対して最大2票まで投票してもよいことにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペン ・辞書 ・シール(1人3枚)
成果	<p>ストーリーシートや写真を通して、世界には厳しい環境の中で生活している子どもがいることに、衝撃を受けた様子であった。また、解決策を考える中で、自分たちにも取り組めることが多くあることに気付くことができた。英語で情報発信のシートを作成したが、自分たちの考えをより多くの人に伝えるためには、英語が必要不可欠であるという意識を高めることができた。</p>		
課題	<p>生徒の英語力にはばらつきがある。また、中学1年生ということもあり、読み取りや表現の能力は限られている。表現したい内容はあるが、十分に表現できないグループもあった。教科の枠組みの中で行ったので、内容と時間のバランスを見極める必要があると感じた。</p>		
備考	<p>総合的な学習の時間や他教科との教科横断学習を通して、SDGsが様々な場面で見つなっているということを実感することができた。</p>		

SDGsを知ろう！～世界中の人、みんな大切な存在～

所属	愛知県大治町立大治南小学校	実践者	児玉 やこ
対象	小学校5・6年生(220名) 中学校1年(150名)・教員(30名)	実践日	2019年11月～2020年1月
実践教科	総合的な学習の時間・現職教育研修	時間数	1時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々や人々はさまざまな面につながっていることに気づく。 ・世界で起きている問題やSDGsについて知り、自分には何ができるか考える。 ・参加型の学習により、お互いの意見を尊重し合い、よりよい社会・生活を築く力を伸ばす。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>① <u>アイスブレイキング</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生・教諭：パラグアイクイズ ・中学生：「自分のいいところ」で自己紹介 <p>② <u>ジェンダー差別に気づく</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全：写真の隠れた部分を想像する【フォトランゲージ】 ・全：シェアする【ギャラリー方式】 ・中学生：絵本『すきっていわなきやだめ？』 <p>③ <u>世界の女の子の現状を知る</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全：世界の教育におけるジェンダー格差や児童婚 ・全：日本のジェンダーに関する課題 <p>④ <u>世界の課題について考える</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学5年生・教諭：学校に行けないとどうなる？【派生図】 ・小学6年生・中学1年生・教諭：差別や偏見があると？【派生図】 ・全：シェアして☆(なるほど)マークを付ける【ギャラリー方式】 <p>⑤ <u>SDGsを知ろう！</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生：SDGsについて概要を簡単に ・教諭：SDGsの概要・17のゴールの内容・身近にあるSDGs ・中学生：既習のため省略 <p>⑥ <u>自分にできることを考えよう！【プレスト・行動表明】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全：SDGs達成のため、自分にできることを書き出す <p>⑦ <u>ふりかえり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全：自分にできることと一言感想をグループでシェア 	<p>差別や偏見が戦争や紛争につながるね。</p>  <p>なるほど！私にはなかった考えた！</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・教師海外研修で撮影した写真 ・ステレオタイプに気づける画像 ・『すきっていわなきやだめ？』(岩崎書店) 作：辻村深月 ・SDGsマーク ・企業のSDGsの取組
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、世界の課題やSDGsについて初めて知ったり、自分の中に潜むジェンダー差別に気づいたりすることができ、自分や日本が世界の課題やSDGsに関わっていることを実感することができた。 ・子どもたちがSDGsの目標のために、自分にできることを考えることができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間という短い時間では、限られた情報しか提示できず、じっくり考える時間も十分でなかったため、「もっと知りたい、考えたい」と思う子どもたちが多くいた。実践を重ねていきたい。 ・今回限りで終わらず、本校で国際理解教育を続けていくために、教員への発信も続けたい。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、SDGsや国際理解教育を多くの人に広めたいと思い実践した。プログラムの大筋は変えず、対象者(小学生・中学生・教員)の年齢や経験に合わせて、内容や方法を工夫した。 		

環境に優しい学校をデザインしよう

14

所属	愛知県一宮市立尾西第一中学校	実践者	小垂 祐介
対象	中学校2年生（251名）	実践日	2019年11月～2020年1月
実践教科	道徳	時間数	5時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界が抱える環境問題について知る。 ・環境問題の解決のために自分たちにできることを主体的に考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	世界が抱える問題に目を向けよう ① グループで「私が望むよりよい未来」を考える。【派生図】 ② 他グループの成果物を見て、共感したものに☆印をつける。【ギャラリー方式】 ③ 個人でよりよい未来の具体像を「〇〇な社会」という5か条にまとめる。【リストアップ】 ④ SDGsについて知る。	模造紙・ペン A4用紙
	2	環境問題について知ろう ① 環境問題についての動画を視聴する。 ② 地球環境クイズにチャレンジする。【クイズ】 ③ 自分たちがこれからできることを考える。【ブレインストーミング】	「フードロス」「海洋プラスチックごみ」の動画 パワーポイント ワークシート
	3	環境に優しい学校をデザインしよう ① 「いちのみやエコスクール運動」について知る。 ② グループでエコスクール運動活動案を作成する。【ブレインストーミング】 ③ 計画書とプレゼンテーション用の資料を作成する。【グループワーク】	ワークシート A4用紙 模造紙・ペン
	4	環境に優しい学校のデザインを発表しよう ① 「いちのみやエコスクール運動」活動案を発表する。 ② プレゼンテーション資料を展示し、よかったと思うものに票を入れ、ランキングをする。【ギャラリー方式】	模造紙・ペン
	5	環境意識の変容を振り返ろう ① 1週間、環境のために気を付けたことは何か。【リストアップ】 ② 「学んだこと」「これから気をつけたいこと」を話し合い、振り返りを共有する。【ブレインストーミング】	ワークシート 評価シート
成果	グループワークを通して生徒たちは主体的に環境問題について考え、よりよい学校にするために意見を出すことができた。また、残飯を減らす呼びかけ（給食委員）や、古紙や空き缶のリサイクル運動（環境委員）は道徳の授業での学びを活かし、環境意識をより高めるものとなった。		
課題	道徳の授業だけでなく、教育活動全体を通して生徒たちの国際的な視野を広げていきたい。社会科など他教科とのつながりを考えることで学びを深めていきたい。また、環境問題だけでなく、人権問題についても授業で取り上げることで、「人にも環境にも優しい学校」について考えていきたい。		
備考	「いちのみやエコスクール運動」とは学校生活の中で、資源の有効利用や環境負荷の低減など「地球にやさしい学校づくり」を目指した取り組みを実行することを通じて、児童・生徒の環境意識を高めようとするものである。また、このような取り組みが家庭や地域へ広がっていくこともねらいの一つとなっている。		

知ろう！守ろう！私たちの地球

15

所属	静岡県浜松市立相生小学校	実践者	坂田 英香
対象	小学校5年生（28名）	実践日	2019年4月～実践中
実践教科	総合的な学習の時間・国語など	時間数	35時間＋α
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が、地球環境の現状を知り、環境問題へ関心を高める。 ・児童が、地球の環境を守るために自分ができることを考え、実践する。 ・SDGsについて知り、行動変容を促す。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	I 知ろう！考えよう！私たちの森林！ 1. 知ろう！気付こう！森林の恩恵 ・身のまわりの木でできているもの探そう	1学期 ・林間学校とつなげて「森林」を窓口に環境問題への関心を高める。 ・夏休みの生活カレンダーにつなげる
	2	2. 気付こう！森林の良さ ・森林クイズ・・・森林の良さを調べよう	
	3	3. 考えよう！森林がなくなるとどうなるの？ 【派生図】 ・森林減少の実態を知らせ、自分たちのできることを考える。	
	4	4. 守ろう！私たちの森林！（夏休みの実践へ）【KJ】	
	5	II 知ろう！守ろう！私たちの地球！ （個々の課題追及と各教科の合科） 1. 知ろう！私たちの地球！（森林以外の環境問題に出会う） 2. 考えよう！私たちの地球！（各教科と結び付けて）	2学期 ・森林からその他の課題へ視野を広げ、個別の課題への調べ学習を進めるとともに、国語科、家庭科、社会科の学習と結び付けて環境問題への理解を深める。 ・冬休みカレンダー
	6	①国語科 『明日をつくるわたしたち』（光村図書）【ディベート】 ・地球を守るための提案をグループの友達と考える	
	7	②社会科 『わたしたちの生活と工業生産』これからの工業生産とわたしたち（東京書籍）【イメージマップ】 ・学んできた情報を元に、環境に優しい車を考えるなど	
	8	3. 守ろう！私たちの地球！（冬休みの実践）	
	9	III 知ろう！SDGs！（SDGsと自分の課題を結び付ける） 1. 知ろう！SDGs！【タイムライン】【ランキング】 （セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのアクティビティー集より）	
10	2. 考えよう！私たちにできること！【ジグソー】		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○調べ学習に向けて推奨するサイトのリンクを共有することで、取り組みやすい環境づくりができた。 ○本研修を通して、私自身のSDGsへの理解が深まり、教科横断的な視点でカリキュラムのマネジメントを試みることができた。様々な視点で環境問題に触れていくことで児童にとって身近な話題となった。 ○児童と「SDGs」との出会いは、「もっと人に伝えたい」「実践しよう」と気持ちを引き出すことができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習はスモールステップで課題を提示し、十分な時間を確保することが大切である。 ・1学期から「自分のできること」をテーマにすることで行動への意識付けとなったが、児童が「自分事」として捉えるためのテーマ設定が難しいと感じる。 ・今後「持続可能」の視点を児童のアイデアに結び付けていくための手立てを確立したい。 		
備考			

みんなが住みたい！と思う世界に

16

所属	三重県桑名市立星見ヶ丘小学校	実践者	佐々木 恵
対象	小学校4年生（32名）	実践日	2019年12月～2020年1月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	4時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とパラグアイを例に、ごみ問題は世界の問題であること、ごみ問題解決に向けて様々な努力が行われていることに気付く。 ・自分たちの生活を振り返り、ごみ問題解決に向けてできることを考え伝え合う。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	共通課題は、「ごみ問題」 <ul style="list-style-type: none"> ・国のいい所見つけた！（日本とパラグアイ） ・どちらの国でも困っていることは・・・「ごみ問題」 共通課題の一つとして「ごみ問題」があることを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本では、どれくらいごみが出ているの？（クイズ） ・私たちの今日の給食の残飯は、〇g！ ・このままごみが増え続けると・・・どうなる？（派生図） ごみが増えるとうなるのか、考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本・パラグアイの写真 ・日本・パラグアイのごみの写真 ・給食の残飯の写真
	2	パラグアイのカテウラ地区ってどんな所？ パラグアイの写真を見て、いいなと思った所を交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・カテウラ音楽団って？ カテウラ音楽団の演奏を聴き、感想を交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・カテウラ地区の現実 写真を紹介しながら、どんなところなのかを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・変えたい所は、どこかな？（ブレインストーミング） カテウラ地区の変えたいところを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> パラグアイの写真 ・カテウラ音楽団の映像 ・カテウラ地区の写真
	3	日本の現実・・・？ <ul style="list-style-type: none"> ・日本のごみ問題って？（クイズ） 「食品ロス」「最終処分場の寿命」について <ul style="list-style-type: none"> ・こんな取り組みをしている！（フォトランゲージ・クイズ） 「ネスレキットカット」「日清カップヌードル」「農林水産省」「SDGs」 <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたち・ぼくたちにできることって何？ 	<ul style="list-style-type: none"> 「ネスレキットカット」 「日清カップヌードル」 「農林水産省」 「SDGs」
	4	未来願望図を作り、そこに向かってできることを考えよう！ <ul style="list-style-type: none"> ・カテウラ音楽団は、こうしてできた！ 絵本の読み聞かせをし、感想を交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくたち・わたしたちの未来願望図 こんな世界になったらいいな！ <ul style="list-style-type: none"> ・できることを考えよう！ 自分で/お家の人と一緒に/大人になったら 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本 「スラムにひびくバイオリンーゴミを楽器に変えたりサイクル・オーケストラ」
成果	社会科の学習で「ごみ」について学んでいたため、社会科の内容とつながりをもたせながら、学習を進めることができた。また今ある課題を扱ったことにより、授業以外でも「ごみ問題」を意識する児童が増え、「給食の残飯ゼロを目指そう！」や「ものは大切に使う！」などと子どもたち同士で声をかけるようになった。		
課題	今回の実践では、総合的な学習の4時間しか割り当てられず、じっくりと子どもたちに考えさせたり、考えを交流させたりする時間が取れなかった。年間計画を見直し、より深く考えさせる授業の組み方を考えていきたい。		
備考	第4回は、授業参観で行った。 本校から、今年度青年海外協力隊としてエチオピアに派遣されている教員が在籍している。定期的にエチオピアの情報が通信として発信され、クラスで紹介をして通信を教室に掲示している。		

10年後のわたしたちの世界をよくするために ～貧困～

所属	愛知県名古屋市立白沢小学校	実践者	三小田 京子
対象	小学校6年生(30名)	実践日	2019年12月～2020年1月
実践教科	総合的な学習の時間・道徳・社会	時間数	9時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界には様々な問題があることを知り、開発途上国と自分の生活につながりに気付く。 ・貧困が多くの問題と関わり、自力で抜け出すことが困難であることに気付く。 ・貧困をなくすための方法を考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	世界の国を知ろう①(肯定的な出会い) エチオピアクイズ(衣・食・住)	
	2	世界の国を知ろう②(ちがいのちがいは) ①世界の小学生を知ることで日本との違いに気付く。【ジグソー】 ②違いを「あってもよいちがいは」と「あってはいけないちがいは」に分ける。 【カード式整理法】	キッズ外務省 HP
	3	世界の今を知ろう(もし30人の村だったら) ・世界には「あってはいけないちがいは」がたくさんあること、格差が広がっていることに気付く。(大陸分布、所得、水、食料、トイレ、紛争)	https://soichiblog.com/
	4	貧困から抜け出す方法。 ①エチオピアの元ストリートチルドレンやくつみがきをしている少年の動画を見て、学校に行くことができない子どもについて考える。 ②学校に行けないこの将来を考え、自力で抜け出せないことに気付く。 【負の連鎖】 ③貧困をなくす方法を考える。【二次元軸】	○国際理解教育実践資料集(JICA 地球広場)
	5～6	貧困をなくそう!(世界の取り組み) <SDGsを知る> ①SDGsクイズ(ピコ太郎・キティ・吉本・17の目標) ②貧困がSDGsの多くの目標に関わっていることに気付く。【因果関係図】	○ユニセフ 学校のための持続可能な目標ガイド
	7～8	貧困をなくそう!(日本の取り組み) <JICAを知る> ①開発途上国と日本のつながりに気付く。(クイズ) ②JICAの活動を知る。	○国際理解教育実践資料集(JICA 地球広場) ○JICA 海外青年協力隊 OG 後藤千明さん
	9	私たちが貧困をなくすために行動しよう! ・私たちができることを考えよう。(行動宣言)	
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困が自力で解決することが難しいことや、開発途上国と自分の生活と関わりにつなぐことができ、貧困をなくそうとする意識を高めることができた。 ・SDGsやJICAの活動を知り、理解を深めることができた。 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困をなくす方法を、児童が幅広く考えられるようにできるとよかった。 ・他のクラスに広められるように、数時間で完結できる指導案・教材を用意できるようにしたい。 		
備考			

We are all one!! ～SDGs への取り組みを通して～

18

所属	愛知県一宮市立起小学校	実践者	柴田 英子
対象	小学校6年生（77名）	実践日	2019年10月～12月
実践教科	（総合的な学習の時間・国語）	時間数	15時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の課題を自分の問題として捉えることができるようになる。 ・自分の意見を互いに伝え合い、正解だけではなく、最善解を考えようとする。 ・世界の課題を主体的に解決しようとする姿勢を養う。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆環境クイズに取り組み、起小学校の残菜の量の表を見る。	環境クイズ PP15枚
	2	◆ゴミ問題が解決されずに、このまま進んでしまった未来を想像し、理想の世界と自分ができることについて考える。【ブレインストーミング】	半模造紙、付箋 パラグアイの写真
	3	◆絶対的貧困について知り、貧困の構想について学び、貧困から脱却した音楽団について知る。【フォトランゲージ】	PP11枚、動画 貧困連鎖カード パラグアイの動画
	4	◆自分が貧困解決のためにできることについて考える。 【ブレインストーミング】	半模造紙、付箋 Save the children の 写真
	5	◆あっていい違いとあると危険な違いについて体感し、人権侵害について知る。	ワークシート(ちがいのとびら)
	6	◆人権侵害が起きる理由について考える。【フォトランゲージ】【ブレインストーミング】【ランキング】	Save the children の 写真 半模造紙、付箋
	7～9	◆よりよい未来になるために、自分の考えを書き、互いに考えを深める。	
	10～ 13	◆学習発表会に向けて発表する内容を考える。【行動計画作り】	
	14	◆パラグアイの日系社会について学び、豊かさの意味について自分の生活を振り返りながら考える。	PP13枚 パラグアイの写真
15	◆学習を通して、自分が大切にしたいことや国際理解を学ぶ意味について考える。【ブレインストーミング】	フィリピンの写真 半模造紙、付箋	
	◆スマイルボックス、ユニセフ募金、ペットボトルキャップ集め		
成果	参加型学習活動を基にした意見交流では、発言が苦手な児童でも自分の考えを示すことができていた。アンケートを見比べると、他国で困っている人を助けたいと思う気持ちが、「思う」「どちらかといえばそう思う」が合計100%になった。児童の他国を助けたいという国際協調という感心を高めることができた。		
課題	国際理解の学習を通して、児童主体的なユニセフ募金とペットボトルキャップ回収の活動に繋げることができたが、時間が経つにつれ、活動の本来の趣旨が児童の中で薄れてしまい、国際協調の気持ちを継続させることが難しかった。児童自ら取り組んだ活動を全校に伝えることで、国際協調の気持ちを高めたい。		
備考	今までの授業や学校の人権週間や新聞活用などの活動を、国際理解という視点から改めて見直すと、内容が深く関わりあっているということが分かったので、年間計画を立て実践していきたい。		

SDGsで考える「働き方改革」!

19

所属	愛知県立豊田東高等学校	実践者	清水 美季
対象	高校3年生（就職志望 26名）	実践日	2019年 10月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	3時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを知る。世界が抱える課題を知る。 ・チームで課題解決のための手立てを考え、よりよい自分の未来をつくるために行動するヒントとする。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<ul style="list-style-type: none"> ◆ アイスブレイキング ・名前だけの自己紹介、バースデーラインアップ、私を紹介する3つのキーワード ◆ SDGsについて知ろう! ・個人で資料黙読し、印象に残ったこと2つ→共有 ・SDGs17 ゴールカードゲーム ・表にSDGs、裏に普段の生活で何気なく行っていることを書かれたカードを配布。裏面を上にも机に広げる。 ・自分が普段行っていること、共感することを順番に選んで取り、それぞれのゴールにつながっているかをグループで意見を出し合い考え、表面のゴールを読む。 	<p>資料:「持続可能な開発目標(SDGs)とは」</p> <p>SDGs17 ゴールカード(自作)</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「〇〇さんを救え！」問題解決のために必要なことは? 「5カ国の働く人のストーリー」 ・資料を読んでその人の取り巻く問題やその国の問題だと思ふことを書き出す。 ・問題を解決するためのアイデアを付箋に書き、問題のそばに貼る。 ・問題と手立てにおいて、SDGsの各ゴールと関連するものを選び、SDGsシールをその場所に貼る。 【ブレインストーミング/派生図】 	<p>資料:「5カ国の働く人のストーリー」(自作)</p> <p>参照:先生・ファシリテーターのための持続可能な開発目標-SDGs-アクティビティ集</p> <p>半模造紙、マジック付箋</p> <p>SDGs シール(アイコンを切り取ったもの)</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「私の描くよりよい未来の働き方」 ・私たちがどのような未来を望んでいるか、そのためには何があると良いか、何が達成されていると良いかを書き出す。【ブレインストーミング/派生図】 ・他のグループの模造紙を自由に見て回り、共感・納得したものに☆マークをつける。【ギャラリー方式】 ◆ 私たちの提案「働き方改革」を提案する 	<p>半模造紙、マジックふりかえりシート</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsは身近にあることだと感じた。 ・グループワークを通して協力して作業したり、自分の意見を伝えたりすることは働き始めてからも生かしたい。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回から第3回の流れ、つながりを考えた活動にするべきだった。 ・対象をよく考えて必要なときに必要な指導をするべきだった。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコスクールとして全校に発信していく活動に広げていきたい。 		

ぼくたちの町から世界の町へ ～どんな町にどんな人がいるんだろう？～

20

所属	静岡県浜松市立北浜東小学校	実践者	杉山 菜生	
対象	特別支援学級1、2年生（5名）	実践日	2019年12月～2020年2月	
実践教科	図画工作科・学級活動・道徳・国語	時間数	12時間	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が住んでいる日本以外に、いろいろな国があることを知る。 ・海外で暮らしている（暮らしていた）日本人を通してどんな町にどんな人がいるか知る。 ・日本と外国では、同じところや違うところがあることに気付く。 			
実践内容	回	プログラム	備考	
	0	<ul style="list-style-type: none"> ○世界が舞台の絵本を読んでみよう！（朝の読み聞かせ等） ○朝の会「今日の地球」コーナー ○国旗かるた 	<ul style="list-style-type: none"> ◇絵本 ◇地球儀 ◇国旗かるた 	
	1～2	<ul style="list-style-type: none"> ○ぼくたちの町をつくろう（図工） ・家、車に好きな色を塗り、貼り合わせて町を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇画用紙、家や車の台紙 	
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○地球儀？世界地図？これってなんだろう？ ・地球儀や世界地図を提示し、いろいろな国があることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇世界地図、地球儀 	
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○絵本に登場した町は世界地図のどこの国か見つけよう 韓国 アフガニスタン モンゴル ケニア パキスタン ・これまでに読んだ絵本はどこの国が舞台か、白地図に色を塗る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇白地図 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> ○これって本当？世界の食クイズ【○×クイズ】 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「それ日本と逆？文化の違い習慣のちがいは？」 	
	6～7	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなが食べたいものはどれ？世界の食事を見てみよう 給食週間1/27～31（イタリア タイ ロシアの料理、和食） 「食べたい世界の料理」の本をみんなで作ろう ・世界の料理の本から食べたい料理を選び、ワークシートにまとめ、全員分を貼り合わせて本を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇○×札 ◇「しらべよう世界の料理」（ポプラ社） 	
	8	<ul style="list-style-type: none"> ○元青年海外協力隊員（スリランカ）の先生の話进行 		
	9～11	<ul style="list-style-type: none"> ○先生の友達や家族の紹介する町を見てみよう ベルギー ケニア モンゴル キルギス パラグアイ ・現地から送ってもらった写真や動画を見て、相手へ手紙や動画を送る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇写真、動画 	
	12	<ul style="list-style-type: none"> ○「もったいないばあさんと考えよう世界のこと」を読んでみよう 	<ul style="list-style-type: none"> ◇本 	
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を増やすことで楽しみながら「日本以外にも国がある」と知り、世界と肯定的に出会う機会となった。 ・写真や動画を通して、日本と同じところもあれば違うところもあるということに自然と気付くことができた。 ・先生の知り合いや元協力隊員の先生から生の話を聞き質問することで交流しながら学ぶことができた。 		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活と結び付けて考えることができたが、なかなかイメージがわからない様子も見られた。 ・ぼくたちの町から世界の町へとなつなげたかったが、あまり「町」へ焦点をあてることができなかつた。 ・情報量が多すぎて混乱する子もいたので、じっくりと長期的に世界を感じられるような工夫も必要だった。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・12については未実施で、今後実施予定である。子供たちの好きな「もったいないばあさん」の作者の本を通して、世界の中で課題となっていることにも少し触れていきたいと考えている。 			

台湾から世界へはばたこう

21

所属	静岡県立藤枝東高等学校	実践者	戸塚 康博
対象	高校2年生	実践日	2019年10月～2020年1月
実践教科	世界史A/修学旅行/総合的な学習	時間数	6時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・台湾の歴史・文化を知り、修学旅行で現地の高校生と交流することで世界への一歩とする。 ・台湾の高校生にインタビューすることで、同じ高校生としての課題に気づく。 ・課題解決のため自分ができることを見つけ、日々の学校生活・進路実現への動機付けとする。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	世界の中のアジアを知ろう ・アジアは豊かな地域であり人口密度が高いことを知る ・世界の富はごく一部が占有しており貧富の差が大きいことに気づく ・ゲームをとおして人口密度の差、貧富の差を疑似体験することで、この知識と気づきを定着させる	世界がもし40人のクラスだったら
	2	帝国主義時代のアジアを知ろう ・先進工業国から発展途上国まで経済力の格差があることを知り、人は生まれる国を選ぶことができない不条理に気づく ・経済活動には何が必要なのかを疑似体験する ・仲間との協力や国際協力、特にコミュニケーション能力が欠かせないことに気づく	新・貿易ゲーム
	3～5	日本統治時代～現代の台湾を知り、気づき、行動しよう ・日本と台湾の関わり、国民党時代、中国との関係、国際連合からの脱退 経済発展、半導体ファウンドリ、民主化と台湾総統選挙の動き等々を知る （各自テーマをきっかけ台湾研究に取り組み、実際に台湾の高校生へ直接インタビューしレポートにまとめる）	台湾修学旅行 台湾研究レポート
	6	新しい世界へ挑戦するための志望理由書を書こう ・見知らぬ世界を経験したことで広がった視野をさらに大きく広げる	個人面接
	成果	疑似体験であっても、学んだことを実際に体験することで知識が印象づけられた。また海外への修学旅行で世界とのつながりを体験したことで、将来自分が活躍する場所を世界に広げようと考え始めている。ちょうど台湾総統選挙が行われたことで、世界の出来事を身近に考えることができた。	
課題	「聞いたことは忘れる、見たことは覚えている、経験したことは忘れない」を胸に刻んでいくものの、講義中心の授業にならざるを得ない世界史の「聞いたことを忘れる」生徒に如何にして知識を定着させるか。「聞いていると眠くなる」生徒の目を開かせるか。		
備考	志望理由書をもとに、担任以外の学年職員＋αで個人面接を実施している 教科指導(世界史)は、修学旅行にも進路指導にも繋がるものとする		

持続可能でよりよい世界の未来って、どんな未来？

22

所属	愛知県長久手市立市が洞小学校	実践者	西田 香奈子
対象	小学校6年生（191名）	実践日	2019年11月～2020年1月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	20時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型学習を通して、協力し、話し合い、関わることを繰り返し、自己・他者・社会に関わる力を育む。 ・SDGsについて知り、持続可能で平和な社会の実現のために、自分にできることを考え、実行する。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	『エチオピアって、どんな国？』 ・国名ビンゴ【アイスプレイング】 ・エチオピアに関する〇×クイズを通して、エチオピアを知る。【クイズ】 ・写真を見て、エチオピアと日本とのつながりについて、「似ている点」と「違う点」という観点から考える。【フォトランゲージ】【対比表】	ビンゴシート パワーポイント ワークシート
	2	『みんな違って、みんないい』 ・4つのコーナー【アイスプレイング】 ・「もし、みんなが同じ人間だったら、どうなるか？」を考え、書きだす。【プレスト】 ・エチオピアと日本を比べ、「あっていい違い」と「よくない違い」を書きだす。【対比表】	模造紙
	3	『あっていい違い、よくない違い』 ・「世界がもし100人の村だったら」のアクティビティを通して、世界の現実を疑似体験し、世界の中で、あっていい違いとよくない違いについて考える。【体験型学習】	アクティビティに使う教材セット
	4	『SDGs についての理解を深める』 (1)SDGs について知る。 ・UNICEF の副教材“World largest lesson『世界に広めよう「SDGs」』マララ・ユスフザイさん編”を観て、SDGs について知る。【動画】 ・SDGsに関する資料を読む。	資料「共につくる私たちの未来」(JICA)
	5～7	(2)SDGs への理解を深め、自分の考えをもつ。 ・SDGs に関する資料を読み、自分が担当になったSDGsのゴールについてまとめ、自分ができることを添えて、発表する。 ・インターネットで、日本の各企業や団体の取り組みについて調べる。	前時に使用した資料 JAPAN SDGs Action Platform 参照
	8～10	(3)世界の子どものストーリーからSDGsについて考える。 ・世界にある問題とその解決策、SDGsをつなげる。	先生・ファシリテーターのための持続可能な開発目標 -SDGs- アクティビティ集 (Save the children)
	11	『世界の未来がよりよくあるために～よりよい未来のビジョンを描こう～』 (1)「2040年、よりよい未来はどんな未来!？」 ・グループで模造紙に書いていく。【派生図】 ・それぞれのグループでできたものを見合い、共感・納得したものに☆マークをつける。【ギャラリー方式】 ・自分のグループには出ていなかったアイデアを、自分のグループに持ち帰り、共有する。	模造紙、マーカー、付箋紙
	12～16	(2)「持続可能な〇〇をデザインしよう!」 ・グループで話し合ったことをもとに、持続可能な施設(家の中/アミューズメントパーク/宿泊施設/駅・駅前広場/学校/レストラン/ショッピングモール)デザインし、発表する。	模造紙、マーカー、色鉛筆、SDGsの目標カード、付箋紙
	17～20	『【国語】未来がよりよくあるために』の意見文を書こう!』 ・これまで学習してきたことを生かし、よりよい未来を実現するためにはどうしたらいいかを個人で考え、意見文を書く。	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型学習を通して、子どもたちは主体的に、世界やSDGsについて学ぶことができた。 ・「持続可能な〇〇をデザインしよう!」で各グループが、学習したことを生かして様々な施設を考え出すことができたのは、大きな成果であったと思う。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに関して、個人の考えを深めることはできたと思うが、それを実践する力を育むところまでできたかどうかはわからない。今後どのように個々が実践に移していくのかを具体的に明言させ、それが実行できているのかどうかを確認していくなどのフォローアップも必要ではないかと感じた。 		
備考			

ぎょうざから地球について考えよう

所属	愛知県名古屋立伊勝小学校	実践者	西平 祐紀
対象	小学校6年生(22名)	実践日	2019年11月～2020年1月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	7時間

ねらい

- ・食と環境の問題について知り、自分の生活が関わっていることに気付く。
- ・地球環境の現状や今後について考え、持続可能な社会を実現するために自分にできることを考える。

回	プログラム	備考
1・2	<p>餃子の材料ってどうやって来るの？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・餃子の材料の自給率について考え、日本は輸入に頼っていることを知る。 【クイズ】【統計ラインナップ】 ・日本の食料自給率が低下した原因について考え、回し読みをし、食生活が豊かになったことが関わっていることに気付く。 【因果関係図】 ・餃子の材料の主な産地を考え、遠くから材料が運ばれていることを知る。 	食材の写真 資料 模造紙 ペン
3	<p>豊かな食事に潜む闇！？(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国産餃子と外国産餃子の材料の輸送距離を比べフードマイレージについて知る。 ・水に関わるクイズを通して、バーチャルウォーターについて知る。 【クイズ】 	地球儀 紙テープ 学習プリント プレゼン資料
4・5	<p>豊かな食事に潜む闇！？(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品廃棄の写真を見て、気付いたことを話し合う。 【フォトランゲージ】 ・日本ではどれくらいフードロスが起きているのか、また、どこから出ているのかについて考える。 【クイズ】 ・フードロスが起こる原因について考え、自分ごとであることに気付く。 ・フードロスが起こると、どんな影響があるのか考え、最悪の帰結に印をつける。 【派生図】 ・フードロスとは何か、その影響について自分の言葉でまとめる。 ・フードロスを減らすための取り組みについての資料を読み、班の中でプレゼンする。 	写真 プレゼン資料 グラフプリント 原因のカード 模造紙 ペン 資料 学習プリント
6・7	<p>地球の今！困っている地球をなんとかしよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年に起きた自然災害を振り返り、世界中で自然災害が起きていることや頻度が高くなっていることに気付く。 ・地球環境クイズに取り組み、地球環境の現状や自分たちの生活が地球環境を悪化させていることに気付く。 【クイズ】 ・自分たちができることを考えよう。【行動宣言】 	プレゼン資料 学習プリント

成果

環境問題について知っていても、自分ごととは捉えていなかった児童が、自分も環境を悪化させる原因をつくっているという認識をもつことができた。学校生活の中で給食を残さず食べようとする姿や水を使いすぎないようにする姿が見られ、行動に移すことができた。

課題

時間配分がうまくいかず、振り返りの活動が不十分になってしまった回があった。また、クイズを使うことが多く、単調になってしまったので、より多様な参加型の手法を取り入れ、児童がより楽しく学ぶことができるような実践をしたい。

備考

行動宣言では、個人ができることを中心に考えさせたが、今後は、学級でできることを考え、それを実践し、学校全体へ広める活動を行っていきたい。

SDGsを社会科に組み込もう

24

所属	愛知県名古屋市立笹島中学校	実践者	野口 哲平
対象	中学校2学年(19名)	実践日	2019年9月~2020年1月
実践教科	社会科	時間数	各5時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の資料を活用して、指導要領に即した活動で、SDGsを社会科で活用できるようにする。 ・SDGsの達成目標に基づいて考える事で、様々な見方ができることを知り、その中から根拠をもって実現可能な意見を考える事ができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	○ SDGの概要を把握する。	ダイヤモンドランキングは、一番上と一番下を最初に書き込ませる。全部、書き込めない生徒がいて良い。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ① 国連が発行するSDGsのプレゼンデータや動画を子どもたちに見せ、2030年までに世界が目ざす内容を知る。 ② 自分が優先したいと思う内容を、ダイヤモンドランキングで、ワークシートに書き込んで、自分の考えを書き込む。 	
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今までの学習内容とSDGsをつなげる。 ① 地理の教科書を読み、自分が関心ある地域を取り上げ、その地域が抱える課題をSDGsに置き換えて考える。 ② 課題に対し、因果関係図(A3用紙)を活用し、日本ができること考える。赤い付箋は課題・青い付箋は解決案と分けて考える。 	付箋の使い方の指導は行う。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題解決について考える地域を一つに絞り、課題を話し合う。 ① グループで話し合う地域と一つに絞り、その地域の課題や日本ができることについて、因果関係図(A3用紙)と付箋を活用して整理する。付箋の色は前回と同様とする。 ② ①で出てきた内容は、二次元軸表(A3用紙、横軸:重要度…赤付箋、縦軸:取り組みやすさ…青付箋)を使って整理する。 ③ 出された課題の中から、そのSDGsを達成するためには、どんな活動ができるか、改めて考える。 	付箋は75×25mm端的に記入させる
	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他の班を見て回り、プランの良いところ・疑問点を追加する。 ① 緑付箋を使って活動する。 ◇付箋に書く内容…いいと思えば☆と理由、プラス案は+と提案、疑問点は?と質問内容 ② 指摘されたことを改めて考え、ワークシートに書き込む。 ③ 学習課題を振り返りまとめる。 	
成果	SDGsの達成目標を意識することで、その単元の学習目的がその地域のこと・その歴史のことだけでなく、今と結び付けて考える事ができるようになった。		
課題	学習開始当初との変化がわかりづらかった。授業最後の時間でダイヤモンドランキングを改めて行い、個人で突き詰めて考えさせる時間を設ける必要があった。		
備考	準備品:国連プレゼン・動画データ、私たちが目ざす世界、各ワークシート、水性顔料ペン、付箋(赤・青・緑)、因果関係図用紙、二次元軸表用紙、パソコン・プロジェクターセット		

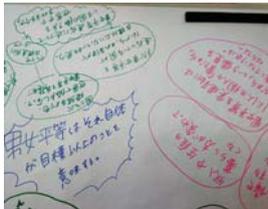
インドネシアを知ろう+にほんごを学ぼう

所属	たはら国際交流協会	実践者	野村 満里奈
対象	初級日本語学習者（15～20名）+日本人5名	実践日	2020年1月
実践教科	インドネシア紹介	時間数	1.5時間×2回 計3時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のこと、国のことを日本語で話すことができる ・グループのみんなと協力して、活動できる ・他国の人や文化にも関心を持つことができる 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1回目	<p>① アイスブレイク【部屋の四隅】 →インドネシアに関する(服、日本語学習者数、島の数を3問) * 今日のがんばります(目標)の提示</p> <p>② 日本からインドネシアまでの〇〇 →●●くこうから、わたしのまちまで～で、◎じかんかかります。</p> <p>③ 季節・果物 →インドネシアにある果物の写真を出し、他の学習者の国にあるか聞く。</p> <p>④ コモドドラゴンを想像して書こう【切り抜きフォト】 →コモドドラゴンの目だけの写真を用意。グループ内でその続きを書く。 →考えやすいように、ヒント文を配る。発表も、その文を見ておこなう。</p>	<p>* 1回目、2回目ともに PowerPoint を使いました。</p> <p>* ②スクリーンの文字だけでなく、プリントを配布。自分のことを言う時間にしました。</p> <p>* ④ヒント文は、不正解も含めた選択式の計5つ。</p>
	2回目	<p>① アイスブレイク(〇〇はどっち?) →国や日本の写真を出す。(スライドの左右、上下に写真。)</p> <p>② 簡単な質問に答える(自分のこと、国のことを話せる準備) →①～②⑩までの質問を読み、話せるようにメモ書きをする。</p> <p>③ すごろく×インドネシア観光地へ →①～②⑩の番号にたどり着いたら、その質問に答える。途中インドネシア観光地へ行けるかもしれない!?</p> <p>④ 観光地補足説明 →どんなところか、簡単に聞き、話してもらう。</p> <p>⑤ 観光地、どこへ行きたい?【ベストシール】</p>	<p>* ②質問シートを用意</p> <p>* ③すごろくは手作り。</p>
成果	<p>* 部屋の四隅の1問目に進行役(野村本人)の写真を出すと、参加者から笑いが見られ、緊張感がほぐれたようでした。</p> <p>* 普段あまり他国の人と関わらないので、日本語で話せて、知ることができる機会になりました。</p> <p>* テーブルファシリをした日本人スタッフから、こういうやり方もいいねと言われました。</p>		
課題	<p>* 一回目は、起承転結があまりなく、それぞれ独立した内容になってしまいました。</p> <p>* 「用意された日本語を話す」という意味では、自由度が低いものになってしまったと言える。</p>		
備考	<p>* インドネシア人の日本語学習者2名に協力してもらい、一部彼女らの日本語で進行をしました。</p> <p>* 今回は実践しませんでした。2回目内容の応用として、すごろくをして、観光地に触れた後、観光地の環境問題につなげるということもできるかと思います。</p>		



ジェンダーの平等がいちばん大事なこと!?

26

所属	愛知県名古屋市立桜台高校	実践者	箱山 園江
対象	高校2年生（34名、44名）	実践日	2019年11月
実践教科	外国語 英語	時間数	2時間（46分×2コマ）
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの17のターゲットについて知る ・身近な状況とSDGsの17のターゲットとのかかわりに気づく ・課題解決の優先事項とその方法について考える ・いま自分にできることを考える 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<ul style="list-style-type: none"> ◆♪PPAPの映像の流れる特別教室でグループの席に座る ◆SDGsのプリントを各自で読む <ul style="list-style-type: none"> ・読んでわかったことや身近な状況とSDGsの17のターゲットとの関連について考える ・わかったこと・考えたことをグループで共有する ◆英語プリント“Glass CeilingとGender Pay Gap” 「ガラスの天井と男女の賃金格差」を各自で読んだ後、グループで読む ・わからない語句・文章についての解説を聞き、英文の内容を理解する ・アナン元国連事務総長の文章の日本語訳と顔写真を見る ・アナン氏の文章から次の2文を取り上げる <ul style="list-style-type: none"> * “Gender equality is the top priority of global issues.” 「ジェンダー平等は課題に取り組む大前提である。」 * “What should we do to make a gender equal society?” 「ジェンダー平等社会を構築するために何をすべきか。」 	 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター ・パソコン ・SDGsについてのプリント資料 ・英文読解プリント
2	<ul style="list-style-type: none"> ◆「男女平等はそれ自体が目標以上のことを意味する。」と模造紙の中央に書き、グループで寄せ書き風書き込む【ブレインストーミング】 ◆他のグループの模造紙を自由に見て回る【ギャラリー方式】 ◆開発途上国の女の子を取り巻く状況について考える <ul style="list-style-type: none"> ・どのような状況なのか、なにがどのように必要なのかについて、意見を出し合う【ポップコーン方式】 ◆関連資料を各自で読む ◆振り返りシートを記入する 	 <ul style="list-style-type: none"> ・模造紙 ・カラーペン ・“Because I am a Girl”の資料 ・振り返りシート 	
成果	1学期に「世界一大きな授業」で教育の権利について学び、マラユスフザイさんのスピーチを読んだ。今回のワークショップでは、先進国と開発途上国でのジェンダー平等と女の子を取り巻く状況の違いについてより身近な課題として捉えることができた。一年を通じて継続的に実施することで学びが深まった。		
課題	課題を自分事として捉え個人で考えをまとめ、グループで発展させていく過程では、やはり日本語での活動が必要になる。英語の教科書の中で継続的に実施していくためには、教材作成と授業計画に周到な準備が必須である。課題や資料などを英語でinputし、日本語で考えを深めてoutputできるような工夫をしていきたい。また、行動につながる気づきを引き出していきたい。		
備考	今回のワークショップ後、英語の教科書でマラユスフザイさんのスピーチを学習した。マラさんの友人が児童婚によって夢が奪われた話を、以前よりも身近な課題として捉えることができたようだ。		

世界の国々について知ろう

所属	愛知県名古屋市立山田小学校	実践者	長谷川 義洋
対象	特別支援学級（自閉・情緒6名）	実践日	2019年10月～12月
実践教科	図画工作科・学級活動・道徳	時間数	7時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイ共和国について関心をもつことができる。（図画工作科） ・世界の国々について知ることができる。SDGsについて知ることができる。（学級活動） ・世界のどの国にも国旗や国歌があることや、込められている意味を知ることを通して、国旗や国歌を大切にしようとする心情を育てる。（道徳科） 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	① 日本全土の地図を見せる。 ② パラグアイ全土の地図を見せる。 ③ パラグアイの国土を画用紙に印刷したものを配り、塗り絵をする。	
	2	① パラグアイの国土の形に画用紙を切り抜き、版を作る。 ② 版を紙に貼り付け、インクをつける。 ③ できた版画を色画用紙に貼る。	
	3	① パワーポイントのスライドを見ながら、パラグアイの国の概要を知る。 ② パラグアイの写真と日本の写真を9枚ずつ見せ、どちらの国の写真か考える。 ③ パラグアイの写真を使って、ビンゴゲームする。 ④ ニャンドゥティの本物をコースターにして、マテ茶を飲む。	【クイズ形式】 【フォトランゲージ】 【ビンゴ】
	4	① パラグアイ以外の国について知る。 ② 自分が好きな国旗を選ぶ。 ③ コンピュータを使って、自分が選んだ国旗の国について概要を調べる。	【ブレインストーミング】
	5	① 世界のどこの国の国旗か考える。 ② ペアで国旗と国旗の意味を考える。 ③ パラグアイの国歌を聞く。 ④ 日本の国歌を聞く。（日本の入学式の場面） ⑤ 入学式・卒業式で国歌や国旗があることを確認する。	
	6	① SDGsについて知る。② SDGsゲームをする。③ 読み聞かせを行う。	
	7	① SDGsについて、今の日本の現状について知る。 ② 自分でできることについて考える。	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイやSDGsの話や授業がとても新鮮だったようで、意欲的に参加してくれた。 ・いろいろな人や国、食べ物があることを知り、日本の良さや課題に気付くことができた。 ・自分も授業をすることで、新たな発見がたくさんあり、授業を重ねるごとに学びを深めることができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年の子どもがいるため、一斉に授業を進めることがなかなか難しいことがあった。T2の先生がいなくてなかなか参加型の授業を行うのが難しかった。 ・子どもによって教科内容が異なるため、1つの教科で実践を進めていくことが難しかった。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にマテ茶を飲み、笑顔で感想を伝え合う姿は、本当に楽しそうだった。 ・SDGsを知ったことで、SDGsのマークを見つけると教えてくれた。また、学校生活のあらゆる場面でSDGsを意識した発言が出るようになった。SDGsゲームは、今でも飽きることなく楽しくやっている。 		

ハッピー バレンタイン!? ガーナで子供が 泣いているのに ...
Happy Valentin?! -Children in Ghana are crying-

28

所属	愛知県立熱田高等学校	実践者	前田 昌美
対象	高校3年生 (26名)	実践日	2020年9月~11月
実践教科	総合的な学習の時間 (英語・国際理解)	時間数	4時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・安くて身近な食べ物チョコレート 배경に児童労働などの課題があることに気づく ・ドラマ化したものを演じることで心と体で児童労働を疑似体験し、内在化する。 ・賢い消費者となることで社会を変えることができることを知る。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>1 『My favorite snack』</p> <p>◆クイズ:自分の好きなお菓子は〇〇!【アイスブレイク】</p> <p>My favorite snack is _____.</p> <p>(ingredient, taste, shape, color, smell, smooth, crispy, hard, soft)</p> <p>2 『Do you know where cacao comes from?』</p> <p>◆図"Cocoa Production and consumption"を見て話し合う。</p> <p>・途上国と先進国の関係に気づく。</p> <p>3 『What do you know about Ghana?』</p> <p>◆Ghanaについて知っていることを話し合ってみよう。</p> <p>・Where is it? ・How large? ・The people? ・The climate?</p>	<p>学習プリント カラーペン</p> 
	2	<p>1 『Ghana Quiz』</p> <p>◆グループ対抗!「こんなガーナ! あんなガーナ! これがガーナ!」</p> <p>2 『What is chocolate made from?』</p> <p>◆カカオ豆はどれ? どうやって日本までくるのかな? なんで安い?</p> <p>3 『What is happening at cacao farms?』</p> <p>◆"Bitter Truth about Chocolate"とChocolate is a guilty pleasure"をグループで読み話し合う。</p>	
	3	<p>1 『Bitter Truth about Chocolate』</p> <p>◆DVD「チョコレートの真実」を視聴する。</p> <p>2 『What is child slave labor?』</p> <p>◆児童労働 (child slave labor) の原因と解決策を考える【派生図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童労働は人権侵害の重大な問題である。 ・先進国に住む自分たちにも大いに責任があることを知る。 ・Fair tradeについて知る。"2019ChocolateScoreCard"を見て大手チョコレート会社が児童労働と関りが深いことを知る。 ・自分に何ができるか考える。 	<p>DVD カラーペン 学習プリント</p>
	4	<p>1 児童労働をテーマにした英語劇を体験する。</p> <p>◆『Happy Valentin? BullShit! Children in Ghana are crying!』をグループで演じる。【ロールプレイ・ドラマ化】</p>	<p>台本</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ドラマ化したことで、児童労働に苦しむ子供の心情が疑似体験できたことは成果の1つと言える。 ・チョコレートという身近な食べ物をテーマにしたことで児童労働が自分事として考える機会を持てた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク、DVD、読み物教材は英語にし、派生図の作成においては単語レベルでの話し合いOKとして進めた。ドラマの台本は時間の関係で教師が書いたが、視覚教材をもとに生徒がロールプレイを積み重ねながら1つのドラマ作りも可能であった。時間の関係で断念したが、次回は挑戦したい。 		
備考	<p>総合9回シリーズで、今回の「Bitter Truth about Chocolate」で4時間、「Peeling Back the Truth on Bananas」で4時間、GretaThunbergのYoutube+リスニング教材で1時間。</p>		

自分を見つめ、みつけよう未来

29

所属	愛知県津島市立東小学校	実践者	宮川 勇作
対象	小学校5年生（84名）	実践日	2019年9月～2月
実践教科	総合的な学習の時間・国語・社会・学級活動	時間数	16時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の良いところやもっと成長したいところに気づき、今の自分を認め、自信をもつ。 ・ 生活環境や身体的なちがいがあの人々との交流を通して、人権感覚を高める。 ・ 他国の子ども達と肯定的に出会い、互いの文化や習慣のちがいを知る。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1・2	◎ 自分を見つめよう ・仲間探しゲーム【アイスブレイク】 ・自分のことをふり返り、良いところやもっと成長したいところをワークシートに書き出す。 ・クラスの友達の良いところを見つけ、伝え合う。	・国旗カード ・6カ国のあいさつカード ・写真 ・ワークシート
	3～8	◎ 明日をつくるわたしたち ・「望む未来」について考える。【派生図】 ・ギャラリー方式で見合い、いいね！と思った意見に☆印をつけ、グループに戻り、共有する。【ギャラリー方式】 ・世界的な課題を知り、様々な課題について世界の現状に興味をもつ。 ・SDGsを知り、自分が一番気になった課題と関連するSDGsのゴールについて調べ、レポートにまとめ、発表する。	・半模造紙 ・ペン（プロッキー） ・タブレットPC
	9	◎ 福祉実践教室 ・身体に障がいのある方々との体験的な交流を通して、感じたことや初めて知ったことを共有する。	
	10・11	◎ Malawi International Exchange Learning ・マラウイ共和国を知り質問したいことを考える。【ブレインストーミング】 ・ビデオ通話でマラウイ共和国シナマプライマリースクールの子供達と交流授業を行い、Q&Aを通して異文化を知る。	・A4用紙 ・ペン（プロッキー） ・大型スクリーン
	12～15	◎ エチオピアとパラグアイを知ろう！ ・エチオピアやパラグアイのクイズを行い、日本との共通点や相違点を知る。【リストアップ】【対比表】 ・それぞれの国のことを肯定的に受け止め、抱える課題に気づく。	・半模造紙 ・ペン（プロッキー）
16	◎ わたしがめざす未来のわたし	・四つ切画用紙	
成果	自分を主観的、客観的に捉えながら、参加型の手法を通して友達から認められる安心感をもつことができた。身体的なちがいがあの方々やマラウイ共和国の子供達と実際に交流することで自分たちとの共通点や相違点を発見した。どんな環境下で生きていても命はとても大切であることを実感することができた。		
課題	総合的な学習のテーマとしてプログラム作りを行ったが、小学5年生は国語や社会の教科学習のなかでもSDGsを扱える分野が多かったにも関わらず、カリキュラムマネージメントを考慮した「流れのあるプログラム作り」が時期的に上手くかみ合わなかった。無理のない範囲で単元の入れ替えができると良かった。		
備考	Malawi International Exchange Learningは、現地の青年海外協力隊員と企画し、FaceTime で交流授業を実施。エチオピア授業実践は、教師海外研修参加の同僚が講師として実施。		

世界のこと、みんなで一緒に考えよう！

30

所属	名古屋市立稲葉地小学校	実践者	宮嶋 いずみ
対象	小学校6年生（35名）	実践日	2019年11月～2020年1月
実践教科	（社会科・総合的な学習の時間）	時間数	8時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解を通して多様性の良さに気づき、認め合うことができる。 ・日本と世界のつながりに気づき、より良いつながりを築くために大切なことを考える。 ・世界の課題は私たちの課題でもあることをSDGsを通して気づき、自分にできることを考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆「パラグアイってこんな国！」 ①「パラグアイってこんな国！」のスライドを見てパラグアイについて知る。	・現地研修時の写真や動画・アンケート
	2	②パラグアイクイズを行い、日本とパラグアイの共通点と違いに気付く。 ③違いがあることの良さを、「みんな同じだったら」と考えることにより気付かせる。【対比表】 ④「多様性が認められない学級だったら」と考え、どのような学級が居心地がよいか考える。【派生図】 ⑤友達とどのように関わることが大切か書き出し、発表する。【行動計画】	
	3	◆「日本と世界のつながりについて知ろう！」 ①日本と世界のつながりには、良いものと悪いものがあることを知る。 ②より良いつながりを築くためにできることを考える。スーパーに売っている商品に「つながりマーク」が付いていることを伝え、できることのひとつとして紹介する。	
	4	◆「世界が抱える課題を知り、SDGsの目標との関連を考えよう！」 ①資料を基にSDGsの目標を知り、友達と感想を伝え合う。	・「SDGsスタートブック」
	5	②世界の子どものストーリーを読み、友達と思ったことを伝え合う。	
	6	③ストーリーから読み取れる問題と課題解決のきっかけを書く。【派生図】 ④ストーリーから読み取れる問題とSDGsの目標を関連付ける。	・「持続可能な開発目標-SDGs-アクティビティ集」
	7	◆「日本が抱える課題を知り、行動へつなげよう！」 ①資料を基に、日本が抱えているこれから解決すべき課題について知る。	・「未来の授業 私たちのSDGs研究BOOK」
	8	②日常生活を振り返り、自分の生活での課題を考える。	
	③日本の社会や日常生活で感じる課題と課題解決のきっかけを書く。【派生図】 ④日本の社会や自分の課題とSDGsの目標を関連付ける。 ⑤課題解決のために自分が取り組むことを書き出し発表する。【行動計画】		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の当たり前はみんなの当たり前ではないことを知り、多様性の良さや認め合うことの大切さに気付くことができた。 ・日本と世界には、良いつながりと悪いつながりがあることを知り、世界と良い関係を築くことの大切さや、感謝して食べ物をいただくという気持ちを持つことができた。 ・世界の課題は自分たちの課題でもあることに気づき、一人一人ができることを考え、取り組み始めることができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の課題は自分たちの課題であることに気づき、行動計画をたてたが、その行動計画が日常生活において継続してできるような工夫を考えて取り組んでいきたい。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生社会科「世界の中の日本」の単元で、6年生全体に「パラグアイってこんな国！」、「日本と世界のつながりについて知ろう！」と、SDGsの紹介を行った。 		

わたしの「力」

31

所属	愛知県立瀬戸北総合高等学校	実践者	村上 偉代
対象	高校3年生（31名）	実践日	2019年12月～2020年2月
実践教科	『教養生物』（学校設定科目）	時間数	6時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・今の自分を見つめて、自分自身の捉え方や考え方に気付く。 ・セルフエスティーム(SE)の概念を知り、SEを育み合える社会を創るためのスキルを学ぶ。 ・社会全体の課題とその背景に気付き、課題解決に向けて取り組めることを考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<ul style="list-style-type: none"> ●今の「わたし」を見つめよう ①わたしを見つめる四つの窓 ②四つの窓をやってみての振り返り ●「課題」について考える 「自分の課題」「日本の課題」「世界の課題」を考えてみる。 	
	2	<ul style="list-style-type: none"> ●セルフエスティーム(SE)とは何だろう？ ①セルフエスティーム(SE)という概念について知る。 ②SOBA-SETをやってみる⇒振り返り ③個人のSEが高いとどうなる？個人のSEが低いとどうなる？を考えてみる。 	ワークシート 参考：『子どもの自尊感情をどう育てるか』（近藤 卓）
	3	<ul style="list-style-type: none"> ●セルフエスティーム(SE)が高まるとき・阻まれるときを考える ①SEの概念について理解を深める。 ②SEが高まるとき・阻まれるときを個人⇒グループで考える。【対比表】 	
	4	<ul style="list-style-type: none"> ●セルフエスティーム(SE)を育み合える社会に向けて ①リフレーミングの練習⇒振り返り ②リフレーミングスキルは、どういう場面で活かせるか考える。 ③SEを育み合える社会に向けて、「わたし」ができることを考える。 	ワークシート
	5	<ul style="list-style-type: none"> ●社会における課題とその背景について考えよう。 ①カード教材を使って、課題を抱える当事者・どんな課題を抱えているか・課題の背景・課題解決に向けた動きについて知る。 ②ある課題の解決に向けて、どんなことができるかをグループで考える。 ③振り返り 	自作カード教材
	6	<ul style="list-style-type: none"> ●課題解決に向けて自分ができることを考えよう。 ①SDGsについて知る。 ②社会における課題の解決に向けて、自分が取り組めることを考える。 	
成果	ワークをやっていく中で、SEの概念やリフレーミング、社会の課題など、生徒にとって初めて知る内容が多かった模様。しかし多くのワークで、生徒が意欲的に取り組む場面が見られた。普段の授業では受け身になりやすい生徒たちが、主体的体験的に学ぶ時間を作れたことは一つの成果であると考える。		
課題	ワークショップ全体を通じて、グループワークが成立しにくい場面が多く、個人のワークに依存しすぎた部分は否めない。他者との肯定的な関わりを日常で持てるようなスキルトレーニングも継続的に行う必要があると感じている。		
備考			

結集せよ！～日本の未来を支える頭脳～

32

所属	愛知県海部郡蟹江町立舟入小学校	実践者	村瀬 泰広
対象	小学校6年生(19名)	実践日	2019年10月～2020年1月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	20時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活が外国と深く関わっていることに気付く。 ・世界で今起きている問題について知る。 ・諸問題の解決に向けて、今の自分にできることを考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1～8	世界の今を知ろう ○ 「もし世界が100の村だったら」のアクティビティーを通して、世界の現状を知る。【ロールプレイ】 ○ パラグアイの様子について知る。 ○ 「スラムにひびくバイオリン」の絵本をもとにした劇をする。	ワークショップ版世界がもし100人の村だったら;開発教育協会 パラグアイで撮影した写真、映像
	9・10	貧困の実態を知ろう ○ 世界の子どもたちが置かれている貧困の状況を知る。【ブレインストーミング】	「世界がもし100人の村だったら」DVD;ポニーキャニオン 模造紙、ペン
	11・12	世界の中の日本 ○ 日本と世界のつながりと今の私たちの生活について考える。【因果関係図】	模造紙、ペン
	13～15	キーワードから日本と世界を考える ○ 「フードロス」「フードマイレージ」「食料自給率」「フェアトレード」の4つを、キーワードごとに調べる。	
	16・17	SDGsとわたしたち ○ SDGsの17の目標を知り、自分とのかかわりを考える。【ランキング】	
	18	援助の最前線を知ろう ○ パラグアイで行われている支援・援助の例を知る。 ○ 支援・援助に必要なことを考える。	パラグアイで撮影した写真、映像
19・20	考えてみよう、世界の課題を解決に向けて ○ 「自分にできること」「みんなとやること」「国がやること」について考える。【行動計画づくり】	模造紙、ペン	
成果	導入時に「スラムにひびくバイオリン」をもとにした劇を行い、貧困についてより身近にとらえることができた。よりよい支援や援助を考える中で、お金やものを与えるだけではなく、相手の国が自分で発展しているような形にすることの大切さに気付くことができた。		
課題	参加型の手法を随時取り入れ、個人での活動よりも考えが深まる様子が見られたが、活動に時間がかかってしまい、個人でのまとめや振り返りの時間が短くなってしまった。		
備考			

人道支援を通してグローバルな視点を持つ

所属	石川県野々市市立布水中学校	実践者	MORI Keiko
対象	中学校2年生(35名)	実践日	2020年12月
実践教科	道徳・英語	時間数	3時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界で、命を救う業務に携わった日本人について学ぶ ・杉原千畝氏が命のビザを発給した背景を学ぶ ・緒方貞子さんの業績から人権について学ぶ 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	英語 Unit 5 Universal Design 単元終了後に世の中で困っている人について考えた。 グループワーク(5~6人)でそれぞれのテーマを中心に置き派生図を作成 テーマ例 教育 学校へ行けない子どもたち 交通 インフラ整備が整っていない地域に住んでいる人たち 食 食べ物がいない人たち 医療 病気なのに病院へ行けない人たち 環境 地球温暖化の影響 貧困 多くの困難について 最後に発表し、シェア 1人2枚のシールを「なるほど」と思ったところへ貼っていく	NEW HORIZON テキスト 模造紙 ○ 小サイズ スティッカー 生徒数×2
	2	「6千人の命のビザ」で、杉原千畝氏の業績について学ぶ 日本のシンドラと呼ばれた杉原千畝の生涯を通して、生徒達は、何を感じ、どんなことを考えたのか。 当時のリトアニアの状況を学ぶ 質問 なぜ、人々には日本のビザが必要だったのか 自分なら、どうする？ 緒方貞子さんの業績について ふりかえり	パワーポイント スライド数枚 チャート数枚 天秤の絵
	3	補習 特別支援教室に在籍している生徒ではないが、教室へ入れない生徒2名 に対して、貧困についての授業をした。	わら半紙 ふせん
成果	振り返りで、生徒から自然と「いろいろなことがつながっている。」という声が上がった。 自分の周りに目を向けて、自分ごととして少し考えることができた。		
課題	35名の中には、はじめ「自分さえよければいいもん。」という生徒もいたが、途中からグループの一員として学習に参加することができた。しかし、最後まで、自分ごととして問題を捉えることは難しかった。		
備考	シティカレッジの授業として、第1回~第16回までの講義で「国際協力とグローバル人材育成」にも協力		

世界と出会おう！楽しもう！！

所属	名古屋市立東海小学校	実践者	森谷 朋香
対象	小学校1年生（18名）	実践日	2019年12月～2020年1月
実践教科	生活科、道徳、学活	時間数	6時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化について知り、多様な文化があることに気付く。 ・日本の昔遊びの楽しさを知り、外国籍の友達に紹介する。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>★ 世界の挨拶について知ろう。</p> <p>① 児童会企画の「あいさつワールドカップ」に参加する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「あいさつワールドカップ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表児童に出された挨拶カードに従って、挨拶をする。 ・挨拶ができれば、シールをもらう。 ・あいさつオリンピックチャンピオンになるために、たくさんシールを集める。 </div> <p>② 「あいさつワールドカップ」を通して、分かったことや思ったことを書き、共有する。</p>	ワークシート シール 挨拶カード
	2・3	<p>★ 世界の文化について知ろう。</p> <p>① 各国の様々なあそびについてのクイズをする。</p> <p>② 世界の様々なあそびを体験する。</p> <p>③ あそびを体験して、感じたことを書き、共有する。</p>	白地図 クイズカード ワークシート
	4・5	<p>★ 日本の昔遊びを体験する</p> <p>① お年寄りとの昔遊びの会を通して、お手玉、けん玉、こま、だるまおとしを体験する。</p> <p>② 体験をして感じたことを書き、共有する。</p> <p>③ 遊びを一つ選び、技を練習する。</p>	ワークシート
	6	<p>★ 外国籍の友達に、昔遊びを紹介する。</p> <p>① それぞれの遊びの技ややり方を紹介する。</p> <p>② 各ブースに分かれて、外国籍の子にやり方や技を教える。</p> <p>③ 活動を振り返り、感じたことを書いて共有する。</p>	ワークシート
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の挨拶やあそびに興味をもち、楽しんで活動することで、様々な文化があることを知ることができた。 ・日本の昔からの文化にも触れ、その楽しさに気付き、紹介することができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・気づきから行動につなげられるような活動があると良かった。 		
備考			

夢みる力～輝く明日に向かって！～

所属	愛知県弥富市立弥富北中学校	実践者	山口 郁子
対象	中学校 1 年生 (155 名)	実践日	2019 年 4 月～12 月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	12 時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解、他者理解といった、コミュニケーションの基本となる体験を通して、お互いを尊重し、信頼関係を築き、協力し合える関係をつくる。 ・課題解決のために世界で取り組むSDGsについての知識を深める。 ・貧困に陥る原因を探り、貧困脱却のために必要なもの・役立つことを知り、自分にできることを考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>＜1学期「世界と出会う」＞</p> <p>◆『肯定的な出会い、違いを認め合おう』</p> <p>① 仲間探し！コミュニケーションスキル 「一番好きな動物」「一番好きなスポーツ」などジェスチャーや形態模写で表す。</p> <p>② 同じところと違うところ グループ全員の共通点をできるだけたくさん見つけ、A4用紙に書き出す。 「今のこと」「昔のこと」「好きな何か」「嫌いな何か」など、様々な角度から考える。</p> <p>③ YES・NOどっち！？ これからする質問について、自分の一番近いと思う選択肢のカード「はい、どちらかといえははい、いいえ、どちらかといえはいいいえ」カードを出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料：『よりよい未来を共に学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集-コミュニケーション編』-(NIED・国際理解教育センター) ・はい・いいえカード ・主催：教育協力 NGO ネットワーク (jnne)
2-3	<p>◆『世界一大きな授業 2019』(SDGs4)</p> <p>すべての子どもに教育を。一本のペンが世界を変える。</p> <p>① アクティビティ1:クイズ ② アクティビティ2:識字 ③ アクティビティ3:教育と資金</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料：冊子「私たちが目指す世界」 ・動画：マララ国連スピーチ 	
4-5	<p>◆『SDGsって何？』</p> <p>2018年度ワークショップ幸せが長続きする豊かな世の中へ</p>		<p>◆『マララを知ろう』</p> <p>世界で活躍するマララの話聞き、教育の必要性を知る。</p>
6	<p>◆『SDGs1 貧困をなくす！』</p> <p>① 「飢える国・飽食の国」の動画を観る ② 貧困の悪循環を知る！ ③ 貧困ってなんだろう？【派生図】 ④ 貧困の悪循環を断ち切る！ ⑤ モロッコ女性が貧困を救う！？ ⑥ バナナのお話 ⑦ フェアトレードを知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動画：地球データマップ『飢える国・飽食の国』 ・動画：スーパーバナナ パブロ君 	
10-12	<p>校外学習◆『Green Peace の旅～世界の Peace を目指して』<訪問地 JICA 中部></p> <p>◆『貿易ゲーム』</p>		
成果	<p>総合的な学習の時間に取り組む、国際理解教育の積み上げ1年目のスタートとなった。SDGsを軸に授業の内容が前時の授業に関連するように授業計画を行った。SDGsに関連させながら学びを深めていけたこともあり、自分ごととしてSDGsを身近に捉えられるようになっていった。</p>		
課題	<p>今年度は SDGsについて知り、世界の課題について気づき・考えることができた。3年間の学習計画をきちんと見直し、今年度得た知識や気づき、自分ごととして捉えた課題をもとに、より日常生活に近づけられる「気づき、考え、行動する」生徒を育成し、授業実践を行っていきたい。</p>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の取り組みとして、各教科で SDGsに関連した、教科横断型の授業を実践した。 ・昨年度、美術で実践した『SDGsに向かおう！』を今年度も引き続き実践することができた。 		

遠そうで近いパラグアイ

36

所属	名古屋大学教育学部附属中高等学校	実践者	湯浅 郁也
対象	中学3年・高校2年生(160名)	実践日	2019年10月～2020年1月
実践教科	英語	時間数	3時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・途上国の現状を知り、環境、貧困、教育などのパラグアイが抱える諸問題に目を向ける。 ・自身の暮らす地域と貧困地域における共通点・相違点を見つける。 ・自国と他国、それぞれの視点から「豊かさ」について考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【パラグアイ、カテウラ地区について知ろう】 ①アイスブレイク「4つのコーナー」 ②「豊かさ」とは何か？ アイスブレイク「4つのコーナー」を使い、「豊かさ」に関する4つの質問に各自が回答(教室の四隅へ移動する) ③パラグアイ紹介 現地収集の写真をを使い、クイズ形式でパラグアイの人々・気候・食事・文化を紹介 ④カテウラ地区の紹介 現地収集した写真を使用	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート「豊かな社会とは①」 写真/ビデオ ・パワーポイント
	2	【カテウラ音楽団について、SDGsを通して考えてみよう】 ①アイスブレイク「同じところと違うところ」 ②カテウラ音楽団について 「Landfill Harmonic Orchestra」 ジグソー法を用いてグループ内で情報共有 ③カテウラと世界のつながり <ul style="list-style-type: none"> ・カテウラを取り巻く問題を列挙 ・SDGsからみたカテウラの現状と課題 ※Economy、Society、Biosphereそれぞれの観点から考える <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で各自の考えを共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・模造紙 ・文献資料 ・「SDGs」シート
	3	【日本とパラグアイ、それぞれの視点から考えてみよう】 ①アイスブレイク「スモールトーク:小さな幸せ」 ②パラグアイと日本の暮らし、共通点や相違点について考える <ul style="list-style-type: none"> ・カテウラの人々の生活と私たちの生活はどのようなつながりがあるか各自で考え記入 ・各自で記入したものをグループ内で回し読み ③「豊かさ」とは何かについて各自で再び考える <ul style="list-style-type: none"> ・各自の考える「豊かさ」の定義を1文で記述 	<ul style="list-style-type: none"> ・半模造紙 ・ワークシート「豊かな社会とは②」
成果	<p>経済成長の度合いや人々の境遇に違いはあるものの、それぞれが環境問題を抱えていたり、教育の向上を望んでいたりに生徒が気づいた。また、貧困地区の子どもたちが音楽を糧に生きている様子からは人々が共通して持つ価値についても触れることができた。</p>		
課題	<p>「豊かさ」について考える活動においては、他国の事例の紹介も含めて、より多面的な解釈ができる問いの設定が必要である。</p>		
備考	<p>本実践ではパラグアイの貧困地区について考える活動に重点をおいた。今後は、紹介事例をもとに生徒が各自で探究をすすめることのできる授業実践へと繋げていきたい。</p>		

それぞれの素晴らしさ～違いを越えるために必要なこと～

所属	愛知県岩倉市立岩倉中学校	実践者	油浅 重里
対象	中学校2年生（外国籍生徒6名）	実践日	2019年10月～12月
実践教科	日本語指導	時間数	8時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が生まれた国の文化に誇りをもつ。 ・これまでに起きた争いについて知り、その原因に気付く。 ・多様な価値観の素晴らしさに気付き、平和な社会づくりのためにできることを考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>◆比べてみよう！日本とぼく・わたしの国！</p> <p>①ぼく・わたしの国の自慢グルメ紹介【アイスブレイク】</p> <p>②それぞれの国のおもしろさ、素敵などころ、共通点、相違点等を見つけ、1つ1つの国の素晴らしさに気付く。</p>	モンゴル人留学生作成の模造紙
	2	<p>◆これまでに起きた戦争について知ろう</p> <p>自分の生まれた国や、日本で起きた戦争について知る。【ジグゾー法】</p>	
	3	<p>◆争いはなぜ起きる？原因を考えよう</p> <p>①前時で知った戦争の背景から、争いの原因を考える。【因果関係図】</p> <p>②谷川俊太郎の絵本「へいわとせんそう」を読む。</p>	絵本『へいわとせんそう』
	4	<p>◆戦争を避けるために必要なものって？</p> <p>①谷川俊太郎の新聞記事を読む。</p> <p>②新聞記事から、戦争を避けるために必要なものを考える。【派生図】</p>	朝日小学生新聞(2019.8.14)
	5	<p>◆戦争って遠いところで起きている？身近な争いについて考えよう</p> <p>身近なところで起きている争いについて知り、世界の争いと身近な争いの原因の共通点に気付く。</p>	
	6・7	<p>◆シェアハウスで事件発生！？違いを越えるために必要なことは？</p> <p>①多国籍なシェアハウスの仲間を紹介する。</p> <p>②シェアハウスで起きたトラブルを紹介する。</p> <p>③なぜすれ違いが起きてしまうのか考える。【ポップコーン方式】</p> <p>④どうすれば違いを越えて、楽しく過ごせるか考える。【派生図】</p> <p>⑤シェアハウスでの取り組みを紹介する。</p> <p>⑥シェアハウスの仲間の考えを紹介する。</p>	動画 パワーポイント
	8	<p>◆今日からできることを考えよう</p> <p>①4と6・7で作成した2つの派生図を比較し、共通点に気付く。</p> <p>②絵本「ALOHA LETTER」を読む。</p> <p>③今日からクラスでできることを考える。【3か条の行動計画】</p> <p>★クラスみんなへ、世界みんなへのメッセージ</p> <p>★あなたの人生で大切なものは？</p>	絵本『ALOHA LETTER』
	成果	<p>国と国との間で起こる戦争と、身近なところで起こる争いの原因に、子どもたちなりに共通点を見つけていることができていた。また、2つの派生図を比較し、国レベルで「戦争を避けるために必要なもの」と、個人レベルで「違いを越えて楽しく過ごすために必要なもの」との間にも、共通点を見つけていることができていた。</p>	
課題	<p>子どもたちは、自分の生まれた国について語る時、とても生き生きとした表情を見せた。しかし、校内で少数派である彼らは、普段自分のルーツについて考えたり、語ったりする機会はほとんどない。日本人生徒と外国籍生徒を学校生活の中でどう繋いでいくか、今後も考えていきたい。</p>		
備考	<p>今回実践を行ったのは外国籍の子どもたちが少数派である学校だったが、岩倉市には、在籍数の半数以上が外国籍の子どもたちである学校もある。</p>		

世界のつながり、ありがとう！

38

所属	愛知県立熱田高等学校	実践者	横井 美月
対象	高校1年生（317名）	実践日	2019年11月～12月
実践教科	総合的な探究の時間	時間数	3時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と世界の相互依存の関係に気づく ・国際問題の原因を考える ・他を認めることの大切さに気づき、より良い関係を築くにはどうすべきか共に考える 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	パラグアイについて知る ①同じところと違うところ【アイスブレイキング】 グループ全員の共通点をできるだけたくさん見つけて書き出す ②パラグアイと肯定的に出会う パラグアイへのイメージ(偏見)に気づく【フォトランゲージ】【クイズ】 ③パラグアイと日本のつながりや同一性に気づく【対比表】	パワーポイント パラグアイの写真 パラグアイの動画 パラグアイBOX A4用紙
	2	世界と日本のつながりについて知る ①名刺で自己紹介【アイスブレイキング】 お題：最近ハマっているお菓子、今日の朝食、通学手段と通学時間、パラグアイの授業で印象に残ったこと ②自分の生活から日本と世界の関わりに気づく【ブレンストーミング】 今日お世話になったものリスト(食べ物、もの)作成 ③世界と日本のつながりを知る【つながりカード】 カードを通して日本が世界に与えている良い影響、悪い影響について実際の事例を知る ④グループのメンバーで分担してつながりカードに関係する資料を読み、知識を深める	A4用紙 A3用紙 つながりカード JICA資料 ペン
	3	良いつながりと悪いつながりに気づき、実際に自分に何ができるか考える ①前時の振り返り【傾聴】 ペアとなり、過去2回の授業の感想、覚えていることを30秒で伝え、聞き手はその後30秒で話し手が話したことをそのまま返す ②良いつながりを阻むものは？【因果関係図】 良いつながりを築くために、なぜ悪いつながりができるのか原因を考える ③良いつながりを築くために自分、学校、国ができることとは？ ラベルカルタをする【カルタ】 →フェアトレード、レインフォレストアライアンスなどのラベルを知ることリストを作る【行動計画】 ④身の回りのよいつながりとは？ 自分たちの人間関係を振り返る	模造紙 A3用紙 ペン カルタ
成果	今まで遠くて関わりがあまりないように感じていた国々が実は身近で、自分たちと変わらない生活をしていることに親近感を持つようになった。世界で起きている問題は、自分たちの生活と密接な関係にあることに気づき、「自分ごと」として考える生徒が増えた。		
課題	1時間ごとの内容が少し多く、一つ一つの活動にあまり時間が取れなかった。また、資料作成を各教科で行うと、教科とのつながりが増し、より深い学びにつながるだろう。		
備考	1時間目は体育館で320人に授業を行い、残り2時間は各教室にて各担任が授業を行った。本校では初めての試みだったが、それぞれの担任の色を活かして授業を行うことができたように感じる。		

本当にこれでいいのかな？ ～食品ロスから日本の未来を考える～

所属	兵庫教育大学大学院		実践者	脇田 佐知子	
対象	兵庫教育大学大学院生（ストレート・現職）		実践日	2019年12月～2020年1月	
実践教科	自主勉強会（はにわ会）		時間数	2回（90分×2）	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型学習には様々な手法があることを知る。 ・開発教育・際理解教育・グローバル教育に興味をもつ。 ・自分たちの行動が世界とつながっていることに気付き、これまでの生活スタイルを見直し、できることを考え、行動に移す。 				
実践内容	回	プログラム		備考	
	1	<p>・アイスブレイキング〈4つのコーナー〉 （切り口が変われば違って見える。いろいろな角度から知り合うことが大切である。）</p> <p>・自己紹介〈名刺で自己紹介〉 （わたし・あなた・みんなについて知るために、まずは自分のことをよく知る。）</p> <p>・環境問題には、どのようなものがあるだろう？【ポップコーン方式】 （世界には一つの国だけでは解決できない問題がたくさんある。）</p> <p>・ごみ問題にはどのようなものがある？【ブレンストーミング】 （ごみの問題1つを考えても様々な問題がある。）</p> <p>・なぜ食品ロスは問題なのだろう？【クイズ】【映像】 （日本は多くの食べ物を輸入に頼っている。食べ物を育てるのには多くの水が必要。水がなくて困っている国がある。食べ物が不足して亡くなっている人がいる。輸入には多くのエネルギーが必要。二酸化炭素を多く出している。など食品ロスの問題は、様々な問題と関わっている。）</p> <p>・食品ロスはなぜ起きる？【因果関係図】 （見た目、食の安全、習慣、好き嫌い、注文しすぎなどいろいろある。）</p> <p>・自分も関わっていることはないかな？【因果関係図に☆マーク】 （食品ロスの問題に自分も関わっている）</p> <p>・食品ロスをおこのまま続けたらどうなる？【派生図・最悪の事態】 （輸入が続かなくなる。食べ物がなくなる。病気になる。争いがおこる。死に至る。など、最悪の事態につながる。）</p>		<p>（好きな季節・好きなお酒・日本の教育の未来は） （自分を表す特徴・環境に対してやっていること）</p> <p>・ホワイトボード</p> <p>A3用紙・マーカー</p> <p>JICA 教材「世界の食料」 「国際理解教育実践資料集」 ユニセフ映像資料</p> <p>A3用紙・マーカー</p>	
	2	<p>・食品ロスに配慮した持続可能な未来をデザインしよう！【イメージ図】</p> <p>・持続可能なためのポイントを共有しよう！ （物質循環・生物多様性・有限性・低炭素の4つのポイントがある。） （具体的にどのようなことができるのがデザインをすることで、イメージを持つ。）</p> <p>・行動宣言しよう！【行動計画】 （すぐ・ちょっとがんばる・がんばるの3つに分けたわたし・あなた・みんなにできることを具体的に考えることで、実際の行動に移す。）</p>		<p>A3用紙・マーカー</p> <p>A4用紙</p>	
成果	<p>「忘年会・新年会で食べ残しをしないように声をかけた」「レストランで残さないように、大盛りやセットは注文しないようにした」「みんなで残り物を持ち寄って食べようと思っている」など、実際に行動に移している声を聞くことができた。グローバルな課題でも、一人一人の意識を変えることで、身近なことからできることがあるという認識を持たせることができた。「参加型の手法を授業の中で使ってみたい」という学生もいた。</p>				
課題	<p>食品ロスが良くないという認識を持たせることはできたが、よりグローバルな見方ができるようにさせるためには、日本の食品ロスがどのように世界の課題とつながっているのかがよりよく分かる資料を探し、その提示の仕方を工夫する必要があった。</p>				
備考	<p>現任教（名古屋市立植田東小学校）にて、1月から2月までの1か月間、5年生を対象に食品ロスをテーマに総合的な学習の時間にグローバル教育を実践する。来年度も5年生を対象に4月から12月までの総合的な学習の時間や他教科の時間を使い、食品ロスをテーマにグローバル教育を実践する予定である。</p>				

VII 開発教育指導者研修(実践編) 第4回

■ 開催概要

- ◆ 日 時：2020年2月15日(土) 10:00～18:00
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：受講者 38名、JICA 5名、NIED 7名、オブザーブ 1名 合計 51名
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第4回のねらい

★ ここからはじまる持続可能な未来！ひろがりつながる開発教育の可能性！

- ① 第1回～第3回の研修を振り返り、各自が学んだことや変化したことを意識化し共有する。
- ② 仲間の実践の成果と課題から学びあい、開発教育の意義と可能性を確認共有する。
- ③ 開発教育を通して学んだことを一般に向けて発表し、学びの好循環を作る「はじめの一步」を踏み出す準備を行う。

■ プログラムの内容

● セッション1「研修のふりかえり」 2/15 10:00～11:09

1. 主催者挨拶 10:00 - [06]

◇ JICA 中部 江口職員が開会を宣言した。

2. 本研修全体および第4回のねらいの確認 10:06 - [08]

◇ レジューメを基に本研修全体の目的と第4回のねらいをファシリテーターが説明した。

◇ 翌日に行う「実践報告フォーラム2020」の概要と、現在の申し込み状況を共有した。

◇ ファシリテーターコメント…国際理解教育は、社会が望む人を作るのではなく、望む社会を作る人を育てる教育。持続可能な社会をつくるために、インフルエンサー（影響を与えていく人）として、地域や保護者の人たちにも研修での成果を伝えていこう。

3. アイスブレイキング①～自己紹介「2020年のわたし」 10:14 - [08]

◇ 2020年をどう過ごしていきたいかを考え、「2020年のわたし」をテーマに、グループで自己紹介を行った。

4. アイスブレイキング②～なぜ私たちは開発教育を参加型で取り組むのか？「脱学習とよりよいモデルの習熟」 10:22 - [13]

◇ 向い合う人同士でペアになり、次の3種類のジャンケンをした。

- ① 普通のジャンケン …先に3回勝ったほうが勝ち。
- ② あいこジャンケン …3回あいこになるまで続ける。あいこになるように相談したり合図を送ったりはしない。
- ③ 親方勝ちジャンケン …ペアのどちらかが「親方」になり、弟子側は親方を勝たせるように後出しで負けを出す。弟子は、何を出すか考える時間を取らずに、親方に続けてリズムカルに出す。30秒間続ける。

◇ 感想を話し合った。

② あいこジャンケン

・ 忸度しないようにと言われても、お互い気を使っていた。



③ 親方勝ちジャンケン

- ・相手のことを考えながら出すのが難しく、頭の体操になった。いつものジャンケンは頭を使わない。
- ・負けることができない。うまくいなくて悔しかった。

◇ ファシリテーターから、アクティビティの解説をした。

＜脱学習とよりよいモデルの習熟＞

- ・参加型は繰り返し参加しながら身につけていくものであることを体験するためのアクティビティ。
- ・後出しで負ける親方勝ちジャンケンが難しく感じた、またはうまくできなかったのはなぜか？
 - 勝つのが当たり前前のジャンケンをいつもしてきたから。
 - 身につけていることは簡単に行動できる。慣れていない、したことがないことはできない、難しい。
 - 親方勝ちジャンケンも、30分間続けなければならないようになる。
 - 繰り返し練習すればできるようになる！
- ・3種類のジャンケンを、私たちの社会で身につけている行動に置き換えて考えてみよう。
 - 普段のジャンケン…課題を生み出す原因を身につけてしまった行動
 - 親方勝ちジャンケン…脱学習とよりよいモデルの習熟

◇ ファシリテーターコメント…身につけた「当たり前の行動」が問題を作り出しているなら、今までの考え方のままでは課題を解決できない。マインドセットを変えるには、脱学習とよりよいモデルの習熟が大切。繰り返し練習し、意識して行っていけば身につけていける。良いモデルがあれば、続く人が現れ、好循環を生み出せる。価値観が変わり、行動が変われば社会を変えていける。国際理解教育は、この変化を信じている教育である。

5. 第1回～第3回研修のふりかえり 10:35 - [34]

- ◇ 第1回～第2回研修について、ファシリテーターから内容の振り返りを行った。
- ◇ 第3回の記録を配付、個人で読み、内容を確認した。
- ◇ 第1回～第3回を次の視点で振り返り、グループ内で共有した。
 - ① 研修に参加しようと思った理由
 - ② 研修を通して学んだこと
 - ③ 研修を通して起きた自分の中の変化
 - ④ 最終回にあたり言葉にしておきたいこと
- ◇ ファシリテーターコメント…言葉にできることは持ち帰ることができる。言語化し、他の人に伝えるとより意識化が進む。



● セッション2 「実践の共有①」 2/15 11:09-12:20

1. 実践報告フォーラムの流れ 11:09 - [06]

- ◇ 「実践報告フォーラム2020」の全体の流れをファシリテーターが説明した。

＜実践報告の時間配分＞

発表者の持ち時間 14分/1人×3回（9分以内でプレゼンテーション、残りの時間～14分までで質疑応答）

2. グループ替え 11:15 - [12]

- ◇ 実践対象者の年齢が近い者同士で4人×10グループになるよう、指定のテーブルに移動し、グループ替えを行った。
- ◇ 実践報告資料集を配付、グループメンバーの実践を個人で読み、実践の概要を確認した。

3. 実践の報告 11:27 - [53]

- ◇ 翌日の実践報告フォーラム2020の準備も兼ね、本番と同様の流れで、グループ内で順に報告を行った。質疑応答では、実践して分かったことや、よりよくするための提案も話し合った。

－ 休憩 － 12:20 - [60]

● セッション3 「実践の共有②」 2/15 13:20-14:30

1. 実践の報告 13:20 - [70]



- ◇ 実践を聞いてみたい受講者のいる机へ移動し、3～4人のグループを作り、グループ替えを行った。
- ◇ グループメンバーの実践を個人で読み、実践の概要を確認した。
- ◇ セッション3と同様に、発表と質疑応答を行った。

－ 休憩 － 14:30 - [10]

● セッション4「実践の成果とネクストステップの共有」 2/15 14:40-16:15

1. グループ替え、自己紹介 14:40 - [18]

- ◇ ファシリテーターが1～8の番号を振り、指定のテーブルに移動してグループ替えを行った。「大人になってしてみたい習い事とその理由」をテーマにグループで自己紹介を行った。
- ◇ ファシリテーターコメント…自己紹介は、新たな視点で仲間を知ることができるだけでなく、自分を知ってもらうこともできる。人となりがわかるようなテーマにすると、お互いの理解が深まるきっかけとなる。

2. 開発教育・国際理解教育の可能性～実践を通じた成果・よい影響 (自分/学習者/周囲) 14:58 - [21]

- ◇ 研修参加と実践を通して、①自分自身、②学習者・参加者、③周囲（同僚・保護者・地域など）の3つの視点で開発教育・国際理解教育の可能性として得られた成果・よい影響を振り返り、グループで模造紙にまとめた。
- ◇ 模造紙の回し読みにより共有し、個人で特に良いと思うアイデアに☆印を付けた。



【 開発教育・国際理解教育の実践で得られた成果・よい影響（自分/学習者/周囲）成果例 】

① 自分にとって

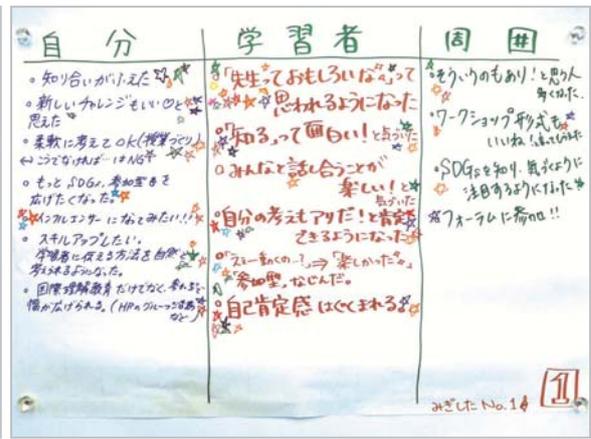
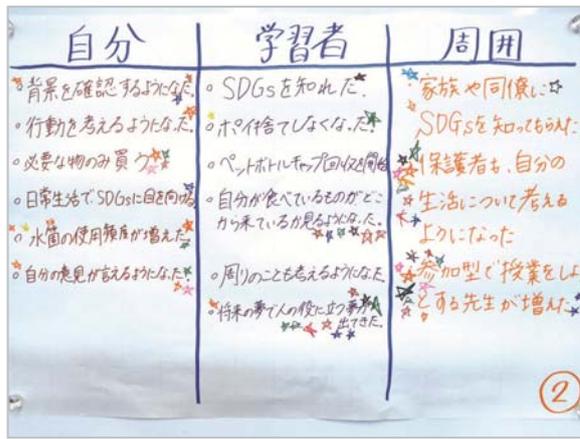
- ◇ 学習者・学習者の反応を意識するようになった
- ◇ 実践…手応えを感じた/学習者に伝える方法を自然と考えられるようになった/授業作りを柔軟に考えて OK⇔「こうでなければ」はNG/授業作りの幅が広がった
- ◇ 知識・視野の広がり…世界に目を向けるようになった/背景を確認するようになった/世界が近くなった
- ◇ 自分自身の変化…スキルアップ/自分の意見が言えるようになった/授業など考えるのが楽しくなった/何でもできると思える/もっと参加型を広げたいと思った
- ◇ 出会い・つながり…対話が増えた/仲間が増えた/他の人からの刺激→色々な方法がある！

② 学習者・参加者にとって

- ◇ 気づき…知ることが面白い！と気づいた/みんなと話し合うことが楽しい！と気づいた/日常の気づきが増えた
- ◇ 意識・行動の変化…情報を集めるようになった/物を大切にするようになった/残菜が減った/水・電気の使い方が変わった/自分が食べている物がどこからきているか見るようになった/買うものを意識し始めた/周りのことも考えるようになった
- ◇ 知識・視野の広がり…世界が近くなった/「先生っておもしろいな」と思われるようになった/進路選択が広がる
- ◇ 主体性…発話が増えた/主体的になった
- ◇ 自尊心・人間関係…自分の考えを肯定できるようになった/自己肯定感が育まれた/生徒同士の会話・コミュニケーションが増えた/笑顔が増えた
- ◇ 授業・実践…「えー動くの？」→「楽しかった☆彡」参加型が馴染んだ/参加型→仲良くなった/参加することを楽しむようになった/様々な教科の学習が繋がった

③ 周囲（同僚・保護者・地域など）にとって

- ◇ 理解…家族や同僚にSDGsを知ってもらえた/情報をくれた/そういうのもあり！と思う人が多くなった
- ◇ 興味・関心…国際理解に興味/おもしろい！と思った/関心をもった
- ◇ 意識・行動の変化…知ってくれる/気づいてくれる/保護者も自分の生活について考えるようになった
- ◇ 広がり…地域・保護者にも知らせることができた/話題にできた/参加型で授業をしようとする先生が増えた/研究方針の変化
- ◇ つながり・人間関係…授業内容・生徒情報の共有ができた/チームができた



◇ ファシリテーターコメント…肯定的な風土があれば、違いを受け入れ合う建設的で丁寧なコミュニケーションが生まれ、問題を対話で解決していくことができる、それぞれの学校現場が肯定的な風土となるようなファシリテーターになろう。

3. 教育＝人と社会の健やかさの鍵！持続可能なよりよい未来をつくる人を育む教育者の心得 15:19 - [45]

◇ 資料『愛知、三重、岐阜、静岡県教育委員会の教育ビジョン』『教育が変われば社会が変わる！？ 北欧の教育』『教育が変われば社会が変わる！？ イエナプランから学ぶ』配付。1人1枚を分担して読み、①資料からわかったこと、②印象に残ったこと、③未来のための教育につながるポイントだと思うこと の視点で読み、グループ内で発表し、資料の内容を共有した。



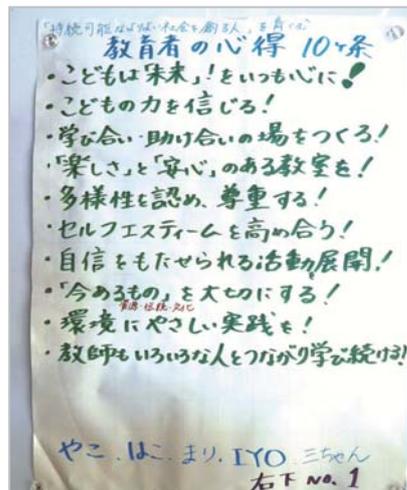
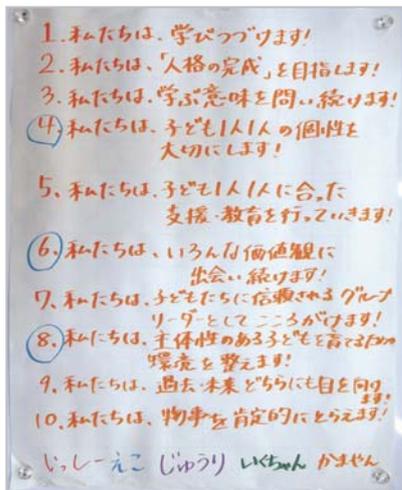
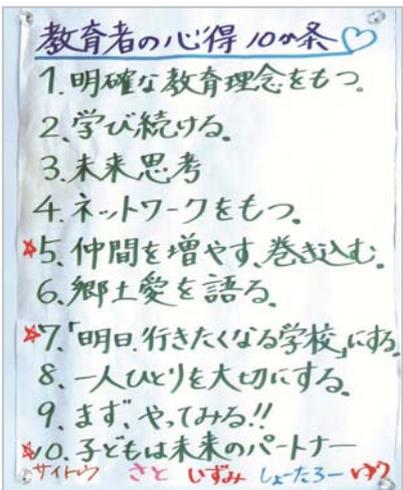
◇ よりよい未来をつくる人を育む教育者として大切な心得をグループで考え、8～10か条にまとめ、全体へ発表した。

【「よりよい未来をつくる人を育む教育者として大切な心得」成果】

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| 1. 明確な教育理念を持つ | 1. こどもは「未来」！をいつも心に！ |
| 2. 学び続ける | 2. こどもの力を信じる！ |
| 3. 未来思考 | 3. 学び合い・助け合いの場をつくる！ |
| 4. ネットワークを持つ | 4. 「楽しさ」と「安心」のある教室を！ |
| 5. 仲間を増やす、巻き込む | 5. 多様性を認め、尊重する！ |
| 6. 郷土愛を語る | 6. セルフエスティームを高め合う！ |
| 7. 「明日、行きたくなる学校」にする | 7. 自身を持たせられる活動を展開！ |
| 8. 一人ひとりを大切にする | 8. 「今あるもの（資源・伝統・文化）」を大切にする！ |
| 9. まず、やってみる！！ | 9. 環境にやさしい実践を！ |
| 10. 子どもは未来のパートナー | 10. 教師もいろいろな人とつながり学び続ける！ |
-
- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------|
| 1. 生涯学び続けるシステム作り | 1. 学び続けます！ |
| 2. 子どもを信じる | 2. 「人格の完成」を目指します！ |
| 3. 子ども達の実践の場作り | 3. 学ぶ意味を問い続けます！ |
| 4. 語学のできる子どもの育成 | 4. 子ども一人ひとりの個性を大切にします！ |
| 5. 「先生だから偉い」という考えを捨てる | 5. 子ども一人ひとりに会った支援教育を行っていきます！ |
| 6. 人とのつながりを大切にする | 6. いろんな価値観に出会い続けます！ |
| 7. 型にはめすぎない | 7. 子どもたちに信頼されるグループリーダーとして心掛けます！ |
| 8. 自分（の国）のいい所を見つけられる子にする | 8. 主体性のある子どもを育てるための環境を整えます！ |
| 9. 温故知新 | 9. 過去・未来どちらにも目を向けます！ |
| 10. SDGs（失敗しても・大丈夫!!・がんばれ!・スチューデント!!） | 10. 物事を肯定的にとらえます！ |

1. 子どもは大切な存在	1. どんな子どもの自分らしさも大切にする
2. 多様性を認める	2. 子どもの力を信じる
3. 子どもの満足度	3. 毎日安心して通える環境をつくる
4. グローバル人材（国際的な感覚の育成）	4. 人の意見をよく聞く子どもを育てる
5. 自己の可能性を高めることができる環境	5. 批判をしない
6. 学び方の選択	6. 子どもが主体的に学べるように参加型の授業を計画する
7. 道徳的な価値観	7. 学び続ける
8. おもしろく楽しい学習環境の提供	8. 子どもにふりかえりの場を与える

1. 個人の成長に焦点を当てる	1. 学び続ける姿勢をもつ
2. 学び続ける人を育てる	2. 学ぶことの楽しさを伝える
3. 学び続ける	3. 失敗OK！
4. つながりを意識して大切に	4. 一人ひとりを大切に
5. 未来を見据える	5. 一人ひとりのよさを見つける
6. いろんな人と関わる機会を与える	6. 人と人とのつながりを大切に
7. 視野を広げる／広げられるように	7. 笑顔で子ども達を受け入れる
8. 主体性を高める（気づきを大切に）	8. 毎時間、1人1回の発言を確保！
9. 個性・多様性を大切に	9. 参加型を信じる！
10. 楽しむ、楽しませる	



◇ ファシリテーターコメント…ひとりひとりが持っている良さ、可能性を最大限に引き出すのが教育。関心と課題を共有すると協力が生まれる。おもしろい! と思ったら人は参加してくる。

- 休憩 - 16:04 - [11]

● セッション5 「実践報告フォーラム2020の準備①」 2/15 16:15-17:13

1. 実践報告フォーラム2020の進め方と各自の動きの説明 16:15 - [20]

◇ 配付資料「実践報告フォーラム2020のプログラム」と昨年度の写真およびパワーポイントを基に、当日のプログラム、受講者の動き、ポスターセッションの場所と方法、申込者の状況について事務局が説明した。

2. 実践報告フォーラム2020についての確認事項 16:35 - [21]

◇ 実践体験ワークショップ担当メンバーから、プログラムの概要説明を行った。ワークショップを担当しない受講者から、実施に向けてエールを送った。

3. 参加者に持ち帰ってほしいこと、期待すること、自分が貢献できること 16:56 - [15]

◇ 実践報告フォーラム2020を通して、「参加者に持ち帰ってほしいこと」「自分が明日に期待すること」「自分が明日貢献できること」をA4用紙に書き出し、グループ内で発表し共有した。

◇ 実践報告フォーラム 2020 の最後に挨拶をする受講者代表者を、受講者同士の推薦により決めた。

4. 実践報告フォーラム 2020 についての最終確認 17:11 - [02]

◇ 実践報告フォーラム 2020 に向け、最終の質疑応答を行った。

● セッション6 「フォーラムのための準備②」 2/15 17:13-18:00

1. 有志ワークショップ／教師海外研修報告／個人の実践報告の準備及び相談 17:13 - [42]

◇ 実践体験ワークショップ担当者および教師海外研修発表者は別の会場に移動し、それぞれ打ち合わせを行った。

◇ 実践報告の準備と会場設営を行った。



2. 事務連絡 17:55 - [05]

◇ 実践報告フォーラム 2020 に向け、事務連絡を行った。

★ 18:00 終了

－ 研修で使用した教材の出典等一覧 －

- ・「愛知、三重、岐阜、静岡県教育委員会の教育ビジョン」
愛知県・愛知県教育委員会 『あいちの教育ビジョン 2020 第三次愛知県教育振興基本計画』 2016年3月
三重県・三重県教育委員会 『三重県教育ビジョン～子どもたちの希望と未来のために～』 2016年3月
岐阜県・岐阜県教育委員会 『岐阜県教育振興基本計画 第3次岐阜県教育ビジョン概要版』 2019年3月
静岡県・静岡県教育委員会 『静岡県教育振興基本計画 2018年度～2021年度』 2018年3月
- ・「教育が変われば社会が変わる！？ 北欧の教育」
BLOGOS 『学力世界一？北欧の教育から日本は何を学ぶか』 <https://blogos.com/article/386700/>
世界雑学ノート 『フィンランドの教育の特徴から学べることー学校が変われば学力も社会も変わる』
<https://world-note.com/finnish-education-characteristics/>
- ・「教育が変われば社会が変わる！？ イエナプランから学ぶ」
イエナプラン教育協会ウェブサイト <https://www.japanjenaplan.org/>
フリー百科事典ウィキペディアサイト 『イエナプラン教育』

VIII 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム 2020

■ 開催概要

第1部「実践報告フォーラム」

- ◆ 日 時：2020年2月16日(日) 10:00～15:50
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA・B
- ◆ 参加者数：一般参加者130名、受講者39名、JICA2名、NIED7名、合計178名
(一般参加者内訳：教員90名、学生6名、JICA・NPO関係者18名、その他16名)
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏、研修受講者

第2部「ネットワーク会合 つながりワークショップ」

- ◆ 日 時：2020年2月16日(日) 16:05～17:40
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：過年度受講者27名、受講者38名、JICA6名、NIED7名、合計78名
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム2020のねらい

第1部「実践報告フォーラム」

- ①【受講者】実践報告、モデルプログラムのファシリテートと参加者との意見交換を通して、実践の自己確認、総括を行い、ネクストステップへの意欲を高める。
- ②【参加者】実践者の成果と課題を共有し、自らの実践のヒントとネットワークを得てもらう。
- ③【主催者】開発教育・国際理解教育を推進し、研修事業の次の参加者を広げる。

第2部「ネットワーク会合 つながりワークショップ」

- ① JICA 中部が過去17年に亘り“開発教育支援事業”の一貫として提供してきた「開発教育指導者研修(上級編・実践編)」の受講者有志が集まり、持続可能な未来の鍵となる開発教育・国際理解教育の中核的指導者として、自らの実践を続け深めつつ、つながりを築いていくための手立てを共に考える。

■ プログラムの内容

● 第1部「実践報告フォーラム」 10:00～15:20

1. あいさつ・概要説明 10:00 - [15]

- ◇ 主催者(JICA 中部 長所長)が主催者挨拶を行った。
- ◇ 開発教育指導者研修(実践編)および教師海外研修プログラムの概要をパワーポイントでJICA 中部 江口職員が説明した。
- ◇ 実践報告フォーラム2020のねらいとプログラムについてファシリテーターが説明した。



2. 教師海外研修報告 10:15 - [20]

- ◇ 同行ファシリテーター挨拶の後、次の流れで、現地の写真と音楽、動画と共に研修報告を行った。
- ① パラグアイクイズ



- ② 各訪問先の紹介、現地教材の紹介、印象に残っていること
- ③ 本研修の目的と現地研修で得た学び、気づき、自分自身の変化

3. 実践事例ポスターセッション (実践報告) 10:35 - [100]

◇ 奇数番号を前半、偶数番号を後半に分け、実践報告シートや参考教材等を使いポスターセッションを行った。14分間を一つの区切りとし、1人3セッションの報告と質疑応答を行った。



4. 午後の部の説明 12:15 - [5]

◇ ポスターセッション終了後、「午後のプログラム」「実践体験ワークショップのテーマと会場」「昼食」について説明した。

- 休憩 - 12:20 - [60]

5. 実践体験ワークショップ 13:20 - [120]

◇ 4つの会場に分かれ、以下の4チームがワークショップを実演した。詳細は次ページ以降参照。

- 分科会1：A1会場…「東京2020×SDGs」（持続可能なイベント）
- 分科会2：A2会場…「カメさんはコンビニが嫌いらしい」（環境・生態系）
- 分科会3：B1会場…「ウェルカム・トゥ・ジャパン ～日本で働きませんか？～」(人権・多文化共生)
- 分科会4：B2会場…「みんなの食をもっと幸せに！」(食料問題)



- 移動 - 15:20 - [10]

6. ふりかえり・閉会 15:30 - [20]

- ◇ 実践報告フォーラム2020のふりかえりを各自シートに記入した。
- ◇ 一般参加者、受講者それぞれ3~4名から、本日の感想を全体へ発表した。
- ◇ 受講者を代表して村上偉代さんが、閉会のあいさつを行った。



★ 15:50 終了

● 第2部「ネットワーク会合 つながりワークショップ」 16:05-17:40

1. ねらいの確認 16:05 - [10]

◇ レジュメを基に第2部のねらいと進め方をファシリテーターが説明した。

2. 自己紹介「開発教育との関わり／実践継続にあるといいもの」 16:15 - [10]

◇ 5~6人のグループを作り、「開発教育との関わり／実践継続にあるといいもの」をテーマに、グループ内で自己紹介を行った。

3. 開発教育実践を継続するために、みんなこんなことをやってみないかい？！ 16:25 - [57]

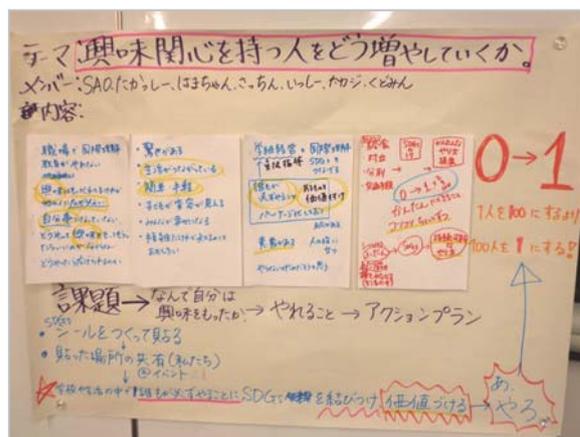
◇ 次の流れで、開発教育実践を継続するためのアイデアと具体的なアクションプランを考えた。

- ① 中核的指導者として、これからも開発教育の実践を続け、仲間とのつながりを築くために話し合いたいことをグループで模造紙に書き出し、一つのテーマにまとめる。
- ② グループごとにテーマを発表し、ファシリテーターがホワイトボードに書き出して全体で共有する。
- ③ 参加したいと思うテーマを個人で選ぶ。
- ④ 選んだテーマごとにチームを作る。同じ方向性のテーマはまとめるなど、受講者・参加者同士で話し合い、全体の整理調整をする。
- ⑤ テーマをチームメンバーで確認し、目的と内容について具体的なアクションプランを考え、模造紙に書き出す。



【「開発教育実践を継続するためのプロジェクトテーマと話し合い」の成果】

- ・教材の共有の仕方、動画（授業実践）の共有
- ・開発教育をあたりまえにできる社会をどうつくるか
- ・教科でどう横断していくか
- ・巻き込み力
- ・つながりシステムをどうつくるか
- ・興味ある人をどう増やしていくか
- ・小中高経験の共有をどうするか
- ・職場の意識改革をどうするか
- ・続ける自分の意欲の保ち方
- ・無理なく実践する方法



4. プロジェクト毎のアクションプランと次回の約束の共有 17:22 - [13]

- ◇ チーム毎に話し合った内容を全体へ発表した。
- ◇ プロジェクトを実現するための第 1 回のミーティング日と場所をチーム毎に決めた。



5. あいさつ・事務連絡 17:35 - [05]

- ◇ 主催者（JICA 中部 長所長）が閉会挨拶を行った。
- ◇ 事務局より、事務連絡を行った。

★ 17:40 終了

■ 実践教材体験ワークショップの内容

●分科会 1 の記録 (A1会場)

テーマ	持続可能なイベント	タイトル	東京 2020×SDGs
ねらい	① 東京 2020 大会と SDGs との関わりに気づく。 ② 持続可能な社会について考え、自分たちができることを見つける。		
参加者	合計 37 人(内訳:参加者 28 人、提供者 8 人、スタッフ 1 人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:20	1 オリンピックなりきり自己紹介<フォトランゲージ> ・写真で配られたオリンピック選手になりきって自己紹介をする。(a) ・選手の資料を読み、グループメンバーに話す。(b)	(a)余った時間で雑談をしながらにこやかな笑顔。温かい雰囲気が始まった。 (b)さっきより真剣な表情。うなずきながら説明を聞いていた。	
13:40	2 オリンピック・クイズ ・オリンピックに関する 3 択クイズに答える。 ・オリンピックが大事にしている精神について学ぶ。	クイズ:日本で初めて開催された年は/開会式・閉会式で最初に入場する国は/オリンピック・ムーブメントの三本柱「スポーツ」「文化」とあと1つは、など	
13:47	3 オリンピックの良いところ、問題だと思ふところ ・オリンピックの「良いところ」「問題点」を対比させて書き出し、全体で共有する。(a)	(a)短い時間だが、みんな手際よく書き出していった。	
13:55	4 東京 2020 大会と SDGs ・SDGs についての動画を見る。 ・東京大会の 5 つのコンセプトと SDGs 17 のゴールを見比べ、関連があると思うものを線で結ぶ。(a) ・解答例を見て感想を共有する。(b)	(a)「あ、これまだ」「線がありすぎて」ごちゃごちゃになってきた」といった声があがった。 (b)感想「いろいろなことにつながっている」	
14:25	5 SDGs を掲げずにオリンピックを開催したら? ・グループを替え、「楽しみなオリンピック競技は？」をテーマに自己紹介を行う。 ・「SDGs を掲げてオリンピックを開催したら」「SDGs を掲げずにオリンピックを開催したら」というテーマで派生的に意見を書き出し、全体で共有する。<派生図>(a)	(a)相談したりうなずいたりしながら書き出した。	
14:45	6 SDGs × 企業の取り組みを知ろう ・配付資料を読み、感想をグループで話し合う。	資料:7つの企業の SDGs 取り組み	
14:55	7 SDGs × 地域のイベントを考えよう ・グループごとに設定された地域のイベントを SDGs の視点を入れて考える。 ・全体へ発表する。(a)	地域のイベント設定:お祭り/クリスマス/お正月/花火大会/スポーツ大会/お花見/キャンプ/歓迎会/ライブ/スポーツ観戦 (a)アイデア例:山車はだれでも担げる軽さ(お祭り)/屋台を、環境を大切に作る企業のみ(花火大会)/子どもも含め様々な人が企画運営に参画(スポーツ大会)/発電は自転車でキャンプ/町工場に物販の依頼ライブ	
15:15	8 自分でできること ・個人でカードに書き、グループ内で発表する。(a)	(a)他者の意見に共感しながら共有していた。	

●分科会 2 の記録 (A2 会場)

テーマ	環境・生態系	タイトル	カメさんはコンビニが嫌いらしい
ねらい	① プラスチックの行く末を知り、わたしたちがしているコトに気づく。 ② 今ある地球環境を守るため、今からできることを行動に移す。		
参加者	合計 26 人(内訳:参加者 17 人、提供者 8 人、スタッフ1人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:23	1 アイスブレイク「私はだれ!？」 ・背中に貼られたカードに書かれたコンビニの商品名を、参加者同士で質問し合い、当てる。(a) ・背中のカードを見て答え合わせをする。	(a)和やかな雰囲気の中、積極的に質問をし合っている。当たった時はとてもうれしそう。	
13:35	2 共通するのは〇〇〇〇<フォトランゲージ> ・ペアを作り、一部が切り取られた写真を見て、残りの部分を想像して描く。(a) ・他のペアが描いた絵を見る。 ・全体の写真を見る。 ・プラスチックゴミについてのクイズを解き、答えと解説を確認する。(b)	写真(プラスチック問題が関係している写真):ダイバーがカメを助ける写真/カメがビニール袋を食べようとしている/カメの体の半分がビニール網に引っかかっている/ごみのある景色/プラスチックで遊ぶシロクマ/ペットボトルをくわえている犬 クイズ:プラスチックの人への影響/プラスチックって何? /プラスチックはどのように流れていくのか/プラスチックのごみの量って知ってる? (b)「えー!」「多すぎる!」などの反応があった。	
13:57	3 なぜ使う! ?プラスチック!! ・身の回りのプラスチック製品を書き出す。<ブレンストーミング>(a) ・プラスチックのメリット・デメリットを対比させて書き出す。(b) ・ファシリテーター:「プラスチックは生活に欠かせないが、このままではいけない」 ・資料「国内外のプラスチックに対する取組み」を読む。(c) ・ファシリテーター:「続かない社会を続く社会にしていけないといけいない」	(a)「文房具、ペットボトル、眼鏡、100 均で買えるもの」など、制限時間が来ても意見が出された。 (b)感想「メリットとデメリットと表裏一体だ」 資料例:<国内>神奈川県鎌倉市「かまくらプラごみゼロ宣言」<国外>イギリス「ペットボトル廃棄削減のための無料給水機」 (c)感想「自治体でこんな取り組みができるといい」	
14:32	4 カメさんが好きな持続可能な島をプロデュース ・海にゴミが流れ出ない、カメさんが好きな持続可能な島をグループごとに考えて模造紙に書く。(a) ・全体で共有、良いと思うところを付箋に書いて貼る。同じ意見の場合は付箋に☆を描く。(b)	(a)アイデア例:バイオマス発電所/畑/はかり売りの店/環境教育研究所/炭素税/エコツアー/ゴミ収集口ポ (b) コメント「こういうところに住みたい」「伝統保全 good!」など	
15:07	5 行動宣言 ・自分たちが「個人(家族)」として「(所属しているところの)立場として」できることを考え、グループ内で共有する。(a) ・ファシリテーター:「一人一人が小さな一歩を踏み出せば、地球も環境も変わっていく。」	(a)行動宣言: <個人>ゴミを出さない/余分なものを買わない/材質をチェックしてから買うものを選ぶ/マイバックを使う <立場>水飲み場を作ってほしいと市や県に要請/関心をもたせる/率先して職場でゴミの分別/世界の現状を知り、伝える	

●分科会 3 の記録 (B1 会場)

テーマ	人権・多文化共生	タイトル	ウェルカム・トゥ・ジャパン ～日本で働きませんか？～
ねらい	① 外国人労働者を取り巻く日本の現状を知る。 ② 外国人労働者問題について考え、共に未来を創る気持ちを高める。		
参加者	合計 45 人(内訳:参加者 37 人、提供者 7 人、スタッフ 1 人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:20	1. アイスブレイキング ・「自分がやってみたい仕事」をテーマに自己紹介をする。(a)	(a)にぎやかに自己紹介をした。	
13:25	2. 外国人労働者に関するクイズ ・ファシリテーターから言葉「技能実習生」の説明をする。 ・外国人労働者に関するクイズを配付。解答の後、背景解説を読んで確認する。 ・分かったこと、気になったことをグループで話し合う。(a) ・質疑応答、補足情報をファシリテーターから提供	クイズ: 日本の人口/日本で働く外国人労働者の数/外国人労働者が働く職種/外国人労働者の国籍/外国人労働者数が 2 番目に多い県/県民人口に対して技能実習生の率が一番高い県 (a)感想「自分の町のことなのに知らなかった」	
13:38	3. ファシリテーターによるロールプレイ ・ファシリテーターメンバーによる寸劇「外国人のお部屋探し」を提供。外国人労働者の働き方や生活環境について実際の事例を紹介する。 ・感想を話し合う。(a)	(a)感想「外国人だからという理由だけで部屋を借りられない、貸さないのはなぜだろう」「立場を変えると見方も変わる。借りる側の外国人、貸す側の大家さん、住人など」	
13:47	4. 外国人労働者問題についてのストーリー資料 ・資料「4 つの現場で働く外国人のストーリー」を配付。1 人 1 つのストーリーを分担して読む。 ・グループ内で 4 場面の現状とそのからの気づきや課題を共有する。(a)	資料: 農業(インドネシア出身)/製造業(ブラジル出身)/医療(フィリピン出身)/サービス業(ベトナム出身) (a)興味深く資料を読み、日本における外国人労働者の現状と問題点を話し合った。	
14:02	5. 職場デザインをする ・設定された職場をグループで 1 つずつ選び、「外国人の人権問題を解決し、望む社会を作る職場」とはどのような職場かを考える。 ・これまでのアクティビティと資料を振り返り、「理想の職場」をテーマに職場のデザイン案を出し合い、絵で表したりポイントをリスト化したりしながら具体的に描く。(a)	職場設定: 自動車会社/建設会社/病院/老人ケア施設/稲作農家/キャベツ農家/清掃会社/飲食店 (a)活発に意見を出し合い、模造紙に職場のデザイン図を描いていった。	
14:50	6. プレゼンテーション～ウチで働きませんか？～ ・日本に住む外国人のための企業説明会で求人募集のプレゼンテーションをすると仮定し、1 グループずつ順に特徴やアピールポイントなどを全体へ発表する。(a)	(a)デザイン例: 建設会社「おにぎり建設」 理念…利益より人生の豊かさをにぎります。 ポイント…環境・ユニバーサル・多様性＝安全・安心 職場環境…ホッとできる！いろいろな味わい！楽しみも盛りだくさん！	
14:50	7. 好事例の紹介 ・実際にある企業の取り組み事例を資料で紹介する。(a)	(a)グループでワークショップを通じた感想も話し合った。	

●分科会 4 の記録 (B2 会場)

テーマ	食料問題	タイトル	みんなの食をもっと幸せに！
ねらい	① 幸せな食について考え、世界が抱える食をめぐる問題について知り、自分事として捉える。 ② みんなの食をもっと幸せにするために、できることを考える。		
参加者	合計 26 人(内訳:参加者 19 人、提供者 6 人、スタッフ 1 人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:24	1 あなたにとって、幸せな食とは？ ・食をテーマに〇〇といったら△△をお題に自己紹介をする (a) ・わたしにとって幸せな食を絵で描き、「これだけでは外せない」と思うところに印をつけ、グループで紹介し、全体でも紹介し合う (b)	(a)和やかな雰囲気自己紹介をした。 (b)「自然の中で食べる」「人と一緒に食べる」など、人を挙げる人と、場面を挙げる人がいた。	
13:42	2 食にまつわる問題パズル ・食にまつわる問題について、「課題」「意味」「現状」の3種のカードを組み合わせるパズルを通して現状を知る。	問題:食品ロス/食料自給率/孤食/食の安/全 バーチャルウォーター/フードマイレージ カード:裏面にSDGsのマークがプリントされている。3種類を組み合わせて裏返し、マークができてれば正解。	
14:05	3 食にまつわるフォトランゲージ ・グループ替えをし、おせち料理の中で好きなものをお題に自己紹介をする。 ・食にまつわる写真を配付、感じたことを共有する。(a)	写真:「恵方巻き大量廃棄」「バイキングの残飯」「コンビニの食品廃棄」 (a)感想:「恵方巻きの大量廃棄の写真を見て、需要と供給が大切だと感じた」「ただの廃棄の問題ではなく、資源の無駄づかいにもつながっていく」「儲けを重視すぎているため、廃棄がでているのではないか」「小さな食べ残しが積もり重なって大きなロスになる」	
14:27	4 食品ロスの原因は？ ・ファシリテーターより、「食品ロス(本来食べられるのに捨てられてしまう食品)の説明をする。 ・食品ロスの原因を掘り下げて考え、模造紙に書き出す。〈因果関係図〉(a) ・全体で共有し、共感した意見と自分たちのグループで気づかなかった意見に印をつける。 ・戻ってきた模造紙をみてグループで感想を共有する。(b)	(a)活発に意見交換しながら、多くの意見を書き出した。 (b)感想:「多様な意見に触れ、視点が広がった」「たくさんのマークがつけられ、盛り上がった」	
14:55	5 みんなの食を幸せにするために ・みんなの食を幸せにするために何ができるかを「わたし」「みんな」「社会」でできることを個人で書き出す。 ・他の参加者が書いたアイデアを共有する。(a)	(a)できることアイデア: <わたし>食育を取り入れた授業をする/旬のものを食べる/買いすぎない <みんな>食べ残しのないようにみんなで協力して食べる/みんなで食について話し合う <社会>地産地消を支援する/食育を推進する/廃棄税を導入する/飲み会は家で開催する/生産者から販売まで携わる人たちと顔の見える関係をつくる	

●ふりかえりシートの回答

※「ふりかえりシート」を一部集約して掲載した。()内は記入者の属性

「発見したこと、嬉しかったこと」初参加者

- 私が働いている地域に国際理解に関心を持つ教員の人がいると知ることができた。(教員)
- 知らないことに目を向け、「子どもに伝える」という熱い思いを持っている人がたくさんいると知った。(教員)
- こんなに多くの人が教育現場で国際理解教育を実践しているのだと知り、未来への希望を感じた。(教員)
- 世界にはたくさん問題があるが、それを解決するために取り組んでいる人がたくさんいる。(教員)
- 似た課題意識関心を持っている人がいて嬉しかった。(その他)
- 身の回りのことや世界にもっと目を向けていこうと思った。(教員)
- 自分も何かアクションを起こしていきたいと思った。(教員)
- 実践は子ども達の行動力や考える力を養うことにつながる。とても素晴らしいと感じた。(NPO/NGO)
- 特別支援学校でも取り組んでいた。(NPO/NGO)
- たくさんの方が開発教育に関心を持っている。手法も様々。(NPO/NGO)
- 子ども達に違いを受け入れるような考えを持ってもらえればいじめもなくなるし、もっと言えば戦争もなくなると思う。(その他)
- 発表者やファシリテーターが生き生きとしていて、それが何よりも大切なことだと思った！！(その他)
- 新たなつながりができた。(学生)
- 色々な人の考えや意見を聞いて交流できた。(学生)
- たくさん先輩先生に出会えた。(学生)
- 他の地域の人とも話ができた。(行政・教委関係)
- 視野が広がった。教育活動に生かしていきたい。(教員)
- 校種の枠を超えて、様々な実践を知ることができた。(教員)
- 様々な教科、学年で応用できる。(教員)
- 具体的な指導法を知ることができた。(教員)
- 授業の中で国際理解を伝えるアイデアをたくさん得ることができた。(教員)
- 自分では思いつかないたくさん授業実践を知ることができた。(学生)
- 様々なアクティブラーニングを用いて、楽しみながら学ぶ工夫がされていた。(NPO/NGO)
- ワークショップの組み立て方の参考。(その他)
- ポスターセッションがとてもよかった。全て実際に役立ちそう。(その他)
- インタラクティブな授業の方法を色々勉強することができた。(その他)
- 先生達の工夫や体験の還元方法を見ることができた。(その他)
- 多文化共生社会をまだ実感することなく生活していたが、身近に感じることができた。(教員)
- 事例を聞くだけでなく、ワークショップを通して参加、体験できてよかった。(その他)

「発見したこと、嬉しかったこと」2回以上参加者

- 研修発表をしてくれた「情熱のある人」を発見できた。(教員)
- 受講者の実践や活動内容がどんどんレベルアップしている。中部地方のパワーがすごい。(教員)
- 大勢の人が明るく楽しく熱意をもって取り組んでいる。(行政・教委関係)
- たくさんの若い職員が参加型学習を取り入れて子ども達に広めている。(NPO/NGO)
- ポスターセッションやワークショップで自作のカード等を教材として作っていた人が多くなっている！！すごい！素晴らしい！(教員)
- 以前一緒に受講していた人と再会。自分もまだまだやれることがあると感じた。(教員)
- リピーターとして「人がつながっているな」と感じた。(教員)
- 新しい輪が広がっている！(その他)
- 色々な立場の人と交流できた。(行政・教委関係)
- 授業に取り入れたいアクティビティや教材に出会えた。(教員)
- 練りに練ったプログラムをたくさん見ることができた。(教員)
- より広い視野で開発教育について考えることができた。(教員)
- 様々な教科や活動で取り組むことができると分かった。(教員)
- 参加型による納得感と見える化を体感した。(教員)
- やはりワークショップは楽しい。解放される。(その他)
- 分科会ワークショップで作ったものを現実にも生かそうと思った。(その他)

「発見したこと、嬉しかったこと」研修受講者

- 自分の活動紹介、実践報告に興味を持ってくれた。(教員)
- 一般参加者の方が「私もこのテーマに興味がある」と話しかけてくれた。(教員)
- 自分の取り組んだ実践を振り返ることができた。(教員)
- 発表したことに対して、様々な視点からのアドバイスをもらった。(教員)
- 国際理解教育に強い思いをもっている仲間がたくさんいると知ることができた。(教員)
- 参加者のエネルギーをとて感じることができた。(教員)
- みんなのモチベーション、探究心がとても高く刺激された。(教員)
- 色々な人の実践を見て新たな教材の手掛かりを得た。(教員)
- 一人ひとりが学んだことを子ども達に伝えると、とても大きな力になると思った。未来は明るい！(教員)
- 参加型には人を笑顔にする力がある！楽しい！(教員)
- 参加型の手法は行動につながっていく。学校に限らずあらゆる場面で活用できると実感した。(教員)
- ワークショップで「参加型を信じる」大切さを感じた。(教員)
- きっかけ・気づきこそ行動の原動力。どんどんやってこ！(教員)
- この研修を通して様々な人とのつながりができる。今回も素敵な出会いがたくさんあった！(教員)
- 仲間を増やして、よりよい社会をつかっていこうと思った。(教員)

「つなげていきたいと思ったこと」初参加者

- 自分の国際理解教育に対する思いを子ども達に伝えていきたい。(教員)
- 一人ひとりの行動は小さくても、みんなで行動すれば大きなものになる。周りの人にも教えたい。(教員)
- 世界を変えるために、一人ひとりの小さな行動が大切だと児童に伝えていきたい。(教員)
- 学びを通し、問題を自分事に捉え行動できる子ども達を育てていきたい。(教員)
- 先生達の工夫や体験の還元方法を子ども達に伝えていきたい。伝える工夫をしていきたい。(その他)
- もっと国際理解教育について学んで、将来教師として子どもに教えたい。(学生)
- 日本のニュースだけでなく世界にも目を向けていきたい。(教員)
- 多様性を認める広い心を持ちたい。(教員)
- 自分自身でできる小さなことをしていきたい。(教員)
- 生活における行動ひとつひとつが“世界レベルで見て”どうなるのかを考えて行動したい(教員)
- 身近な問題を知ること。(NPO/NGO)
- 大人が学び、子どもとともに成長し続けること。(NPO/NGO)
- 何かを変えていくという積極的な姿勢を持つことが大切。(NPO/NGO)
- 肯定的な態度、言葉、思考。(その他)
- 今後もっと国際理解教育に関心のある人達とのつながりをもっていきたい。(教員)
- 地域の人とのつながり、専門家とのつながりを大切にしていきたい。(行政・教委関係)
- 分科会ワークショップのグループワークでは、ファシリテーションの技法が必要と感じた→学んでみたい。(教員)
- 視野を広く情報集め、交流の場へ参加をしていきたい。(教員)
- 自分が興味あることをしていくといいと思った。(教員)
- 実際に聞いた授業案を現場でも実行に移していきたい。(教員)
- 自分の学校で、今日学んだことを授業で実践したい。普段の生活にも生かせる内容で環境教育をする。(教員)
- 分科会ワークショップのプレゼンテーションでの先生や社会人の方のプレゼン力を見習って練習していきたい。(学生)
- 自分自身の研究や授業実践につなげていきたい。(学生)
- 小学校の先生になって国際理解教育を実践する！！(学生)
- 職場に持ち帰り、対象年齢に合った言葉で説明をする、ワークをする。(NPO/NGO)
- 日本語教育の現場で活かしたい。(その他)
- 色々なアイデアが刺激になった。(その他)
- 人に伝えたりするときに、興味を持ってもらえるように伝えたり、アイズブレイクを入れたり、今日体験したことを生かしていきたい。(その他)
- 教材作りにおいて、先生方が本当に必要としているニーズをさぐり、出会った先生方と共に考えていけたらと思った。(その他)

「つなげていきたいと思ったこと」2回以上参加者

- 同僚も巻き込みながら学校全体でできることを考えていきたい。(教員)
- 学校の教育課程にしっかり位置付けをしたい。(教員)
- 持続可能な社会を目指したい。その一助になれば。(教員)
- 自分にできることを今すぐ行動に移し、それを友達や家族、子どもに広めていく。(教員)
- 授業づくりのために悩む！(教員)
- 子ども達に、世界や日本についてより広い視野で考えられるような取り組みを行いたい。そのために経験を重ねていく。(教員)
- 来年度も、どの学年になっても、国際理解教育を進められるようにがんばりたい。(教員)
- 今日学んだアクティビティを即実践したい！やっぱりココへ来ると実践意欲が止まらない。(教員)
- 「実践時間がない」と言わずに開発教育に授業を使う。(教員)
- 特別支援学級で国際理解教育をぜひ実践したい。(教員)
- 「自分事」に生徒ができるよう授業を実践したい。(教員)
- 長期的なプログラムづくり！(教員)
- 生徒の興味関心のあることで国際理解教育を行う。(教員)
- 参加型学習のいろいろな手法を学び、ファシリテーターとして活動していきたい。(NPO/NGO)
- 自身が行っている教育現場で活かしていきたい。外国籍の児童にも日本人の子どもにも。(その他)

「つなげていきたいと思ったこと」研修受講者

- 来てくれた人の笑顔を見て、もっと国際理解教育を広げたい！と思った。まずは近くの人へ伝えてみる。(教員)
- 同じ志を持つ人や地域の人等もつながり、学校内外に国際理解教育を普及させていきたい。(教員)
- 参加型の手法を職場で広める。(教員)
- 今後も仲間を募って教育者の輪を広げていきたい。(教員)
- 自分のペースで国際理解教育を続けていきたい。その魅力を伝えていきたい。楽しんで。(教員)
- まだまだ知らないことがたくさんあり、また知らない人もいる。さらに学習し、情報、考えを伝えたい。(教員)
- 自分から行動し続ける！学び続け、実践し続ける。(教員)
- 参加型で授業を作り続ける。(教員)
- 楽しい、もっと知りたいと子どもが思える授業づくりをする。(教員)
- 自分自身が学び、子ども達と共に考えていきたい。(教員)
- 未来のために、自分の行動を振り返り、改善していく。(教員)
- もっと自分が学ぶべきことがたくさんある！！(教員)
- 今回そしてこれから出会う人とのつながりを大切に。(教員)
- ワークショップをやるべき。準備は大変でも効果は大きい！(教員)
- 外国籍の子も生き生きと輝く学校をつくる！(教員)
- みんなの実践を見て「あれもこれもやりたい！提案して現場で実践したい！」と“心から”思えた。(NPO/NGO)

IX 研修全体のふりかえり・評価

※受講者に対し、全ての研修終了後に実施したアンケート結果を取りまとめた。39名中38名が回答。

■ 研修への期待と満足度について

受講者の開発教育指導者研修（実践編）（以下、「指導者研修」という）に対する期待や目的は、「開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る」（95%）、「自らの視野や能力を研鑽する」（86%）、「参加型学習・ファシリテーターの能力を高める」（81%）が上位3つとなっている【設問1】。

それらの期待や目標を持った受講者は、研修に対して「とても満足できた」（82%）、「満足できた」（16%）と回答しており、満足度の高い研修であったといえる【設問2】。

設問1；指導者研修に期待したこと・目標としたことは何ですか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合
1	開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る	35	95%
2	自らの視野や能力を研鑽する	32	86%
3	参加型学習・ファシリテーターの能力を高める	30	81%
4	実践者同士で交流し、ネットワークを作る	24	65%
5	世界の現状や日本とのつながりを知る	24	65%
6	その他	2	5%
	全体（無回答1名除く）	37	100%

設問2；指導者研修は、あなたの期待（あるいは目標達成の支援）を満足させるものでしたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても満足できた	31	82%
2	満足できた	6	16%
3	ある程度満足できた	1	3%
4	あまり満足できなかった＋満足できなかった	0	0%
	全体	38	100%

■ 研修を受けた自分自身の意識の変化について

● 受講者の関心の高まり

受講者の100%が、受講後「より関心が高まった」（82%）、「関心が高まった」（18%）と回答しており、本研修が受講者の人権、環境、貧困、開発、共生、平和などに関する情報への関心の高まりに寄与しているといえる【設問3】。

設問3；研修を通じて、人権、環境、貧困、開発、共生、平和などに関する情報に関心を持つようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	受講前から関心があったが、受講後より関心が高まった	31	82%
2	受講前はあまり関心がなかったが、受講後関心が高まった	7	18%
3	受講前から関心があり、受講後も変わらない	0	0%
4	受講前はあまり関心がなかったし、受講後も変わらない	0	0%
	全体	38	100%

研修を通して、受講者自身が「地球上で起きている環境や貧困問題と自分とのつながりについての理解」したり、「国際協力について自分にできることの意識化」をしたりできたかについてみると、前者は「よくわかった」と「わかった」を合わせて94%、後者は「よく考えるようになった」と「考えるようになった」を合わせて90%となっており、本研修は受講者自身の学びや行動に繋がったといえる【設問4,5】。

設問4；研修を通じて、地球上で起きている環境や貧困の問題と自分たちの生活とのつながりがわかりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	よくわかった	25	66%
2	わかった	11	29%
3	ある程度はわかった	1	3%
4	あまりわからなかった	1	3%
	全体	38	100%

設問5；国際協力（身近な買い物から直接支援まで）について自分にできることを考えるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	よく考えるようになった	25	66%
2	考えるようになった	9	24%
3	ある程度は考えるようになった	3	8%
4	あまり考えるようにならなかった	1	3%
	全体	38	100%

■ 開発教育・国際理解教育の実践について

● 実践時間

受講者の開発教育・国際理解教育の実践時間は、「5～9 時間」が13人（34%）と最も多く、次いで、「20 時間以上」が9人（24%）、「15～19 時間」が6人（18%）となっている。平均では12.9 時間と比較的多くの時間取り組んでいるといえる【設問6】。

前年度との対比では、「前年度より増加した」が31人（82%）であり、大半の受講者が前年度よりも多い時間の実践をしている【設問7】。

増加した主な理由としては、本研修を受講して知識を得て意欲や自信が高まったことが大きな要因にもなっていることがわかる【設問8-1】。一方、実践時間が減少した主な理由も列記した【設問8-2】。

設問6；開発教育・国際理解教育の延べ実践時間

No.	選択肢	回答者数	割合
1	1～4時間	6	16%
2	5～9時間	13	34%
3	10～14時間	3	8%
4	15～19時間	7	18%
5	20時間以上	9	24%
	合計実践時間数	490	時間
	1人当たり平均実践時間	12.9	時間/人

設問7；前年度に比べた実践時間の変化

No.	選択肢	回答者数	割合
1	前年度より増加した	31	82%
2	前年度と変わらない	2	5%
3	前年度より減少した	5	13%
	全体	38	100%

設問8-1；実践時間が増加した理由は何ですか。（主な内容）

- ◇研修を通して当該教育の意義と面白さを知り、実践意欲が高まった。
- ◇教師海外研修に参加して得たことを伝えたいと思った。
- ◇研修で自分自身が学んだことを生徒に還元したいと思った。
- ◇研修を通して当該教育を行う意義と手法と具体的進め方を学び、自信がついた。
- ◇研修を通して活用できる使いやすい教材の情報を得られた。
- ◇単発ではなく「知り気づき行動する」ための流れのあるプログラムを作れるようになった。
- ◇現場における自身の開発教育導入に関する自主裁量や自由度が高く、まとまった時間を確保できた。
- ◇総合的な時間だけではなく、教科学習の中でも実践することができた。

- ◇SDGs はゴールが明確で、歴史で教えたり、地理的な広がりで見え方を関連づけたりできた。
- ◇実践しやすい学年と立場だった。
- ◇研修で実践報告をすることが決まっていた。
- ◇国際理解が総合のテーマだった。
- ◇学年全体で取り組むことができた。

設問 8-2；実践時間が減少した理由は何ですか。(主な内容)

- ◇担任ではなくなり、じっくりと取り組むことができなかった。
- ◇異動があった。
- ◇昨年度までであった高大連携講座が今年はなくなった。
- ◇昨年度と実践の学年と科目が異なった。
- ◇昨年度は自分で授業計画を作り、使える科目も 4 科目あったが、今年度は 2 教科に減った。

● 実践内容

前年度に比べて実践内容は深まったかどうかについては、「とても深まった」42%、「深まった」45%、「ある程度深まった」11%との回答が得られ97%の受講者が、実践内容が深まったとしている【設問 9】。

増加した主な理由としては、本研修を受講して知識を得て意欲や自信が高まったことが大きな要因にもなっていることがわかる【設問 10-1】。一方、実践時間が減少した主な理由も列記した【設問 10-2】。

設問 9；前年度に比べて本年度の実践内容はどのようになったと思いますか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても深まった	16	42%
2	深まった	17	45%
3	ある程度深まった	4	11%
4	あまり深まらなかった	1	3%
5	深まらなかった	0	0%
	全体	38	100%

設問 10-1；実践内容が深まった理由は何ですか。

- ◇参加型手法や流れのあるプログラムの作り方を知り、授業に取り入れた。
- ◇参加型の要素を授業に取り入れることで生徒が意欲的に活動するようになった。
- ◇ねらいが明確になり、背景にある理論を意識して実践できるようになった。
- ◇研修を通して自分自身の知識が増え、実践内容に対する見方や考え方が広がり深まった。
- ◇実践に必要な資料を集めて、独自の教材が作れるようになった。
- ◇総合的な学習の時間以外に、学活や道徳、教科教育などで参加型の手法を取り入れることができた。
- ◇具体的な問いかけや進め方のポイントなどファシリテーションについても学べた。
- ◇研修で気づいた自分の苦手分野（ジェンダー）を敢えて授業にすることで自分の意識が変わった。
- ◇学習者の年齢、関心に応じて、その意識の流れに沿ったプログラムを作るよう心掛けた。
- ◇学習者が「知り、気づく」に留まらず、行動するためのスキルを身につけられるプログラムを心掛けた。
- ◇年度始めに行事や教科を横断して考え、年間で何ができるか計画し、スパイラル型の学習ができた。
- ◇今回受講で得た新しい知識から夏休みに、年間計画を訂正しブラッシュアップした。
- ◇意識して、知識を得ることと考えるための時間を増やした。
- ◇人権、環境の知識が増え、それを参加型で学ぶ方法論を学び、それを基に授業展開することができた。
- ◇前は自分の経験だけを伝え自由にディスカッションだったが、今年は参加型で流れのある授業ができた。
- ◇教科等に縛られず様々な教科、領域、行事などで横断的に実践することができた。
- ◇学習者の実態やその時の反応に応じて、取り扱う内容や手法を変え、意欲を持続させられた。
- ◇楽しめる活動や興味関心がわくような手法を取り入れた。

- ◇研修を通して沢山のノウハウや実践に使える教材を知り実践に取り入れた。
- ◇有志ワークショップで他の受講者の方々と一緒にプログラムについて考え深めることができた。
- ◇学んだ内容を自分自身が以前より消化できて、実践に活かすことができた。
- ◇多くのことを学び、国際理解教育や環境教育の必要性を感じ、伝えたいという思いが高まった。
- ◇学びの目的を明確にし、参加型の手法を取り入れ、子どもたちが自ら考える時間が増えたから。
- ◇研修を通じた自分自身のスキルアップが、授業を通じて生徒につながっていったと思う。
- ◇教員である自身がワークショップにおいて体験的に学ぶことで、生徒の視点に立った実践ができた。
- ◇世界を身近に感じ、自分事として考えられるような授業の作り方を学び実践できた。
- ◇気づきのステップを増やし、より生徒の実態に沿うようにプログラムを組み立てた。

設問 10-2；実践内容が深まらなかった理由は何ですか。（主な内容）

- ◇自分自身の知識不足や経験不足により、よりよいファシリテーションができなかった。
- ◇3年生の担任ということもあり、あまりじっくり時間が取れなかった。
- ◇英語のオリジナル教材で実践することを自分に課したため、資料集めに時間がかかり苦労した。
- ◇時間が足りなかった。

● 参加型のスキル

指導者研修は、行動変容を支え関係性を育む「参加型」と参加型で学び合う場を提供するファシリテーターの役割を理解し、自ら習熟することをねらいに定めて実施した。これらのねらいに対し、受講者がどの程度理解し習熟したかを3つの指標で評価した結果は以下のとおりである。

1つ目の指標「気づきから行動へつながるプログラムの作成」については、「とても作れるようになった」3% 「作れるようになった」50%、「ある程度作れるようになった」45%であり、多くの受講者がプログラムの作成スキルがある程度向上したと認識している【設問 11】。

2つ目の指標「学習者主体の手法の活用」については、「とても使えるようになった」8% 「使えるようになった」55%、「ある程度作れるようになった」37%であり、プログラムの作成スキルよりも多くの受講者が学習者主体の手法の活用力が向上したといえる【設問 12】。

設問 11；研修や実践を通じて、流れに沿って気づきから行動へとつながるプログラムを作れるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても作れるようになった	1	3%
2	作れるようになった	19	50%
3	ある程度作れるようになった	17	45%
4	あまり作れるようにはならなかった	1	3%
5	作れるようにならなかった	0	0%
	全体	38	100%

設問 12；研修や実践を通じて、学習者が、主体的に考え、学習者同士が学び合えるような問いかけや参加型の手法を使えるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても使えるようになった	3	8%
2	使えるようになった	21	55%
3	ある程度使えるようになった	14	37%
4	あまり使えるようにはならなかった	0	0%
5	使えるようにならなかった	0	0%
	全体	38	100%

3つ目の指標「理解・実践した参加型の手法」については、「アイスブレイキング」92%、「派生図・因果関係図」82%、「ブレインストーミング」66%、「対比表」53%、「フォトランゲージ」50%、といった主要な参加型手法については半数程度以上の受講者が実践している。一方、「カード式整理法（KJ法）」32%、「ランキング」29%、「ロールプレイ」11%の活用は低く、使い勝手に差が現れている【設問13】。

設問13；次の参加型の手法のうち、進め方を理解し、実践した手法はどれですか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合	No.	選択肢	回答者数	割合
1	アイスブレイク	35	92%	6	指標づくり(○箇条づくり)	14	37%
2	派生図・因果関係図	31	82%	7	カード式整理法(KJ法)	12	32%
3	ブレインストーミング	25	66%	8	ランキング	11	29%
4	対比表	20	53%	9	ロールプレイ(なりきり紹介)	4	11%
5	フォトランゲージ	19	50%	10	その他	4	11%
					全体	38	100%

■ 学習者の変化や周りへの波及効果について

● 学習者の変化

開発教育・国際理解教育の実践により学習者のより良い変化があったかについては、「とても変化があった」「変化があった」「ある程度変化があった」と合わせて受講者の94%が学習者のより良い変化を実感することができている【設問14】。

より良い変化の中身については、「自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった」71%、「開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった」69%、「自分の生活を振り返り、世界の人権や環境を大切に意識が高まった」

57%、自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った」が上位5位以内に入り、約半数以上の回答率となっており、開発教育・国際理解教育の本筋のねらいの達成が実感されている。

また、「学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った」51%、「話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった」34%、「自らの生き方や共生について考えるようになった」20%といった参加型学習の導入に伴う副次的な変化の実感があつた受講者も一定以上いた。

これらのことから、受講者の実践により、「様々な課題の解決に向かおうとする意識の育成」や「自己肯定感・コミュニケーション・参加協力に関わるスキルトレーニング」に関し、学習者のより良い変化が現れているといえる【設問15】。

設問14；開発教育・国際理解教育の実践により学習者により良い変化がありましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても変化があった	10	26%
2	変化があった	20	53%
3	ある程度は変化があった	6	16%
4	あまり変化はなかった	1	3%
5	変化はなかった	1	3%
	全体	38	100%

設問 15；学習者にどのようなより良い変化がありましたか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった	25	71%
2	開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった	24	69%
3	自分の生活を振り返り、世界の人権や環境を大切に意識が高まった	20	57%
4	学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った	18	51%
5	自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った	17	49%
6	話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった	12	34%
7	自分に出来る国際協力への取組みに関心を持つようになった	11	31%
8	自らの生き方や共生について考えるようになった	7	20%
9	その他	4	11%
	全体(無回答3名除く)	35	100%

● 開発教育・国際理解教育以外の活動への波及

受講者の94%が開発教育・国際理解教育における参加型の手法や考え方何らかの活動に取り入れている。

具体的には、「コミュニティづくり(学級・地域)に取り入れた」45%、「学級の決め事に取り入れた」42%、「研修に取り入れた」27%、「ミーティング・会議に取り入れた」18%となっている【設問16】。

● 学校や団体内の他の職員への波及

所属する学校や団体内の他の教職員に対して、研修で学んだ開発教育・国際理解教育や参加型の手法などを伝えた受講者は全員であり、全受講者合計で457人、1人あたり約12人に伝えたとしている。このことから本研修は受講者により他の教職員への波及効果も得られていることがわかる。

その具体的な方法は、「日常のやりとりの中で伝えた」が70%と一番多く、次いで「研究発表(公開授業など)で伝えた」35%、「校内・団体内での報告会・研修会で伝えた」30%などとなっている【設問17】。

設問 16；参加型の手法や考え方を、自分の活動に関係することに取り入れましたか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	コミュニティづくり(学級・地域)に取り入れた	15	45%
2	学級の決め事に取り入れた	14	42%
3	研修に取り入れた	9	27%
4	ミーティング・会議に取り入れた	6	18%
5	その他	6	18%
6	どこにも取り入れていない	2	6%
	全体(無回答5名除く)	33	100%

設問 17；所属している学校や団体内において、研修で学んだ開発教育・国際理解教育や参加型の手法などを他の教職員等に伝えましたか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	日常のやりとりの中で伝えた	26	70%
2	研究発表(授業公開など)で伝えた	13	35%
3	校内・団体内での報告会・研修会で伝えた	11	30%
4	共同で教材を作成する際に伝えた	10	27%
5	その他	4	11%
6	どこにも伝えていない	1	3%
	全体(無回答1名除く)	37	100%
	伝えた人数合計	457	人
	1人あたり平均	12.4	人/人

周りへの波及の環境として、実践活動への所属する学校や団体の上司や同僚の理解については、「とても理解している」、「理解している」、「ある程度は理解している」を合わせて84%と、多くの受講者は周りの理解のもと実践活動ができている。その一方で、16%の受講者は理解が得られていない環境で実践を余儀なくされているという実態もある【設問18】。

設問18；所属する学校や団体の上司や同僚は、あなたが行う開発教育・国際理解教育や参加型の実践活動を理解してくれていますか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても理解している	6	16%
2	理解している	13	34%
3	ある程度は理解している	13	34%
4	あまり理解していない	6	16%
5	理解していない	0	0%
	全体	38	100%

● 直接提供事業と比較した本研修による学習者への還元効果

開発教育支援の一つとして行っている「JICAが直接学習者に対して教授する国際協力出前講座、JICA施設訪問プログラム等（直接提供事業）」に対し、本研修は、養成された開発教育を進める中核的な指導者が研修で得た知識や能力を生かして、自らの現場で多くの学習者に対して継続的に還元することが期待されている。

研修受講者の実践実績から、直接提供事業の場合と比較した本研修による還元効果を計算すると約35倍となった。また、研修受講者は、研修で得た知識や能力、自らの実践などを他の指導者に伝達しており、継続年数による効果と合わせて、さらなる還元効果も見込むことができるといえる。

◇研修受講者による延べ還元量＝45,330人・時間／年（受講者39人分の学習者数×実践時間）
 ◇研修投入量＝開発教育指導者研修（実践編）受講者数39人×研修時間数33時間＝1,287人・時間／年
 ◇還元効果（倍）＝45,330人・時間／年÷1,287人・時間／年＝**35.2倍**

● 開発教育・国際理解教育ネットワークづくりへの波及

1年間の研修や実践を通じた開発教育・国際理解教育ネットワークは、ほとんどの受講者ができたとしている。具体的内容は、「受講者同士」95%、「フォーラム参加者」39%、「実践を通じたネットワーク」5%となっている【設問19】。

また、現在および今後の開発教育・国際理解教育を実践・推進する団体への加入意向について聞いたところ、「参加していないが、機会があれば参加したい」が68%と多く、受講者が新たな継続的なネットワークへの加入意向が見られた【設問20】。

設問19；1年間の研修を通じて、開発教育・国際理解教育のネットワークができましたか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合
1	受講者同士でできた	36	95%
2	フォーラム（第2部含む）参加者でできた	15	39%
3	実践を通してネットワークができた	2	5%
4	その他	1	3%
5	できなかった	1	3%
	全体	38	100%

設問20；当該教育を実践・推進する団体等※に関する状況や意向を教えてください。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合
1	参加していないが、機会があれば参加したいと思う	26	68%
2	当該教育団体やネットワークに参加している	8	21%
3	参加しているが、他のところにも参加したいと思う	4	11%
4	参加していないし、今後とも参加したいとは思わない	2	5%
5	その他	1	3%
	全体	38	100%

■ 全体を通して

● 最も大きな学びや変化

「受講者の1年間の研修を通じた最も大きな学びや変化」についての回答は、以下のとおりである【設問 21】。

設問 21；1年間の研修を通して、あなたの最も大きな学びや変化は何でしたか？

(地球市民として、教育実践者として、次年度以降の実践の意欲に関してなど)

<開発教育・参加型のノウハウ習得/実践効果の実感/ノウハウの向上>

- ◇参加型で学ぶと学び手に変化が起こることを改めて感じた。日常の授業・学級づくりを参加型で実践する。
- ◇参加型の手法を学んだこと。
- ◇世界の課題についての授業はどうしても知識を教える形になりがちだったが、参加型の手法を取り入れることで、子どもたちに実感と納得のある知識、学びを提供できるようになった。また、この手法は他教科でも取り入れることができ、学び合いのある授業づくりに役だった。
- ◇参加型手法を普通の授業の中で取り入れることができたこと。
- ◇ファシリテーターの語りがとても重要であること。参加型での授業展開を考える機会が増えた。
- ◇学習者が主体的に取り組めるような手法や課題の選定をするようになった。
- ◇子どもたち自身が人種や文化の違いなどものともせずに対等に繋がり、肯定的に関わっている姿を通して、大人の一人として感動をし、たくさんの人にこの光景を見て欲しいと思った。
- ◇職場の研修やミーティング等に、「この手法を取り入れてみよう」と思える場面が増えた。学んだことが実生活に活かせるようになってきたと思う。授業においても学校経営全体においても、「ねらい」「ねがい」は何かを軸に考えられるようになった。

<学び続ける意欲・実践へのモチベーション向上>

- ◇自分にできることは小さなことかもしれないが、国際理解教育の実践を続けていこうと思えたこと。
- ◇国際理解教育や実践法について更に学びを深め、実践を続けていきたい。
- ◇一人でも多くの子どもの成長を促すために、もっと研鑽に努めようとするモチベーションが上がったこと。
- ◇フォーラムの第2部で、今までの研修を受講した方と関わり、様々な情報を得て、こんなにも私の回りに意識が高く実践をしようとする人がたくさんいるのだと知り、自分ももっと多くの実践を今後も継続していきたいと思った。
- ◇国際理解教育には、まだ自分が知らない切り口がたくさんある。だからこそ、視野を広げることが自分にできることを増やすことにつながると感じた。繰り返し学んだり、考えたりすることで自分のものとなり、実践力につながる。発信を続けて仲間を増やしたい。
- ◇国際理解教育の実践方法を学ぶことができ、今年度実践した結果、反省点が残ったので、来年度よりよい実践をしたいと思う。また、今年度は、国際理解教育を広げることがあまりできなかったのも、今あるカリキュラムを見直し、他の教員にも広げていきたい。
- ◇常に学ぶ姿勢は持っているつもり、教育実践者という言葉は教師よりもいい言葉。どれだけ、人の心を揺さぶることができるかが、教育実践者としての肝だと思っている。
- ◇開発教育を実践することの大切さ。同志から刺激をもらったこと。来年度も実践したいという意欲が湧いた。
- ◇教師海外研修にも強く興味を持った。自分自身が実際に五感で感じたことを日本の子どもたちに伝えることで、質の高い気づきを与えることができると思っているから。

◇今回、研修に参加するという行動によって、たくさんの刺激と、たくさんの意欲的に活動をする同じ教員という立場の人と知り合うことができた。改めて行動することの大切さを感じた。

◇自分の弱いところがわかり、もっと意欲が湧いた。

<自分の意識・行動・活動の変化>

◇表面的なことだけでなく、その裏に隠れている物事まで気にするようになった。

◇SDGsに関する実践をし、自分自身も環境など（必ずエコバックを使う）に配慮した行動をするようになった。教育活動全般で参加型の手法を取り入れることを考えるようになった。

◇自分の消費活動など、身近なこと一つひとつが地球市民として世界とつながっていることに気づき、行動や興味を持つものが変わった。

◇職場では市内の小学校教員を中心に、月1回の学び合いの場を作った。不登校、初任者の悩み相談、小中のつながりの在り方、特別支援など様々なテーマで参加型の手法を発信しつつ共に学ぶ場として、楽しく学習している。

◇家族でSDGsの話題が多く出るようになった。特に、世界の子どもたちの貧困についての話題は衝撃を受けているようで、教師海外研修への挑戦にも背中を押してくれた。身近からどんどん変わり始めた1年だった。

◇自分の生活を振りかえり、本当に必要なものなどを考えるようになった。自分の時間の使い方を振りかえり、自分の生き方について考えるようになった。今の世界についてまだまだ知らないことがあったため、今後も学び続けたいと思った。今の子どもたちに今の世界・日本・環境について考えさせる大切さを伝える必要を感じ、来年度は今協力隊として派遣されている同僚と共同で国際理解教育を行っていく予定である。

◇同じ職場の教員に、少し広めたこと。

◇自分が発信者になることがなかなかできていなかったが、子どもたちや周囲の人を信じること、伝えてみれば変わることを実感した。

◇研修前は「学んだことや手法をそのまま使う」というイメージでいたので現在の職場では意味がないと思っていた。でも今回の受講で、いろんなかたの実践報告を聞いて、「このやりかたは、少し工夫すれば私の職場でも使えるかも」と考えられるようになった。

◇自分自身が児童に授業をするに当たり、海外の様々な問題について学び、世界や環境に対して問題意識を以前よりも持つようになった。環境に対しての行動も変化した。

<価値観の変化・視野の広がり>

◇生徒と世界をつなげたいと思って参加した研修だったが、誰よりも自分自身の環境、人権、貧困などに対する考え方が変わったように感じている。

◇パラグアイに行き、日本とのつながりや現地の様子を知ることで、価値観の変化があった。様々な人との出会い、自分の視野が広がった。

◇教員人生が大きく変わった。今後も参加したい、新たに出会った仲間と新たなネットワークも広げていけたらうれしい。

◇SDGsの授業への取り入れ方を考えた際に、教科横断型の見方、考え方が広がった。

◇世界のことを知り、考え方がとても柔軟になった。自分の人生の在り方を考えるきっかけになった。

<教育の使命の再確認／教育観の変化>

◇教師としてもっと「世界」に向けて国際理解教育について考える必要性を再確認した。教育に対してより情熱を持てるようになった。

◇今まで、「教科書を教える」のか「教科書で教えるのか」と自分自身に問いかける教員人生を送ってきた。しかし、この研修を通してこの考え方が大きく変化した。この1年間で、「学ぶ意欲」や「自由に学ぶ」という、子どもたちが主体的に学ぶ学習に変わった。人権、環境、こどもたちの貧困の3つのターゲットで授業を作ったが、どの授業でも、家庭学習で自主的に調べたことを話しに来る児童が多くおり、授業外の学習にまで発展した。わたしが想像している以上に、子どもたちは学ぶことを楽しんでいて、子どもたちが行った行動宣言により、すでに動き始めた。その行動に賛同し、協力できるような学校・地域・社会になるように、今後も実践を行っていききたいと思う。

◇社会に求められる人材を育成することばかりに視点をおくものが高校教員だと思っていたが、臨む社会をつくるグローバル人材の育成が自分の目指すものだ気づいた。

◇教育者として、各教科の内容や子どもたちの人間性を育てることも大切であるが、それ以上に持続可能な社会を創っていくための教育をすることが大切であり、自分の使命であると考えようになった。

◇教員という立場として、児童に世界や環境の問題を伝える事の大切さを非常に感じた。研修で学んだことを基に、来年度以降も引き続き学び続け実践をしたいと思った。

◇今後は、グローバル人材育成に力を入れていこうと思った。

<継続の必要性と続けることの意義>

◇単発的な実践に終わらせるのではなく、継続して教育実践していくことが、個人の深いところでの意識や行動変容には必要なこと。学年が変わっても、継続した実践が必要である。

◇継続して補足長く実践していく手応えを得ました。

◇いきなり変えようとするのではなく、まずは小さなことからでも続けて活動していくことの大切さ。

■ 研修・実践報告フォーラムをより良くするための提案

● 開発教育指導者研修(実践編)の良かったところ

◇いろんな価値観の人たちとグループになり話し合えたのは、見識を広めるうえで有益だった。

◇研修の中でプログラムを作成し、受講者同士でアドバイスをし合うことができた。

◇受講者が現場で実践しているアイスブレイクの体験ができた。

◇多くの手法の流れに沿って学習できた。 ◇ファシリテーションスキルについても学べた。

◇様々な意見や価値観が大切にされる経験。

◇ワークショップ作成に関して NIED からのフォローがあった。

◇様々な方と関わることができ、他地区の現状や実践について知ることができた。

◇NIED のファシリテーションがとても勉強になるし、心動かされる。

◇国際理解教育だけではなく、ファシリテーターの役割について学べたところがよかった。

◇参加型授業を意識し、授業力の向上にもつなげていきたいと思った。

◇参加型の手法がまとめられた資料や他団体の実践例の紹介（セーブザチルドレンなど）があった。

◇すべて良い。巻き込んでもらえるのがありがたい。

◇参加型手法を学び、自分の実践に取り入れることができ、かなり有効だった。

- ◇実際にたくさんの手法を体験することで自分のものになるところ。
- ◇この1年で終わらないきっかけ、つながりづくりをしているところ。
- ◇第3回の研修でプログラム作りを練習できたことで、初めてでも実践に取り組みやすかった。
- ◇第4回の1日目で実践報告をする練習ができたこと。
- ◇一人ひとりの参加者を大切にして、研修の場で起きる様々な化学反応を学校に持ち帰ることができた。
- ◇3回目の参加だが、「楽しかった・よかった」だけではなく、よりよくするための場があること。
- ◇本当に学びが多く、新しく知ることに満ち溢れた最高の研修。
- ◇昨年度に増して参加者の積極的な発言の場面が多く（アイスブレイキングなど）、より刺激を受けた。
- ◇実際の現場でも活用できる手法を使って講習が行われている点。
- ◇SDGsについて、貧困・環境と分けてのプログラムだったので、私的にはすごくよく理解ができた。
- ◇様々な参加型の手法を毎回他の参加者と共に体験することで、やり方を学ぶことができ参考になる。
- ◇昨年、一昨年の研修で行ったものだけでなく、新しい内容や情報・手法があり自分の実践の幅が広がった。

● 開発教育指導者研修(実践編)のより良くするための提案

<研修内容に関する提案>

- ◇受講者によるアイスブレイクもよいが、講師提供によるものの方が、学びがあり現場に還元できる。
- ◇簡単で単純だけどハッとさせられた頭を使う「後出しジャンケン」のような手軽で深い気づきのあるアイスブレイク、ワークショップのノウハウ、プログラムの作り方、考え方など実践的なものを学べるとよい。
- ◇学校教育のカリキュラムに即した内容（例：年間指導計画書での位置付け等）に関する理論の学びがあれば、より開発教育・国際理解教育の学校現場での推進を実現できる。
- ◇受講者によって作業量に偏りがあった。できるだけ一部の人に負担がかからない配慮があるといい。
- ◇今後も今年度のように内容を一部新しくして、さらに実践の幅を広げることができるようなもの hoping する。
- ◇今年同様、多くの参加型手法を取り入れたプログラムを続けてほしい。
- ◇フォーラム向けワークショップづくりは、学ぶことがとても多いので継続してほしい。

<研修の日程・枠組みに関する提案>

- ◇プログラムの内容は全て魅力的で最高だったが、3回目4回目の研修時間が長く少々大変だった。可能であれば、もう少し回数を増やして1日の時間を減らす、またはネットで参加できるようにするなど考えてみてはどうか。
- ◇研修回数を増やしてほしい。

<募集方法、その他>

- ◇出版社などのメディアへの広報をするといい。
- ◇NIED が提供する研修、ファシリテーターの話がとても心に響く。ずっと継続してほしい。
- ◇これからもNIEDのみなさんにファシリテートしていただきたい。
- ◇NIED&ファシリテーターの伊沢さんにずっと継続してほしい。
- ◇北陸でもNIEDにより研修を行ってほしい。

● 実践報告フォーラムの良かったところ

- ◇実践を聞きにきて下った方から質問をたくさんもらえたことがうれしかった。
- ◇集まった 200 名近くがそれぞれに興味と関心を持ち意欲をもって学習にあたらうとしていることを感じながら発表できたことに幸せを感じた。
- ◇つながり、ネットワークを作る場が実現したこと。
- ◇時間が限られている中で多くのプログラムがありとても濃い内容だった。
- ◇憧れの K 先生、M 先生と同じ舞台上で学習できたことが幸せだった。
- ◇今年度の受講者とのつながり（特に有志ワークショップのメンバー）に感謝。来年度も、たくさんのことに挑戦できるようにアンテナを張って精進しようと思った。
- ◇ポスターセッションでの実践報告ができたこと、仲間の実践を聞いたこと。
- ◇当日はスムーズでとても行動しやすかった。準備に感謝。
- ◇過去の受講者も集まって下さり縦のつながりができたこと。
- ◇初めての参加者にも、興味を持ち実践につながる国際理解教育について知ってもらえたこと。
- ◇参加者同士の学び合いができ、つながりができたのがよかった。
- ◇つながりネットワークは実際のつながりになり、よかった。
- ◇第 4 回研修の中で 6 人、フォーラムで 3 人、他の受講者と発表内容を共有できるのがいい。
- ◇過年度受講生がかなり多く参加していて、アドバイスももらえたこと。
- ◇一般参加者に、研修のねらいや意図が伝わるとこと。次の参加者を生む仕掛け（期待感）があること。
- ◇第 1 部と第 2 部があり、それぞれのねらいに合わせて参加者と充実した時間を過ごせ濃い話しができた。
- ◇ギャラリー方式。好きなものを聞く今のスタイルがベターなんじゃないでしょうか？
- ◇運営方法等全てよかった！
- ◇つながりワークショップが参加者のニーズに合っていたこと。（終わりました。現場に戻ります→気持ちの継続が難しい、モチベーションをどうしたら保てる？に答える内容だった。）
- ◇多くの人参加があり、去年自分の実践報告を見に来てくれた人が今年も関心を持ち見に来てくれた。
- ◇午後のワークショップのファシリテーターをした。一緒にプログラムを作ったメンバーのアイデアがとても参考になった。当日は一般参加者の意見も聞くことができ勉強になった。
- ◇あっという間に過ぎた 1 日、あまりよく覚えていないけれど、やりきったという達成感が得られた。
- ◇たくさんの人に実践を伝えることは大切だと思った。
- ◇もの凄く疲れたが、良い刺激を沢山もらった。
- ◇実践報告をすることは、自分の授業の振り返りをする良い機会になった。たくさんの方々と話し、来年度以降の授業について様々なアイデアを得ることができた。
- ◇ワークショップが 2 時間あり、内容が深められた。
- ◇ポスターセッション→有志ワークショップ→つながりワークショップの流れは、とても濃密で素晴らしいと思うので今後も続けてほしい。
- ◇当日参加者と実践者との距離に近さを継続してもらいたい。

● 実践報告フォーラムをより良くするための提案

主なものは以下のとおり。

<教師海外研修>

◇教師海外研修のメンバーは、有志ワークショップには参加せず、海外研修報告に集中する方がいい。

<ポスターセッション>

◇もっとたくさんの方の実践を聞いてみたかった。受講者の発表を午後の部でも行ってはどうか。

◇可能であれば、一般の参加者ともう少しゆっくり話せる時間があるといい。

◇「もう少し質問がしたい」「この発表聞きたかった」という場面が何度かあった。ポスターセッション後 10 分くらいフリー質問タイム（トイレ・休憩なども OK）など儲けてもよいかも。

◇もう少し時間を長く取れれば、受講者同士でもアドバイスや提案をしあうことができる。

◇一人ひとりプレゼンを動画にすることできないか。JICA のホームページとかに載せると写真より伝わる。

◇開会式終了後から奇数番号の報告開始まで、5 分程度時間を取ると準備がしっかりできていい。

<実践体験ワークショップ>

◇参加者とフリーディスカッションをする時間があると内容に対する理解が更に深まると思った。

◇大人数で作るワークショップなので、チーム内で役割分担をしてお任せになってしまうよう、内容やファシリテーターが変わる時のつなぎなどを確認する時間が前日にあるといい。

<ネットワーク会合>

◇過年度受講者と直接話ができる第 2 部は今後も継続してほしい。

◇これまでの受講者と一緒にワークショップができたことはよかったが、集中力を維持できなかった人も多かったよう。時間を 1 時間にするなどできたらいいのかなと思う。

<広報>

◇英語の授業実践や国際理解教育について関心を持つ人だけではなく、多様な人に来てもらうために、「SDGs」「環境問題」「人権問題」といったキーワードをちらしに書いてはどうか。

◇小学校 1 年生に対してはどう国際理解教育を勧めたらいいのだろう？と悩んでいる若い教員に向けて、「フォーラムに来れば情報が得られる！」というような文言があると来たいと思うのではないか。

2019年度 開発教育指導者研修 報告書

発 行 2020年3月

発 行 者 独立行政法人国際協力機構 中部センター（JICA 中部）

〒453-0872 名古屋市中村区平池町4丁目60-7

Tel : 052-533-0220 (代表) Fax : 052-564-3751

<http://www.jica.go.jp/chubu/>

